## 4. 地業工事

### ⊙ 砂利地業

材　料 (4.6.2)
⊙再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ (4.6.3)
□ 60mm　・
範　囲
⊙基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・図示による(　　)

### ⊙捨コンクリート地業

範　囲 (4.6.4)
⊙基礎梁下、土に接するスラブ下
・図示による(　　) (4.6.4)
厚　さ
□ 50mm　・
設計基準強度 (4.6.4)
□ 18N/mm²・
スランプ (4.6.4)
□ 15cm又は18cm　・

### ⊙ 床下防湿層

材　料 (4.6.2)
⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
範　囲 (4.6.5)
⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
・

### ⊙ 地盤改良工法

種類及び施工方法等
⊙図示による(　Sa-01　)　・

## 5 鉄筋工事

### ⊙ 鉄筋

鉄筋の種類等 (5.2.1)

| 種類の記号 | 呼び径(mm) | 備　考 |
|---|---|---|
| ⊙ SD295 | D10,D13,D16 | |
| ・SD345 | | |
| ・ | | |
| ・ | | |

### ・溶接金網

鉄線の形状等 (5.2.2)

| 種　類 | 種類の記号 | 鉄線の形状、網目寸法、鉄線の経(mm) | 使用部位 |
|---|---|---|---|
| ・溶接金網 | | | |
| ・鉄筋格子 | | | |

### ⊙鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等 (5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)

| 部　位 | 継手の方法 | 呼び径(mm) |
|---|---|---|
| 柱、梁の主筋 | ・ガス圧接　・機械式継手<br>⊙ 重ね継手　・ | D10,D13,D16 |
| 耐力壁の鉄筋 | ・重ね継手　・ | |
| その他の鉄筋(　　) | ・重ね継手　・ | |

継手位置
⊙図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)5.1 (5.3.4)
・

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
⊙図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1 表3.1)

耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)
・図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1 表3.1)
・図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(a)(3))
・

鉄筋の定着長さ
⊙図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(b)) (5.3.4)
⊙図示による(木造基礎構造標準図4.(h))

### ⊙鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む)

(5.3.5)
最小かぶり厚さ
⊙図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)表4.1)
⊙図示による(木造基礎構造標準図4.(g))

軽量コンクリートを適用する場合
・あり　適用箇所(　　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ　(　　)mm
・

耐久性上不利な箇所がある場合
(塩害等を受けるおそれのある部分等)
・あり　適用箇所(　　)
・最小かぶり厚さに加える厚さ　(　　)mm
・

### ⊙ 各部配筋

各部配筋 (5.3.7)
⊙図示による(構造関係共通事項(配筋標準図))
・

## 6. コンクリート工事

### ⊙コンクリートの類別

コンクリートの類別 (6.2.1)
□ Ⅰ類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
・Ⅱ類(JIS A 5308に適合したコンクリート)

### ⊙コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

・普通コンクリート (6.2.1～4)(6.3.2)

| 設計基準強度(N/mm²) | スランプ(cm) | 気乾単位容積質量(t/m³) | 適用箇所 |
|---|---|---|---|
| ⊙24 | ⊙18 | ⊙2.3程度 | ⊙全箇所 |
| ・ | ・ | ・ | |
| | | | |

構造体強度補正値　□標準仕様書 6.3.2による　・

・軽量コンクリート (6.2.1～3)(6.3.2)(6.10.1,2)

| 設計基準強度(N/mm²) | スランプ(cm) | 気乾単位容積質量(t/m³) | 種類 | 適用箇所 |
|---|---|---|---|---|
| ・ | □ 21　・ | ・ | ・1種 ・2種 | |
| ・ | ・ | ・ | | |
| | | | | |

構造体強度補正値　□標準仕様書 6.3.2による　・

### ⊙セメント

種　類 (6.3.1)
□普通ポルトランドセメント、高炉セメントのA種、シリカセメントA種
又はフライアッシュセメントA種　適用箇所(　　)
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする
・高炉セメントB種　G　適用箇所(　　)
・フライアッシュセメントB種　G　適用箇所(　　)
・

### ⊙骨　材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
□ A　・B

### ⊙混和材料

⊙混和剤 (6.3.1)
混和剤の種類
□ 標準仕様書 6.3.1(4)(a)による
⊙混和材 (6.3.1)
混和材の種類
□ 標準仕様書 6.3.1(4)(b)による

### ・寒中コンクリート

適用期間 (6.11.1)
・図示による(　　)　・
・

構造体強度補正値 (6.11.2)
⊙標準仕様書 6.11.2(3)(ｱ)による
・積算温度による

### ・暑中コンクリート

構造体強度補正値 (6.12.2)
□ 6N/mm　・

### ・マスコンクリート

適用箇所 (6.13.1)
・図示による(　　)　・
セメントの種類 (6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種　G
・フライアッシュセメントB種 G
・シリカセメント
混和材料 (6.13.2)
・混和剤
混和剤の種類
標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による
・

・混和材
混和材の種類
標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による
・

スランプ (6.13.2)
□ 15cm　・

構造体強度補正値　・　□標準仕様書表6.13.1による (6.13.2)

### ⊙ 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
・　□ 普通コンクリート
セメントの種類
□普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種
又はフライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種　G
・フライアッシュセメントB種 G
設計基準強度 (6.14.1)
□ 18N/mm　・
スランプ (6.14.1)
□ 15cm又は18cm　・
適用箇所 (6.14.1)
・
□ 標準仕様書 6.14.1(4)(ｱ)～(ｶ)による

### ・流動化コンクリート

適用箇所 (6.15.1)
・図示による(　　)

### ⊙打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置
⊙図示による(　　)
目地寸法 (6.6.4)
・標準仕様書 9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による　・
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 (6.8.1)
⊙図示による(　　)

### ⊙構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)

| 種　別 | 適用箇所 |
|---|---|
| ・A種 | |
| ・B種 | |
| ・C種 | |

コンクリートの仕上りの平たんさ (6.2.5)

| 種　別 | 適用箇所 |
|---|---|
| ・a種 | |
| ・b種 | |
| ・c種 | |

### ・打増し厚さ(打放し仕上げ部)

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.1)
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・20mm　・

### ⊙ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
⊙合板(※12mm　・G )　・

・断熱材を兼用した型枠材の使用 (6.8.2)
使用箇所
・図示による(　　)　・

・MCR工法用シートの使用 (6.8.2)
適用箇所
・図示による(　　)　・
打増し厚さ　・20mm　・
打増し範囲　・図示による(　　)　・

スリーブの材種・規格等
・図示による(　　)　・ (6.8.2)

### ・コンクリートの単位水量測定

実施要領
・図示による(構造関係共通事項(構造関係共通事項) 構ー2
施工方法等計画書関連等コンクリートの単位水量測定)
・

### ⊙コンクリートの強度試験

・図示による(木造基礎構造標準図8)

## 構造概要等

### 1.建物概要等

#### 建物概要

| | | 備考 |
|---|---|---|
| 工事名称 | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 | |
| 工事場所 | 東京都新宿区内藤町11 | |
| 延べ面積 | ( 456.71 )㎡ | |
| 建築面積 | ( 456.71 )㎡ | |
| 階数 | 地上1階 | 階数に算入しない階<br>⊙無し ・有り( ) |
| 高さ関係 | 高さ( 7.29 )m<br>軒高( 4.83 )m | |
| 工事種別 | ・新築・増築・改築・移転<br>・大規模の修繕・規模の模様替 | |

#### 構造概要

| | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 構造種別 | 地上 | 木造<br>木造 | 地下 | なし<br>なし | |
| 架構形式 | X方向 (木造在来軸組)構造<br>Y方向 (木造在来軸組)構造 | | | | |
| 耐震構造方式 | ⊙耐震構造 ・制振構造<br>・免震構造(免震層の位置 ・基礎下免震 ・中間階免震( )階 | | | | |
| 基礎方式 | ⊙直接基礎(・独立 ・連続 ○べた ・ )<br>・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭 ・既製コンクリート杭<br>・耐震構造・鋼管杭 ・ ) | | | | 適用箇所は図示による<br>( ) |
| 耐震安全性の分類 | ・Ⅰ類(1.5) ・Ⅱ類(1.25) ・Ⅲ類(1.0) | | | | |

### 2.構造設計条件等

#### 計算方法

| | X方向 | Y方向 | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 許容応力度計算(令第82条各号＋令第82条の4【ルート1】 | ○新御殿 | ○新御殿 | X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する |
| 許容応力度等計算 【ルート2】 | | | |
| 保有水平耐力計算 【ルート3】 | | | |
| 限界耐力計算 | | | |
| その他の計算法( 令46条壁量計算 ) | | | |
| 特別な検証法(時刻歴応答解析による) | | | |
| 大臣認定(認定番号 ) | | | |
| 指定性能評価機関名( ) | | | |
| 評価 ・高層評価 ・免震評価 ・その他 | | | |
| (評価番号 ) | | | |

#### 外力等

| | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 地震力 | 設計用一次固有周期 ( )秒 | | | 適用:新御殿 |
| | 地震地域係数(Z) | Z=⊙1.0 ・0.9 ・0.8 ・0.7 | | |
| | 地盤の種別 | 第( 2 )種地盤 Tc=( )秒 | | |
| | 標準せん断力係数 | X方向 | Y方向 | |
| | 一次設計 | Cx=( 0.2 ) | Cy=( 0.2 ) | |
| | 二次設計 | | | |
| 風圧力(施行令第87条) | 地表面粗度区分 | 基準風速(V0) | 速度圧(q) | |
| | ・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | ( 34 )m/s | | |
| 風圧力(施行令第82条の4) | 地表面粗度区分 | 基準風速(V0) | 平均速度圧(q̄) | |
| | ・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | ( 34 )m/s | | |
| 積雪荷重 | 区域 | ・多雪区域 ⊙多雪区域以外 | | |
| | 設計垂直積雪量 | ( 30 )cm | | |
| | 単位荷重 | ( 20 )N/m²/cm | | |
| | 垂直積雪量の低減 | ・低減する ○・低減しない | | |

| 積載荷重 | | 床用 | 柱梁基礎 | 地震 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 一般部床 | 2900 N/m2 | 2400 N/m2 | 1300 N/m2 | 令85条 百貨店 |
| | 縁側 | 1800 N/m2 | 1300 N/m2 | 600 N/m2 | 令85条 屋上広場 |
| | 屋根 | 600 N/m2 | - | - | 短期荷重として検討 |

### 3.地盤調査資料

・当該敷地の既往調査報告書
⊙当該敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査結果(今回工事に含まれる地盤調査については構造図を参照)
実施した試験;標準貫入試験、SWS試験、室内土質試験

### 4.液状化対策

・有り
(範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照)
⊙無し
・

### 5.軽微な変更への対応(あらかじめの検討)

施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更等(位置の変更)
施工誤差を考慮して構造耐力上支障がない検討が行われている部分

・くいの芯ずれを考慮した検討
許容誤差( )
・小ばりの位置の変更を見込んだ大ばり等の検討
・大きさの変更を見込んだスラブ等の検討(屋根床版含む)
・はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
・壁開口の位置の変更を見込んだ検討
・スラブの開口及び段差の変更を見込んだ検討
・間柱の位置の変更を見込んだ検討

## 構造関係共通事項（共通事項）

構-1 総則

### 1.1 適用範囲

(1)構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。

(2)構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。

### 1.2 優先順位

設計図書の図面のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項)
2. 構造関係共通事項(配筋標準図)構造関係共通事項(鉄骨標準図)

### 1.3 特記仕様

(1)項目は、番号に⊙・ 印の付いたものを適用する。
(2)特記事項は、○・ の付いたものを適用する。
(3)⊙印の付かない場合は□ 印の付いたものを適用する。
(4)⊙印と○□ 印の付いた場合は共に適用する。

### 1.4 用語の定義

(1)構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。
(2)異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
(3)長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

### 1.5 記号等

図面で使用する記号等は表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号

| 区分＼径 | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建築 | ∘ | × | ⌀ | ○ | ○ | ⊙ | ⊗ | ◎ |

表1.2 各階伏図における記号

| 記号 | 説明 | 記号 | 説明 |
|---|---|---|---|
| (S) | スラブの配筋種別 | | 杭の位置 |
| | スラブ厚さ | | 試験杭の位置 |
| | 階段の配筋種別 | | 打増しの範囲 |
| (D0) | 土間コンクリート | | スラブ開口 |
| | コンクリートブロック壁(CB壁) | | ボーリング位置 |
| | 梁・スラブの上がり下がりの範囲 ) | | FLからの上がり下がり |
| EW○○<br>EKW○○<br>ERW○○ | 耐力壁<br>片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁<br>土圧を受け、かつ耐力壁 | | |

表1.3 梁貫通孔記号

| 区分＼径 | 50 | 75 | 100 | 125 | 150 | 175 | 200 | 225 | 250 | 275 | 300 | 325 | 350 | 375 | 400 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建 築 | | | | | | | | | | | | | | | |

表1.4 スリーブ材質の凡例

| 管 名 | 鋼 管 | 溶融亜鉛めっき鋼版 | 硬質塩化ビニル管(薄肉管) | つば付き鋼管(黒管) |
|---|---|---|---|---|
| 記号(建築用) | SP(白管) | GA | VU | RS |

□建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5 高力ボルト径の記号

| 区分＼径 | M12 | M16 | M20 | M22 | M24 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高力ボルト(F10T、S10T) | ○ | | | | |
| 溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T相当) | | | | | |

表1.6 普通ボルト径の記号

| 区分＼径 | M12 | M16 | M20 | M22 | M24 |
|---|---|---|---|---|---|
| 普通ボルト | ○ | | | | |

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類別記号

| 分 類 | | | 記 号 |
|---|---|---|---|
| 溶 接 継 手 | 完全溶込み溶接 | 突合わせ継手 | B |
| | | T型継手 | T |
| | | かど継手 | L |
| | 隅肉溶接 | | F |
| | 部分溶込み溶接 | | P |
| | フレア溶接 | | FL |
| 溶 接 面 | 片面溶接 | | 1 |
| | 両面溶接 | | 2 |

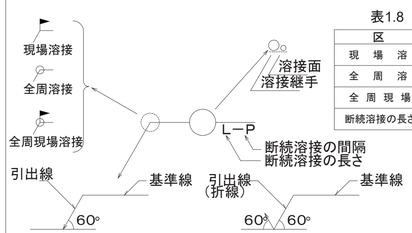



表1.8 溶接の補助記号

| 区 分 | 補助記号 |
|---|---|
| 現 場 溶 接 | ⚑ |
| 全 周 溶 接 | ○ |
| 全 周 現 場 溶 接 | ⚑○ |
| 断続溶接の長さ及び間隔 | L－P |

□特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

図1.1 溶接記号の記載例

構-2 施工方法等計画書関連等

| 項 目 | 特 記 事 項 |
|---|---|
| 1.コンクリートの単位水量測定 | (1)単位水量の測定は、150㎥ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。<br>(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(2)(ⅲ)による。<br>(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。<br>1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/㎥ の範囲にある場合はその運搬車のレディーミクストコンクリート(以下「生コン」という。)を合格とし、そのまま打設する。<br>2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/㎥ の範囲にある場合は、その運搬車の生コンを合格とし打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/㎥ 以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。<br>3)測定した単位水量が設計値±20kg/㎥ を超える場合は、その運搬車の生コンを不合格とし、打設せずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m 以内になるまで運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/㎥ 以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。<br>4)3)により不合格となった生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。<br>(4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により監督職員に提出する。<br>(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該生コン生産者以外の機関とする。 |


KAP
一級建築士事務所第56306号 株式会社KAP 東京都千代田区富士見２－４－９ 1階
管理技術者 桐野 康則 (一級建築士第272618号)
構造主任技術者 萩生田秀之 (一級建築士第341678号)
担当技術者 池谷 聡史 (一級建築士第367949号)

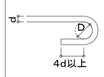
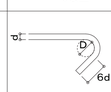
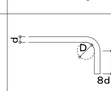
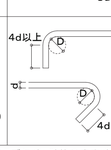
香 山 建 築 研 究 所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者 長谷川幹久 (一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者 松本 洋平 (一級建築士第367970号)

# 構造関係共通事項(配筋標準図)

## 1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

| 折曲げ角度 | 折曲げ図（余長） | 鉄筋の種類 / 呼び名 | 折曲げ内法直径(D) SD295A SD295B,SD345 D16以下 | SD295A SD295B,SD345 D19～D38 | SD390 D19～D38 |
|---|---|---|---|---|---|
| 180° |  | | 3d以上 | 4d以上 | 5d以上 |
| 135° |  | | | | |
| 90° |  | | | | |
| 135°及び90°（幅止め筋） |  | | | | |

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

## 2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

（1）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

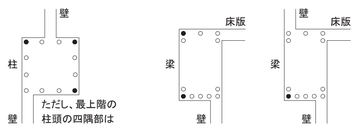



図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（3）杭基礎のベース筋
（4）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

## 3.1 継手及び定着

（a）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（2）柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²) | L 1(フックなし) | L 1(フックあり) |
|---|---|---|---|
| SD295A SD295B | 18 | 45d | 35d |
| | 21 | 40d | 30d |
| | 24, 27 | 35d | 25d |
| | 30, 33, 36 | 35d | 25d |
| SD345 | 18 | 50d | 35d |
| | 21 | 45d | 30d |
| | 24, 27 | 40d | 30d |
| | 30, 33, 36 | 35d | 25d |
| SD390 | 21 | 50d | 35d |
| | 24, 27 | 45d | 35d |
| | 30, 33, 36 | 40d | 30d |

（注）1. $L_1$ ,$L_{1h}$:フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合の$L_{1h}$は、図3.1に示すようにフック部分ℓを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

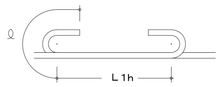
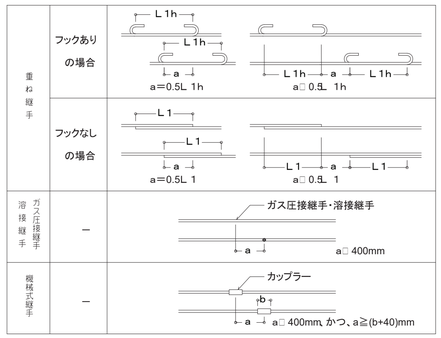



図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

（3）耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）又は表3.1の鉄筋の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（4）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置




（b）鉄筋の定着
（1）鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²) | 直線定着の長さ L1 | L2 | L3 小梁 | L3 スラブ | フックあり定着の長さ L1h | L2h | L3h 小梁 | L3h スラブ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD295A SD295B | 18 | 45d | 40d | 20d | 10d かつ 150mm 以上 | 35d | 30d | 10d | ― |
| | 21 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 24, 27 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| | 30, 33, 36 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| SD345 | 18 | 50d | 40d | | | 35d | 30d | | |
| | 21 | 45d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 24, 27 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |
| | 30, 33, 36 | 35d | 30d | | | 25d | 20d | | |
| SD390 | 21 | 50d | 40d | | | 35d | 30d | | |
| | 24, 27 | 45d | 40d | | | 35d | 30d | | |
| | 30, 33, 36 | 40d | 35d | | | 30d | 25d | | |

（注）1. $L_1$ , $L_{1h}$: $L_2$. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. $L_2$ , $L_{2h}$: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. $L_3$ :小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. $L_{3h}$ :小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分ℓを含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

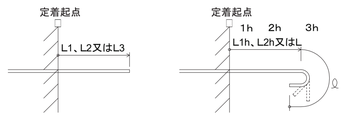



図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（2）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の（ｉ）、（ⅱ）及び（ⅲ）をすべて満足するものとする。
（ｉ） 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
（ⅱ） 余長は8d以上
（ⅲ） 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

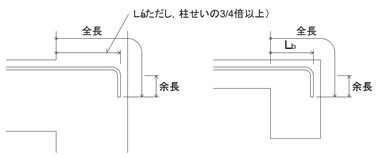



図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

| 鉄筋の種類 | コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²) | La | Lb |
|---|---|---|---|
| SD295A SD295B | 18 | 20d | 15d |
| | 21 | 15d | 15d |
| | 24, 27 | 15d | 15d |
| | 30, 33, 36 | 15d | 15d |
| SD345 | 18 | 20d | 20d |
| | 21 | 20d | 20d |
| | 24, 27 | 20d | 15d |
| | 30, 33, 36 | 15d | 15d |
| SD390 | 21 | 20d | 20d |
| | 24, 27 | 20d | 20d |
| | 30, 33, 36 | 20d | 15d |

（注）1. La :梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. Lb :小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（3）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L1は表3.1に、L2及びL3は表3.3による。

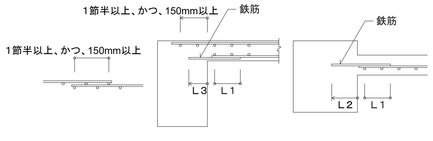



図3.4 溶接金網の継手及び定着

（4）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

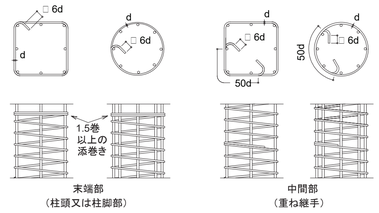



図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

## 4.1 最小かぶり厚さ

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

| 構造部分の種別 | | | | 最小かぶり厚さ(mm) |
|---|---|---|---|---|
| 土に接しない部分 | スラブ, 耐力壁以外の壁 | 仕上げあり | | 20 |
| | | 仕上げなし | | 30 |
| | 柱, 梁, 耐力壁 | 屋内 | 仕上げあり | 30 |
| | | | 仕上げなし | 30 |
| | | 屋外 | 仕上げあり | 30 |
| | | | 仕上げなし | 40 |
| | 擁壁, 耐圧スラブ | | | 40 |
| 土に接する部分 | 柱, 梁, スラブ, 壁 | | | 40 |
| | 基礎, 擁壁, 耐圧スラブ | | | 60 |
| 煙突等高熱を受ける部分 | | | | 60 |

（注）1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（d）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（2）25mm
（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

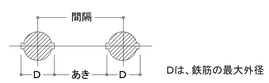



図4.1 鉄筋相互のあき

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

## 5.1 基礎梁

（a）一般事項
（1）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
（2）梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

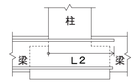



図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

（d）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。

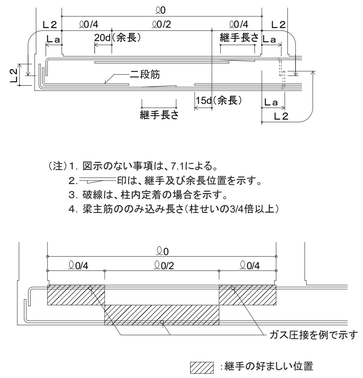



図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）

（注）1. 図示のない事項は、7.1による。
2. ――― 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

## 5.2 基礎梁のあばら筋等

（a）一般事項
（1）あばら筋の径および間隔は、構造図による。
（2）あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

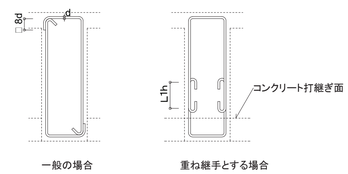



図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

（c）あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

## 7.2 あばら筋等

（a）あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
（1）あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。
（2）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。
（3）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

（b）あばら筋組立の形及びフックの位置
（1）形は、図7.5（イ）とする。
ただし、L形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、T形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。
（2）フックの位置
ⅰ.（イ）の場合は交互とする。
ⅱ.（ロ）の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
ⅲ.（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

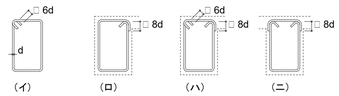
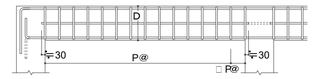



図7.5 あばら筋組立の形

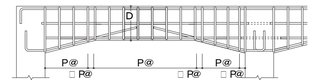
（c）あばら筋の割付け
（1）間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。




（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け（その1）

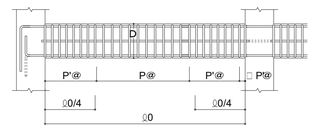
（2）間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。




（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け（その2）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。




（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け（その3）

（d）腹筋及び幅止め筋
（1）一般の梁は、図7.9による。

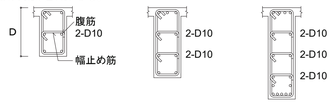



図7.9 腹筋および幅止め筋

## 9.3 スラブ等の補強

（a）スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、（ⅰ）（ⅱ）による。
（ⅰ）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（ℓ1= 2L ）シングルを上下筋の内側に配筋する。

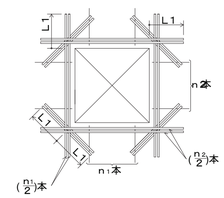



図9.8 スラブ開口部の補強配筋

（ⅱ）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

# 木造基礎構造標準図

## 1. 一般共通事項

(a)構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
(b)本仕様書は、3階建て以下木造建築物の、べた基礎及び布基礎に適用する。
　杭基礎・独立基礎、部分地下などの壁・擁壁については、別途添付の設計図
　を参照すること。
　防湿シート・断熱材については意匠図による。
(c)本仕様書表記単位は、特記なき限り N、mm、N/mm²とする。
(d)本図と構造関係共通事項(配筋標準図)と相違がある場合には、
　構造関係共通事項(配筋標準図)の記載内容を優先する。

## 4. 鉄筋工事

(a)鉄筋の種類

図中で使用する記号は、下表を標準とする。

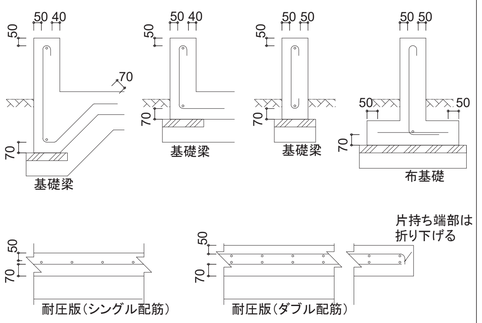
| D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | × | ◐ | ● | ⊖ | ◎ | ⊠ | ⊠ |

(b)鉄筋末端部の折曲げ形状
(d)鉄筋の定着及び重ね継手
(f)鉄筋のあきと鉄筋間隔

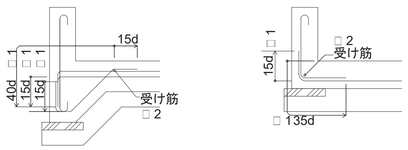
構造関係共通事項(配筋標準図)の記載内容による。

(g)基礎に対するコンクリートの設計かぶり厚さ

| 部位 | | 最小かぶり厚さ | 設計かぶり厚さ |
|---|---|---|---|
| 土に接しない部分 | ベタ基礎立上がり部の屋内側 | 30 | 40 |
| | ベタ基礎耐圧版の屋内側 | 40 | 50 |
| 土に接する部分 | 布基礎立上り部<br>ベタ基礎立上り部の屋外側 | 40 | 50 |
| | 布基礎立上り部以外の部分<br>ベタ基礎耐圧版の接地側 | 60 | 70 |

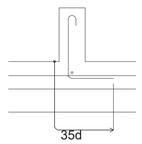



(h)鉄筋の定着長さ
(1)べた基礎

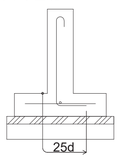



(注)□ 1..立上り部分で垂直に定着できない場合は、斜めに定着を確保する。
　　□ 2..受け筋はD13以上とし、スラブ主筋との併用も可とする。

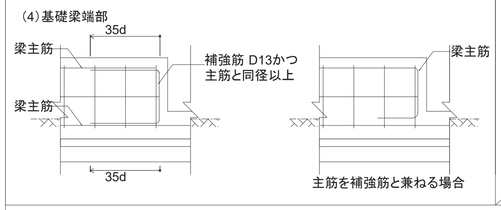
(2)間仕切基礎



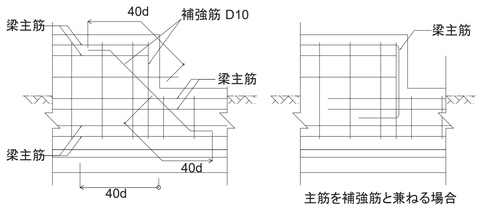

(3)布基礎



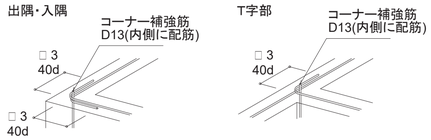

(4)基礎梁端部




(5)基礎梁段差部

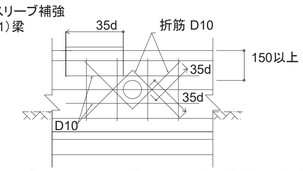



(6) 基礎梁直交部分の主筋の定着　及び　コーナー補強筋



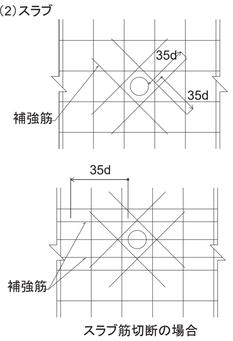

(注)□ 3…直線部分で40d確保する。

(i)スリーブ補強
(1)梁




・孔径80mm以上又は梁せい1/8以上の貫通孔には補強筋を入れること
・貫通孔径は150mm以下かつ梁せい1/3以下とすること
・孔が複数の場合は、中心間隔を径の3倍以上とすること
・スターラップを切断してはならない
・補強筋は、貫通孔より、かぶりが確保できる最短位置に入れること

(2)スラブ




スラブ筋切断の場合

・補強筋はD13、かつスラブ筋と同径以上とすること
・孔径100mm以上の貫通孔には補強筋を入れること
・貫通孔径は300mm以下とすること
・孔が複数の場合は、中心間隔を径の3倍以上とすること
・スラブ筋を切断する場合は、縦横補強筋を追加すること

## 6. アンカーボルト工事

(a)木造軸組工法標準図による。
　(1)アンカーボルトのかぶり厚さは、50mm以上を確保すること。
　(2)土台用アンカーボルトの出寸法は、土台天端から-10mm～+50mm程度とする。

## 7. コンクリート工事

(a)コンクリートは、JIS A 5308 に適合するJIS認証工場で製造された
　レディミクストコンクリートとする。
(b)コンクリートの強度

調合管理強度(呼び強度) ＝ 品質基準強度 ( aとb の大きい方 )
　　＋ 構造体強度補正値(c 温度補正)

(1)設計基準強度は、21N/mm²を標準とする。
(2)耐久性基準強度は、短期:18N/mm²、標準:24N/mm²長期30N/mm²、超長期36N/mm²
　より選択する。
　超長期の場合、かぶり厚さを10mm増した場合は、30N/mm² とすることができる。
(3)構造体強度補正値は、下表による。

| セメントの種類 | コンクリートの打込みから28日までの期間の予想平均気温の範囲(□) | |
|---|---|---|
| 早強ポルトランドセメント | 5□以上 | 5□未満 |
| 普通ポルトランドセメント | 10□以上25℃未満 | 10□未満 |
| 構造体強度補正値 | +3 | +6 |

・暑中期間(日平均気温の平均値が25℃を超える期間)における構造体強度補正値は
　6N/mm とする。

(c)特記無き場合のスランプは、18cm以下とする。

(d)コンクリートの養生
　(1)コンクリートは、打込み後5日以上湿潤養生を行うこと。
　(2)気温が2℃以下となるおそれのある場合には、適切な保温養生を行うこと。
　(3)コンクリートの打込み後1日間は、振動、衝撃を与えてはならない。

(e)型枠の最小存置期間

| セメントの種類 ＼ 平均気温 | 15□以上 | 5□以上<br>15□未満 | 5□未満 |
|---|---|---|---|
| 早強ポルトランドセメント | 2日以上 | 3日以上 | 5日以上 |
| 普通ポルトランドセメント | 3日以上 | 5日以上 | 8日以上 |

□建設省告示第1655号による。

## 8. コンクリートの強度試験

(a)試験総則
　(1)コンクリートの強度試験は、製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに
　　1日1回以上、かつ、コンクリート150m³ごと及びその端数につき1回以上とする。
　　コンクリート数量が少量の場合も実施する。

　(2)コンクリートの強度試験方法
　　1)1回の試験の供試体の個数及び試料採取
　　ⅰ)1回の試験の供試体の数は、表6.9.2による試験用その他必要に応じてそれ
　　ぞれ3個とする。
　　ⅱ)適切な間隔をあけた3台の運搬車から、それぞれ試料を採取し、ⅰ)で必要
　　な数の供試体を作製する。ただし、調合管理強度の管理試験用は、1台の
　　運搬車から同時に作製した3個の供試体で1回の試験を行う。
　　ⅲ)ⅱ)で3台の運搬車から作製した供試体から、それぞれ1個ずつ取り出し、3
　　個の供試体で1回の試験を行う。ただし、調合管理強度の管理試験用は、1
　　台の運搬車から採取した試料で同時に作製した3個の供試体で1回の試験を
　　行う。

　　2)供試体は、JIS A 1132 に基づいて工事現場で作製し、それぞれ試験の目的に
　　応じた養生を行う。
　　なお、脱型は、コンクリートを詰め終わってから16時間以上3日間以内に行う。

　　3)供試体の養生方法及び養生温度
　　ⅰ)標準養生は、JIS A 1132 による20±2℃の水中養生とする。
　　ⅱ)工事現場における養生は水中養生又は封かん養生とし、養生温度はコンク
　　リートを打ち込んだ構造体にできるだけ近い条件になるようにする。
　　また、水中養生の場合の養生温度は、養生水槽の水温の最高及び最低を毎
　　日測定し、養生期間中の全測定値を平均した値とする。
　　なお、供試体の保管場所は、直射日光の当たらない屋外とする。

　　4)圧縮強度試験
　　ⅰ)試験方法は、JIS A 1108 による。

　　5)供試体の養生方法、材齢、1回の試験の個数及び試験回数は表6.9.2による。
　　寒中コンクリートの場合は別途とする。

表6.9.2

| 試験の目的 | 養生方法 | 材齢 | 個数/回 | 試験回数 |
|---|---|---|---|---|
| 調合管理強度の管理試験用 | (2)3)ⅰ)による標準養生 | 28日 | 3個/回 | a)による |
| 型枠取外し時期の決定用 | 工事現場における水中養生 | 必要に応じて定める | | 必要に応じて定める |
| | | 28日 | | |
| 構造体コンクリートの圧縮強度推定用 | 工事現場における封かん養生(注) | 28日を超え91日以内 | | a)による |
| | (2)3)ⅰ)による標準養生 | 28日 | | |

(注)強度試験の不合格が想定される場合

(b)調合管理強度の管理試験
　調合管理強度の管理試験の判定は、1)及び2)を満足すれば合格とする。
　　1)1回の試験結果は、調合管理強度の85%以上とする。
　　2)3回の試験結果の平均値は、調合管理強度以上とする。

(c)構造体コンクリート強度の推定試験
　構造体コンクリート強度の推定試験の判定は、次の1)2)3)のいずれかを満足すれば
　合格とする。

　　1)現場水中養生供試体の材齢28日の圧縮強度の試験結果が、次を満足すること。
　　ⅰ)材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、1回の試験結果が、調合管理
　　強度以上であること。

　　ⅱ)材齢28日までの平均気温が20℃未満の場合は、1回の試験結果が、設計基準
　　強度に3N/mm²を加えた値以上であること。

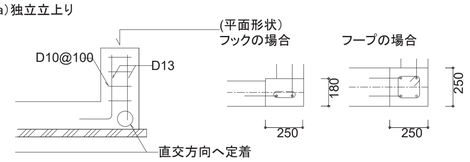
　　2)現場封かん養生供試体の材齢28日を超え91日以内の圧縮強度試験の1回の試験
　　結果が、設計基準強度に3N/mm²を加えた値以上であれば合格とする。
　　3)標準養生供試体の材齢28日の圧縮強度試験の1回の試験結果が、調合管理強度
　　以上であれば合格とする。

　　不合格となった場合は、監督職員の承諾を受け、JIS A 1107 又はその他の適切な
　　試験方法により構造体の強度を確認し、処置について監督職員の指示を受ける。

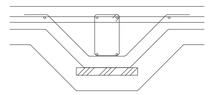
(d)検査機関
　検査は第三者機関で行うことを原則とする。

## 10. 配筋要領

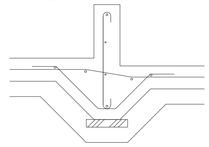
(a)独立立上り



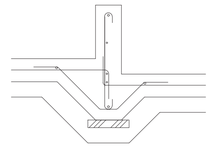

(b)両側スラブが取り付くダブル配筋



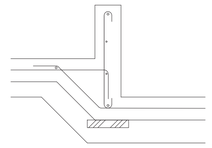
(c)梁を介する段差スラブ
(1) 段差100mm以下の場合



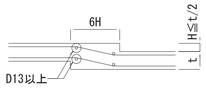
(2) 段差100mmを超える場合



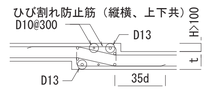
(3) スラブ筋がハンチ筋を兼ねる場合



(d)段差スラブの補強
(1) 段差が小さい場合 (H≦t/2)

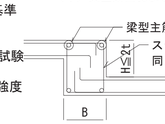



幅6Hの段差部分もスラブ配筋とする。

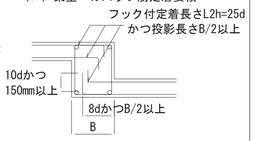



段差Hが100を超える場合は、左図の他、
ひび割れ防止筋を追加する。

(2) 段差がスラブ厚程度の場合 (t/2<H≦2t)
(イ) 梁型断面および配筋要領




(ロ) 梁型へのスラブ筋定着要領




Bは、350 かつ1.5t かつ1.5H とし、
梁型内へスラブ筋フック付定着長さL2h=25d
が確保できる寸法とする。


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)
木造基礎構造標準図　-
環境省新宿御苑管理事務所

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事　　工事設計図

# 特 記 仕 様 書

Ⅰ．　工事概要

1．工事場所　S-02 構造関係共通事項1 建物概要による

2．工　期　同上

3．敷地面積　同上

4．建物概要　1．新御殿新築整備　木造平屋　一式
建築面積　S-02 構造関係共通事項1 建物概要による
延べ床面積　同上

2．上記に伴う、電気及び機械設備工事　一式

3．上記に伴う、外構工事　一式

5．指定部分　・有　・無　対象部分（　　）
指定部分工期　年　月　日

6．工事範囲
□「3．工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち　　の工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

| | |
|---|---|
| 2 仮 設 工 事 | |
| 3 土・地業・基礎 工事 | |
| 4 木 造 工 事 | |
| 5 軸組構法（壁構造系）工事 | |
| 6 軸組構法（軸構造系）工事 | |
| 7 枠組壁工法工事 | |
| 8 丸太組構法工事 | |
| 9 CLTパネル工法工事 | |
| 10 木 工 事 | |
| 11 防 水 工 事 | |
| 12 石 工 事 | |
| 13 タ イ ル 工 事 | |
| 14 屋根及びとい工事 | |
| 15 金 属 工 事 | |
| 16 左 官 工 事 | |
| 17 建 具 工 事 | |
| 18 塗 装 工 事 | |
| 19 内 装 工 事 | |
| 20 断熱・防露、ユニット及び その他工事 | |
| 21 排 水 工 事 | |
| 22 舗 装 工 事 | |
| 23 植 栽 工 事 | |

Ⅱ．　建築工事仕様
（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版[令和4年]）」（以下「木造標準仕様書」という。）による。図面、本特記仕様書及び木造標準仕様書に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和4年版）[令和4年] 」（以下「標準仕様書」という。）による。

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（　／　）図、機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図による。
（3）本特記仕様書の表記
1）項目は、番号に・印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、＊印の付いたものを適用する。
＊印の付かない場合は、□印の付いたものを適用する。
＊印と□印の付いた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の＜　．　．　＞内表示番号は、木造標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）特記事項に記載の（　．　．）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
5）Ⓖ印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成31年2月8日変更閣議決定)」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断基準）を満たすものを示す。
グリーン購入法に基づく、環境物品等の調達に関する基本方針((以下「基本方針」という)(環境省ホームページに掲載)（毎年2月改定))において位置づけられた、「特定調達品目」に該当する材料及び建設機械等は、原則として基本方針に定める判断基準を満足するものを使用することとする。なお、やむをえず判断基準に満たないものを使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。また、「特定調達品目」の調達の実績（設備及び公共工事）について、当該年度の調達実績集計表（物品・役務及び公共工事）を環境省ホームページからダウンロードし、Excelファイルで作成し、提出する。

6）「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、国立公園等施設への木材利用量について、木材利用調査要領により、Excelファイルで作成し、提出する。

| 章 | 項　目 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|

## 1 一般共通事項

### ＊ 適用基準

1）図面、本特記仕様書木造標準仕様書及び標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。

・建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部
・公共建築改修工事標準仕様書（令和4年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部

2）本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。-
建築工事標準詳細図（平成28年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課

### ＊ 適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
・風圧力
風速（Vo=　m/s）
地表面粗度区分　）
・積雪荷重
平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（　）

### ＊ 環境への配慮　<1.4.1>

1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
①建築基準法施行令第20 条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第20 条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20 条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④建築基準法施行令第20 条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

### 3．材料の品質等　<1.4.2>

1）本工事に使用する材料は、特記なき限り設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
4）本工事に使用する材料のうち、5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること。
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料
・

## 2 仮設工事

### ＊足場等　<2.2.4>

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

## 3-1 土工事　3-2 地業工事　3-3 鉄筋工事　3-4 コンクリート工事

□特記仕様書（構造関係）による

## 4 木造工事

### 1.防腐・防蟻処理

木造工事補足事項1　4.耐久性　防腐・防蟻処理　による

| 適用部位 | 処理の種類及び方法 | | |
|---|---|---|---|
| | 防腐・防蟻処理が不要な樹種 | 薬剤の加圧注入 | 薬剤の塗布等 |
| ・ | ・ | ・K2　・K3　・K4 | ・行う |
| | | | |
| | | | |

インサイジング
⊖適用する　・適用しない

薬剤の塗布等による処理の方法
薬剤の種類　・
適用部材　・　・図示
処理の方法　・

□木造標準仕様書4.2.1(ｳ)(b)①から⑤までによる

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理

| 適用部位 | 処理の方法 |
|---|---|
| | |
| | |
| | |

（木造工事構造関係補足事項による）

・合板、集成材、単板積層材の薬剤の加圧注入（K3）による防腐・防蟻処理
適用部位　・図示

・地盤に接する鉄筋コンクリートによる床下の防蟻処理　<4.2.2>
適用は木造標準仕様書4.2.2　・(ｱ)による　・(ｲ)による

・地盤の土壌の防蟻処理　<4.2.3>
使用する薬剤
有効成分の系統（　　）
剤型の種類　・液剤　・粒剤
処理方法及び使用量
・帯状散布(帯状の幅：約20cm)
液剤：処理長さ1L/m
粒剤：（　　）
・面状散布
液剤：処理長さ3L/m2
粒剤：（　　）

（木造工事構造関係補足事項による）

### 2.防腐措置　<4.2.4>

基礎外周部の換気孔
⊖ねこ土台　材質等（　　）
□防鼠スクリーン又は防虫網
・換気孔　□防鼠スクリーン又は防虫網

小屋裏換気方法は木造標準仕様書4.2.4(3)
・(a)　・(b)　・(c)　・(d)　・(e)
換気孔の大きさ　・図示　・

### 3.防火被覆処理　<4.3.1～3>

・防火被覆材の材料　・図示　・
・防火被覆材の厚さ　・図示　・
・接合部等の防火被覆処理　・図示　・

## 5 軸組構法（壁構造系）工事

### ⊖木材　<5.2.2>

軸組構法(壁構造系)工事に使用する木材は、使用材料表1による

### ⊖構造用面材　<5.2.3>

軸組構法(壁構造系)工事に使用する構造用面材は、使用材料表2による

### ⊖接合金物

Z、C、D、Sマーク表示金物　<5.2.4>

| 種類 | Z、C、D、S マークの規格 | 短期許容耐力(kN) | その他 |
|---|---|---|---|
| ・火打金物 | | | |
| ⊖筋交いプレート | Zマーク | | BP-2 |
| ・引き寄せ金物 | | | |
| ・梁受け金物 | | | |
| ・ | | | |
| ・ | | | |

Z、C、D、Sマーク表示金物に付属する接合具も含む。

Z、C、D、Sマーク表示金物以外の接合金物

| 種類 | 材質 | 寸法・形状等 | 表面処理 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・ | | 図示 | | |
| ・ | | | | |
| | | | | |

### ⊖釘及び木ねじ

釘（JIS A 5508）、コンクリート用釘、特殊な釘　<5.2.4><5.5.7><5.5.9>

| 種類 | 材質 | その他 |
|---|---|---|
| ⊖鉄丸くぎ | 表面処理された鉄 | |
| ⊖太め鉄丸くぎ | 表面処理された鉄 | |
| ・ステンレス鋼くぎ | ステンレス製 | |
| | | |
| | | |

木ねじ（JIS B1112又はJIS B 1135）、その他の木ねじ

| 種類 | 材質 | その他 |
|---|---|---|
| ・十字穴付き木ねじ | ステンレス製 | JIS B 1112 |
| ・すりわり付き木ねじ | ステンレス製 | JIS B 1112 |
| | | |

### ⊖ボルト、アンカーボルト、ナット及び座金

Z、C、D、Sマーク表示金物　<5.2.4><5.5.10>

| 種類 | Z、C、D、Sマークの規格 | その他 |
|---|---|---|
| ⊖アンカーボルト | Zマーク | |
| ・六角ボルト | | |
| ・座金 | | |
| | | |
| | | |

Z、C、D、Sマーク表示金物に付属する接合具も含む。

Z、C、D、Sマーク表示金物以外の接合金物

| 種類 | 材質 | 寸法・形状等 | 表面処理 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| ・ | | 図示 | | |
| ・ | | | | |
| | | | | |

ボルト、ナット及び座金
材料　・
□木造特記仕様書表5.2.2による
寸法　・図示
座金の種別　・引張応力を受ける座金　木造標準仕様書表5.2.3
（　　）
・せん断応力を受ける座金　木造標準仕様書表5.2.4
表面処理　・

アンカーボルト、ナット及び座金
材質　・
寸法　・図示
座金の種別　・引張応力を受ける座金　木造標準仕様書表5.2.3
（　　）
・せん断応力を受ける座金　木造標準仕様書表5.2.4
表面処理　・

### ・ラグスクリュー

Z、C、D、Sマーク表示金物　<5.2.4>

| 種類 | Z、C、D、Sマークの規格 | その他 |
|---|---|---|
| ・ラグスクリュー | | |
| ・ | | |
| | | |

Z、C、D、Sマーク表示金物以外のラグスクリュー

| 種類 | 材質等 | 形状・寸法等 | 表面処理 |
|---|---|---|---|
| ・ラグスクリュー | 木造標準仕様書表5.2.2のボルトによる | | |
| ・ | | | |
| | | | |

### ・ドリフトピン　<5.2.4>

ドリフトピン

| 種類 | 材質等 | 径・寸法等 | 表面処理等 |
|---|---|---|---|
| ・ドリフトピン | ・ | | |
| ・ | □ SS400 | □ 丸鋼 | |
| | | | |

### ・木栓及び木だぼ　<5.2.4>

木栓及び木だぼ

| 種類 | 樹種 | 形状・長さ等 | その他 |
|---|---|---|---|
| ・木栓 | | | |
| ・木だぼ | | | |
| | | | |

### ・接着剤　<5.2.4>

・床鳴り防止用接着剤
接着剤の種類(床根太用接着剤　JIS A 5550）　種類（　　）
・接着剤による接合
・接着剤と併用した場合
接着剤の種類（　　）

### ⊖孔あけ加工　<5.4.3>

ボルトの径　・図示
□木造特記仕様書表5.4.2による
ドリフトピンの孔径　・図示　□ピン径と同径　・

### ⊖表面の仕上げ　<5.4.4><18.13.2>

見え掛り面の表面の仕上げ程度
・製材
機械加工　・A種　・B種　・C種　<表5.4.3>
手加工　・H-A種　・H-B種　・H-C種　<表5.4.5>
・構造用集成材
機械加工　・A種　□B種　<表5.4.4>
・丸太材
機械加工　・A種　・B種　<表5.4.6>
手加工　・H-A種　・H-B種　<表5.4.7>
・木材保護塗料塗り
施工箇所　・図示　<18.13.2>
種別　・A種　・B種

### ⊖アンカーボルトの設置等　<5.5.3>

埋込み深さ　・　⊖図示
保持及び埋込み工法　⊖A種　・B種
埋込み位置の許容誤差　・　□ ±5mm

### ⊖基礎天端及び柱底均しモルタルの仕上げ　<5.5.4>

材料　○木造標準仕様書<5.5.4>(ｱ)による　・無収縮モルタル
モルタルの厚さ　・　○・図示

### ⊖建方精度　<5.5.6>

建入れ直し後の建方精度の許容値　・　□ 1/1,000以下

### ・接合金物の工法　<5.5.8>

熱橋を形成する位置に設置する接合金物の断熱
・埋め木
・簡易発泡硬質ウレタンフォーム断熱材(JIS A 9526)
・

### ・釘及び木ねじの工法　<5.5.9>

構造材を仕上材として用いる場合の釘打ち
・隠し釘打ち　・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し
木ねじの留付け
□木ねじ頭埋め木

### ・火打土台　<5.6.2>

・木製の火打土台
・鋼製火打土台

### ・火打梁　<5.7.8><5.8.6>

小屋組　・木製の火打梁　・鋼製の火打梁
床組　・木製の火打梁　・鋼製の火打梁

### ⊖床束　<5.8.2>

⊖木製床束
⊖鋼製床束
・樹脂製床束


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）
木造特記仕様書１　－
環境省新宿御苑管理事務所

## 10 木工事

・材料 <10.2.2>

木工事に使用する木材等は、使用材料表9による <10.2.3>

木工事に使用する合板等は、使用材料表10による <10.2.4>

釘
・JIS A 5508　材質（　　）
・JIS A 5508に規定されている釘以外の釘
　材質（　　）
・造作材化粧面の釘打ち
　□隠し釘打ち　　・釘頭埋め木
　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し

木ねじ
・JIS B 1112 又は JIS B 1135
　材質　※ステンレス
・JIS B 1112 又は JIS B 1135 に規定されているもの以外の木ねじ
　材質（　　）

・表面仕上げ <10.1.3>

・製材の表面仕上げ
　機械加工　・A種　・B種　・C種 <表10.1.1>
　手加工　・H-A種　・H-B種　・H-C種 <表10.1.2>
　　□内部造作材はH-B種　※下地材はH-C種
・造作用集成材の表面仕上げ
　機械加工　・A種　・B種　・C種 <表10.1.1>

・木材の耐候性処理 <10.3.1>(18.13.2)

屋外に使用する仕上げ木材
　・木材保護塗料塗り
　　施工箇所　※図示　・
　　種別　　・A種　・B種

・木材の防虫処理 <10.3.2>

施工箇所　□図示　・
処理方法　□図示　・

・外壁通気構法下地 <10.8.2>

積雪地の場合の下地補強

| 工法種別 | 補強方法 | 補強高さ(mm) |
|---|---|---|
| ・縦通気胴縁工法 | □木造標準仕様書10.8.2(ｳ)(h)による<br>・ | |
| ・横通気胴縁工法 | □木造標準仕様書10.8.2(ｳ)(i)による<br>・ | |

・和室の造作 <10.10.1>

柱　・背割不要の処理

## 11 防水工事

・FRP系塗膜防水 <10.2.2、4>

・ルーフドレン
　・FRP系塗膜防水用ルーフドレン　・鋳鉄製
・オーバーフロー管
　□つば付き　製造所の指定する製品

・下地合板の上の防火板
　種類（・　　※ケイ酸カルシウム板）
　厚さ（・　　※10mm）

防水層平場の勾配
　・　　※1/100以上
水張り試験　・行う

・シーリング <11.3.2> <表11.3.1><11.3.3>

下表以外は、木造標準仕様書表11.3.1による。
ただし、外装タイル接着剤張りの場合のシーリングは標準仕様書11章による。

| 施工箇所 | シーリング材の種類(記号) |
|---|---|
| | |
| | |
| | |

シーリング材の目地寸法　□木造標準仕様書10.3.3(a)(1)～(3)による　・
　・

・防水テープ <11.4.2>

両面粘着防水テープの幅　・　　□ 50mm以上

・バルコニー手すり <11.4.3>

バルコニー手すりの工法
　・図示
　□木造標準仕様書11.4.3(ｹ)①から⑤までによる固定方法

・ケイ酸質系塗布防水 <11.5.1>(9.6.1、3) (表9.6.1、2)

防水層の種別

| 種別 | 施工箇所 | 種別 | 施工箇所 |
|---|---|---|---|
| □C―UI | | ・C―UP | |

## 12 石工事

□建築工事特記仕様書(その2)による

## 13 タイル工事

□建築工事特記仕様書(その2)による

## 14 屋根及びとい工事

・材料 <14.2.2>

下葺材料
・アスファルトルーフィング940
　□改質アスファルトルーフィング下葺材(一般タイプ)

改質アスファルトルーフィングの積雪寒冷地対策　・行う

・金属板葺 <14.3.2～8>

| 板及びｺｲﾙの種類 | 塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 | 厚さ(mm) | 屋根葺形式 | 固定釘等の材質 |
|---|---|---|---|---|
| ・<br>□ JIS G 3322<br>の屋根用ｺｲﾙ | | | ・平葺(一文字葺)<br>・心木あり瓦棒葺<br>・心木なし瓦棒葺<br>・横葺<br>・立平葺 | ・ |
| | | | | |
| | | | | |

心木の防腐・防蟻処理方法(　　)

・平葺(一文字葺)の工法
　・はぜの作り方　・　　※図示
・心木あり瓦棒葺の工法
　・銅板以外の板による屋根一般部分の工法
　　溝板及びキャップの留けけ方
　　・
　　□木造標準仕様書14.3.5(3)(ｱ)(c)による
　　瓦棒の間隔　・　　※図示
　・銅板による屋根一般部分の工法
　　瓦棒の間隔　・　　※図示
・心木なし瓦棒葺の工法
　屋根の流れ方向に並行な壁との取合い部
　・雨押さえを付ける場合
　　□木造標準仕様書14.3.6(4)(ｵ)(a)による
　　・
　・雨押さえを用いない場合
　　□木造標準仕様書14.3.6(4)(ｵ)(b)による
　　・

工法
　吊子、各部の釘の留付け間隔　□図示　・
　建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対に対応した工法
　雪止め　・設置する(施工箇所　・図示　・　　)

・折板葺 <14.4.2、3><表14.3.1>

| 施工箇所 | 形式 | 山高、山ピッチによる区分 | | 耐力による区分 | 材料による区分 | 厚さ(mm) | 軒先面戸板 | 耐火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 山高 | 山ピッチ | | | | | |
| | ・重ね形<br>・はぜ締め形<br>・ | | | (　)種 | ・ | | ・有り<br>・無し | ・30分<br>・無し |
| | ・ | | | ・ | ・ | | | |

材料　板及びコイルの種類(　　)
　塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号(　　)

断熱材　・有り(種別:　　厚さ(mm):　　防火性能:　時間)
　　・無し

タイトフレームを留め付ける下地材

| 材質 | 形状 | 寸法 |
|---|---|---|
| | | |

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対に対応した工法

・粘土瓦葺 <14.5.2,3>

| 種類 | | | 役物 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 形状による区分 | 製法による区分 | 寸法による区分 | 軒瓦 | そで瓦 | のし瓦 | 冠瓦 | 半瓦 | 雪止め瓦 | 鬼瓦 | 巴瓦 | 大きさ | 産地等 |
| ・J形瓦 | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | □図示 | |
| ・S形瓦 | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | |
| ・F形瓦 | | | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | | |

補強用心木の防腐・防蟻処理方法(　　)

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対に対応した工法
　瓦桟木の留けけ工法　□図示　・
　棟の工法　□木造標準仕様書14.5.3(5)(7)から(ｴ)までによる　・

・スレート葺 <14.6.2>

| 種類 | 寸法(mm)(全長さ×全幅) | 役物 棟 | 役物 けらば | 着色(色調) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ・平形 | | ・ | ・ | ・無　・有(　　) | |
| ・波形 | | ・ | ・ | ・無　・有(　　) | |

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対に対応した工法
　雪止め　・設置する(図示)

・アスファルトシングル葺 <14.7.2>

| 品質 | 形状 | 色調 | 寸法(mm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対に対応した工法
　軒先、けらば等に曲面を設ける場合　・　　□半径500mm以上
　雪止め　・設置する(図示)

・とい <14.8.2,3> <表14.8.1>

といの材料
・金属板(銅板を除く。)
　種類　※木造標準仕様書表14.8.1(　　)
　板厚　・
・谷どい
　種類　※木造標準仕様書表14.8.1(　　)
　板厚　・

・銅板
　板厚　・
　　□一般部0.35mm、谷どい部0.4mm　・
・硬質塩化ビニル樹脂
　種類（　　）
　外径（　　）
　厚さ（　　）
　長さ（　　）

とい受金物
　材種　・溶融亜鉛めっきを行った鋼板製　・銅板製
　形状　・市販品(とい径100以下)　・　25×4.5以上
足金物
　材種　・溶融亜鉛めっきを行った鋼板製　・銅板製
多雪地域　・適用する　　・適用しない
硬質塩化ビニル製集水器の形状　　□図示
硬質塩化ビニル製あんこうの形状　□図示

## 15 金属工事

□建築工事特記仕様書(その3)による

## 16 左官工事

□建築工事特記仕様書(その3)による

## 17 建具工事

□建築工事特記仕様書(その4)による

## 18 塗装工事

□建築工事特記仕様書(その5)による

## 19 内装工事

□建築工事特記仕様書(その5)による

## 20 断熱・防露、ユニット及びその他の工事

・断熱材等材料 <20.1.2～4>

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した
断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　・
　□規制対象外
・断熱材 G
　施工箇所　※図示　・

| 断熱材の種類 分類 | 断熱材の種類 材料名 | 規格番号 | 厚さ又は使用量 |
|---|---|---|---|
| ・フェルト状断熱材 | ・グラスウール | ・JIS A 9521 | |
| | ・ロックウール | ・JIS A 9504<br>・JIS A 9521 | |
| ・ボード状断熱材 | ・グラスウール | ・JIS A 9521 | |
| | ・ロックウール | ・JIS A 9504<br>・JIS A 9521 | |
| | ・ビーズ法ポリスチレンフォーム | ・JIS A 9521 | |
| | ・押出法ポリスチレンフォーム | | |
| | ・硬質ウレタンフォーム | | |
| | ・ポリエチレンフォーム | | |
| | ・フェノールフォーム | | |
| | ・インシュレーションファイバー | | |
| ・ばら状断熱材 | ・グラスウール | ・JIS A 9523 | |
| | ・ロックウール | | |
| | ・セルローズファイバー | | |
| ・現場発泡断熱材 | ・吹付硬質ウレタンフォームA種1<br>又はA種1H(難燃性を有するもの) | ・JIS A 9526 | |

(品質・性能)

| 項目 | 品質・性能 |
|---|---|
| 難燃性 | 下記のいずれかによっていること<br>(1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。-<br>(2)法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。- |
| 発熱性 | 準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)から(3)までに適合していること。-<br>(1)総発熱量が8MJ/㎡以下であること。-<br>(2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。-<br>(3)最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/㎡を超えないこと。- |

(試験方法)
(1)原液試験(原液粘度試験)
JIS K 7117-1「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ―液状、乳濁状又は分散状の樹脂―ﾌﾞﾙｯｸﾌｨｰﾙﾄ形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。-
(2)発泡品試験
1)試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2. 1による。-
2)試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作成は、JIS A 9526の6.2.3による。-
3)試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。-
(3)圧縮強さ試験
JIS A 9526の6.2.5により、測定はJIS K 7220「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ―圧縮特性の求め方」による。-
(4)熱伝導率試験
JIS A 9526の6.2.6により、JIS A 1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法―第1部:保護熱板法(GHP法)」又はJIS A 1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法―第2部:熱流計法(HFM法)」によって、平均温度(23±2)゜C、高温板と低温板の温度差(25±5)゜Cで熱伝導を測定する。-
(5)接着強さ試験
JIS A 9526の6.2. 7による。-
(6)透湿率試験
JIS A 9526の6.2.8により、測定はJIS A 1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K 7225「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ―水蒸気透過性の求め方」による。-
(7)難燃性の表面加熱試験
JIS A 1321 に規定する試験方法に準じる。-
(8)発熱性試験
建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。-

・防湿材
　種類　木造標準仕様書 20.1.2(2)　・(a) ・(b) ・(c)
　厚さ　・
　施工箇所　・図示　・

・気密材
　種類　木造標準仕様書 20.1.2(3)(a)から(f)まで　・
　厚さ　・図示　・
　施工箇所　・図示　・

・防風材
　種類　・
　　□ JIS A 6111に基づく透湿防水シートB
　厚さ　・図示　・
　施工箇所　・図示　・

断熱材の施工
　・充填断熱工法
　・外張断熱工法
　　防蟻処理　・行う
　・図示

防湿層の施工　・省略する

各部位の工法　・
　　□木造標準仕様書 20.1.5(7)から(ｺ)までによる。

・窯業系サイディング工事 <20.3.2)

サイディング材

| 種類 | 形状 | 働き長さ・働き幅 | 厚さ(mm) | 表面仕上げ | 耐凍害性能 | 防火・耐火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |

-
　張り方　・縦張り　・横張り
　換気口部の防水処置　・図示
　　□木造標準仕様書20.3.2(3) (ｳ)(c)①から④までによる
　現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ
-
通気胴縁　樹種　・　　□杉
通気胴縁の防腐処理方法(　　)

・複合金属サイディング工事 <20.3.3)

サイディング材

| 種類 | 形状 | 有効幅(mm) | 長さ(mm) | 厚さ(mm) | 表面材・しん材の種別 | 防火・耐火性能 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ | ・ |

-
　張り方　・縦張り　・横張り
　換気口部の防水処置　・図示
　　□木造標準仕様書20.3.2(3) (ｳ)(c)①から④までによる
-
通気胴縁　樹種　・　　□杉
通気胴縁の防腐処理方法(　　)

・ALCパネル(薄型パネル)工事 <20.4.2、3)

薄型パネル

| パネルの区分 | 形状 | 厚さ(mm) | 幅(mm) | 長さ(mm) |
|---|---|---|---|---|
| ・一般パネル | ・ | ・ | ・ | ・ |
| ・コーナーパネル | ・ | ・ | ・ | ・ |

-
　張り方　・縦張り　・横張り
工法　・通気構法　・直張り工法
通気胴縁　樹種　・　　□杉
通気胴縁の防腐処理方法(　　)

・以降の項目　□建築工事特記仕様書(その6)による

## 21 排水工事

□建築工事特記仕様書(その6)による

## 22 舗装工事

□建築工事特記仕様書(その7)による

## 23 植栽工事

□建築工事特記仕様書(その7)による

使用材料表1

<5.2.2>

・「製材の日本農林規格」による目視等級区分構造用製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 構造材の種類 | 等級 | 寸法 (mm) | 含水率_ | 保存処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

※「製材の日本農林規格」による機械等級区分構造用製材_G

| 施工箇所 | 樹種 | 曲げ性能 (等級) | 寸法 (mm) | 含水率_ | 保存処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 土台 | ひのき | E90 | 130x130 | SD20 | D2;インサイジング | |
| 柱 | ひのき | E90 | 130x130他 | SD20 | | |
| 梁 | すぎ | E70 | 130x130他 | SD20 | | |
| 梁 | からまつ | E110 | 120x240他 | SD20 | | |

(注)無等級材、広葉樹製材及び丸太材の縦振動ヤング係数による基準強度の確認は、以下による。-
無等級材のうち次の樹種については、製材の日本農林規格第6条に定める品質曲げ性能における等級の区分に準拠する。それ以外の樹種については、既往の研究等に基づき適切に定め、施工計画書を作成し、提出する。-
あかまつ、べいまつ、からまつ、ひば、ひのき、べいつが、えぞまつ、とどまつ、すぎ

(参考)製材の日本農林規格第6条に定める等級の図(機械的等級区分と測定曲げヤング係数)

| 等級 | E50 | E70 | E90 | E110 | E130 | E150 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 曲げヤング率 (×10N/mm) | 3.9以上 5.9未満 | 5.9以上 7.8未満 | 7.8以上 9.8未満 | 9.8以上 11.8未満 | 11.8以上 13.7未満 | 13.7以上 |

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 等級 | 寸法(mm) | 含水率 | 保存処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ・特等 ・1等 ・2等 | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

加工前に縦振動ヤング係数を測定する部材(対象部材: )

※無等級材 G

| 施工箇所 | 寸法 (mm) | 樹種 | 含水率 (%) | 保存処理 | 強度試験 | 材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | ・製材のJAS規格第6条 (対象部材: ) ・縦振動ヤング係数測定 (対象部材: ) | ・製材のJAS規格第6条 ・旧JAS規格第10条 ひき角類1等 | ・ |
| 間柱、垂木 根太、筋交 | 45x90他 | すぎ | 20%以下 | | | | ・ |
| 貫 | 45x120 | ひのき | 20%以下 | | | | ・ |

旧JAS規格とは、昭和42年農林省告示第1842号をいう。-

・国土交通大臣の指定を受けたもので基準強度の数値を指定された製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 等級 (材面の品質) | 含水率(%) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「製材の日本農林規格」による下地用製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 等級 | 寸法 (mm) | 含水率(%) | 保存処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ・1級 ・2級 | | ・SD15 ・SD20 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

使用材料表2

<5.2.3>

※「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

| 施工箇所 | 厚さ (mm) | 接着の程度 | 等級 | 板面の品質 | 曲げ性能 (強度等級) | 単板の樹種名 | 保存処理 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 耐震壁 | 12mm | ・1類 | 2級 | | | | | |
| 野地板 | 12mm | ・特類 | 2級 | | | | | |
| 床組 | 12mm | ・2類 | 2級 | | | | | |
| 小屋組 | 24mm | ・2類 | 2級 | | | | | |

使用材料表9

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 G

<10.2.2>

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 等級 (材面の品質) | 形状 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・2級 ・1級 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 等級 (材面の品質) | 形状 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 見え掛り面 | | | ・上小節 ・ | | | ・ |
| 見え掛り面以外 | | | ・小節以上 ・ | | | ・ |
| | | | | | | |

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 等級 (材面の品質) | 含水率(%) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ・1等 ・ | ・10以下 ・13以下 | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「製材の日本農林規格」以外の下地用針葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 材面の品質 | 乾燥処理の適用 | 防虫処理の適用 | 難燃処理の適用 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ・適用する ・適用しない | ・適用する ( ) ・適用しない | ・適用する ・適用しない | ・A種 ・B種 | ・ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

・「製材の日本農林規格」以外の造作及び仕上げに用いる針葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 材面の品質 | 乾燥処理の適用 | 防虫処理の適用 | 難燃処理の適用 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ・適用する ・適用しない | ・適用する ( ) ・適用しない | ・適用する ・適用しない | □ A種 ・B種 | ・ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

・「製材の日本農林規格」以外の造作及び仕上げに用いる広葉樹製材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 材面の品質 | 乾燥処理の適用 | 防虫処理の適用 | 難燃処理の適用 | 含水率 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ・適用する ・適用しない | ・適用する ( ) ・適用しない | ・適用する ・適用しない | □ A種 ・B種 | ・ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 G

| 施工箇所 | 品名 | 樹種 | 寸法(mm) | 見付け材面数 (面) | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | □ 1等 ・2等 | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成柱 G

| 施工箇所 | 品名 | 樹種 | 寸法 (mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面数 (面) | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 化粧薄板: 芯材: | | | | □ 1等 ・2等 | ・ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱 G

| 施工箇所 | 品名 | 樹種 | 寸法 (mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面数 (面) | 見付け材面の品質 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 化粧薄板: 芯材: | | | | □ 1等 ・2等 | ・ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率(%) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | □ 15以下 ・ | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率(%) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板: 芯材: | | | | □ 15以下 ・ | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成柱 G

| 施工箇所 | 樹種 | 寸法 (mm) | 化粧薄板の厚さ(mm) | 見付け材面の品質 | 含水率(%) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 化粧薄板: 芯材: | | | | □ 15以下 ・ | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 G

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の化粧加工 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|
| | | ・無(・1等 ・2等 ・3等) ・有(・天然木化粧加工 ・塗装加工) | ・適用する ( ) ・適用しない | ・ |
| | | | | |
| | | | | |

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 G

| 施工箇所 | 厚さ(mm) | 表面の化粧加工 | 含水率 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・無( ) ・有(・天然木化粧加工 ・塗装加工) | □ 14以下 | ・適用する ( ) ・適用しない | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・CLT(直交集成板) G

| 施工箇所 | 品名 | 樹種 | 寸法(mm) | 曲げ性能 (強度等級) | 接着性能 (使用環境) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

使用材料表10

<10.2.3>

・「合板の日本農林規格」による普通合板 G

| 施工箇所 | 厚さ (mm) | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 板面の品質 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

| 施工箇所 | 厚さ (mm) | 等級 | 単板の樹種名 | 接着の程度 | 板面の品質 | 防虫処理の適用 | 強度等級の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | ・ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

| 施工箇所 | 単板の樹種名 | 厚さ (mm) | 接着の程度 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

| 施工箇所 | 化粧板に使用する 単板の樹種名 | 厚さ (mm) | 接着の程度 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

| 施工箇所 | 厚さ (mm) | 接着の程度 | 表面性能 | 化粧加工の方法 | 防虫処理の適用 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

・パーティクルボード G

| 施工箇所 | 表裏面の状態 による区分 | 曲げ強さ による区分 | 耐水性 による区分 | 厚さ (mm) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | □ 13・ | ・Pタイプ ・Mタイプ | ・15 ・ | ・ |
| | | | | | |
| | | | | | |

・「構造用パネルの日本農林規格」による構造用パネル G

| 施工箇所 | 等級 (・常態曲げ試験 ・湿潤曲げ試験) | 厚さ(mm) | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|
| | ・1級 ・2級 ・3級 ・4級 | | ・ |
| | | | |
| | | | |

・MDF G

| 施工箇所 | 厚さ (mm) | 表裏面の状態 による区分 | 曲げ強さ による区分 | 接着剤 による区分 | 難燃性 による区分 | 間伐材等の適用 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ・ |
| | | | | | | |
| | | | | | | |


KAP
一級建築士事務所第56306号 株式会社KAP 東京都千代田区富士見２－４－９ １階
管理技術者 桐野 康則 (一級建築士第272618号)
構造主任技術者 萩生田秀之 (一級建築士第341678号)
担当技術者 池谷 聡史 (一級建築士第367949号)

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久 (一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者 松本 洋平 (一級建築士第367970号)

# 木造工事構造関係補足事項

特記仕様

1. 適用範囲
建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。
項目は番号に〇 の付いたもの、特記事項は・ の付いたものを適用する。

2. 優先順位
設計図書の図面に相違がある場合の優先順位は、以下のとおりとする。
(1)(2)以外の図面
(1)木造工事構造関係補足事項

| 章 | 項目 | 特記事項 |
|---|---|---|
| 1 一般共通事項 | ①施工計画書の作成及び提出 | 工事に先立ち、施工計画書を作成し、監督職員に提出する。 |
| | ②加工図の提出 | 工事に先立ち加工図を作成し、監督職員に提出する。プレカット製品を使用する場合には、プレカット図を加工図とするまた、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。 |
| | ③木材等の加工工場の選定、承諾 | 設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した加工工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。 |
| | ④各種試験・検査報告書の提出 | 各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。 |
| | ⑤参考図書 | 設計図書に示されていない事項については、監督職員の指示によるほか下記による。<br>(1)建築工事標準仕様書・同解説 JASS11 木工事<br>(2) |
| | ⑥木材の断面寸法 | 木材の断面を表示する寸法は、仕上り寸法とする。 |
| 2 材料の品質 | 1.製材 | (1)特記無き梁桁、母屋、垂木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種2級、見え隠れ部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。<br>(2)乾燥の際、背割りを行う。ただし見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。<br>(3)強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定する。 |
| 3 材料の品質の検査方法 | ①共通事項 | (1)木材等の加工工場に搬入された材料及び接合具・接合金物等は、受け入れ検査を行い、監督職員に報告する。また、設計図書で定められた性能を満たさない材料は用いない。<br>(2)加工材は、現場搬入前に断面寸法、長さ、仕口及び継手の位置、接合金物等の取付け位置等について全数確認を行い、記録を監督職員に提出する。<br>(3)加工材は、現場搬入後建方前に寸法及び含水率について、監督職員の検査を受ける。検査数量については、施工計画書で定める。 |
| | ②製材及び枠組壁工法構造用製材 | 現場または木材等の加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち以下の要領で受け入れ検査を実施し、報告書を提出する。また、必要性能を満たさない材料は用いない。<br>(1)日本農林規格に適合する木材又は国土交通大臣の指定を受けた木材の受け入れ検査は、出荷証明書に基づき表示の確認を行う。<br>(2)(1)以外の木材の受け入れ検査は出荷証明書に基づき、木造標準仕様書によるほか日本農林規格に準じて行う。<br>(3)無等級材、広葉樹製材及び丸太材の縦振動ヤング係数による基準強度の確認は、以下による。<br>(ⅰ)無等級材のうち次の樹種については、製材の日本農林規格第6条に定める品質曲げ性能における等級の区分に準拠する。それ以外の樹種については、既往の研究等に基づき適切に定め、施工計画書を作成し提出する。<br>あかまつ、べいまつ、からまつ、ひば、ひのき、べいつが、えぞまつ、とどまつ、すぎ<br>製材の日本農林規第6条に定める等級の区分(機械的等級区分と測定曲げヤング係数) |

| 等級 | E50 | E70 | E90 | E110 | E130 | E150 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 曲げヤング率 (×10 N/mm ) | 3.9以上 ～5.9未満 | 5.9以上 ～7.8未満 | 7.8以上 ～9.8未満 | 9.8以上 ～11.8未満 | 11.8以上 ～13.7未満 | 13.7以上 |

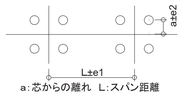
(ⅱ)広葉樹及び丸太材については、既往の研究等に基づき適切に定め、施工計画書を作成し提出する。

〇日本農林規格に適合する木材を使用する場合は、製材工場の認定書の写しを提出する。
・全乾重量法及び静的ヤング係数試験は、公的試験場にて行う。また、試験体は生産地毎に使用する同一部材の中から抽出し、試験方法は、木材の試験方法(JIS Z 2101)に準じて行う。
・全乾重量法試験　・静的ヤング係数試験
検査数量(　　)

| | | |
|---|---|---|
| 3.構造用集成材、構造用単板積層材、構造用合板、構造用パネル等 | 搬入される材料について、以下の要領で受け入れ検査を実施し、報告書を提出する。また、必要性能を満たさない材料は用いない。<br>材料 / 確認項目 / 確認の方法<br>・構造用集成材 / 部位、断面、長さ、数量、樹種、品名、強度等級、材面の品質、使用環境、ホルムアルデヒド放散量 / ・日本農林規格(JAS)表示の確認<br>・構造用単板積層材 / 部材、断面、長さ、数量、樹種、区分、曲げ性能、水平せん断性能、使用環境、ホルムアルデヒド放散量 / ・立会い目視検査<br>・構造用合板 / 寸法、数量、強度等級、曲げ性能基準、板面の品質、接着の程度、ホルムアルデヒド放散量 / ・出荷証明書<br>・構造用パネル / 寸法、数量、部位、曲げ性能、ホルムアルデヒド放散量 / ・ |
| ④接合具(Z・C・D・S・Mマーク表示金物も含む) | 搬入される材料について、設計図書に明記された接合具であることを確認し、以下の要領で受け入れ検査を実施し、報告書を提出する。なお、同等品を用いる場合には、承諾を受ける。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。<br>接合具の種類 / 確認項目 / 確認の方法<br>・釘、特殊釘等 / 鋼材種別、胴・頭径部、長さ、仕上げ / ・ミルシートの写し<br>・木ねじ / 鋼材種別、径、長さ、仕上げ / 〇表示の確認<br>・ボルト、ナット / 鋼材種別、径、長さ、仕上げ / ・出荷証明書<br>・アンカーボルト / 鋼材種別、径、長さ、仕上げ / ・認定規格書<br>・座金 / 鋼材種別、径、仕上げ / ・<br>・ドリフトピン / 鋼材種別、径、長さ、仕上げ<br>・ラグスクリュー / 鋼材種別、径、長さ、仕上げ<br>・木栓・木だぼ / 材種、基準強度<br>・輪型ジベル / 鋼材種別、径、形状、仕上げ<br>・圧入型ジベル / 鋼材種別、径、形状、仕上げ<br>・ |
| ⑤接合金物(Z・C・D・S・Mマーク表示金物、製作金物) | 搬入される材料について、設計図書に明記された接合具であることを確認し、以下の要領で受け入れ検査を実施し、報告書を提出する。なお、同等性能の接合具を用いる場合には、承諾を受ける。<br>接合金物・接合具等 / 確認項目 / 確認の方法<br>・筋交いプレート / 鋼材種別、形状、仕上げ、認定規格等 / ・ミルシートの写し<br>・引き寄せ金物 / 〇表示の確認<br>・梁受け金物 / ・認定規格書<br>・ / ・<br>・鋼材 / 鋼材種別、形状、仕上げ |

| | | |
|---|---|---|
| 4 耐久性 防腐・防蟻処理 | ①木材の防腐・防蟻処理 | 〇防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材(高耐久材の使用)<br>製材の日本農林規格及び枠組壁工法構造用製材の日本農林規格によるD1の樹種の心材のみを用いた製材又はこれらの樹種を使用した集成材<br>・薬剤の加圧注入による処理(工場処理剤)<br>加圧注入の後、加工、切断、孔あけ等を行った箇所は、薬剤の塗布等による処理を行う。保存処理性能区分等は以下により、使用部位等は下表による。<br>JAS保存処理性能区分: K4 K3 K2<br>JIS K 1570(木材保存剤)に定める加圧注入用保存剤又はこれと同等の保存剤を用いて、JIS A 9002(木質材料の加圧式保存処理方法)による加圧式保存処理を行う<br>・薬剤の塗布等による処理(現場処理)<br>木材の木口、仕口及び継手の接合箇所、亀裂部、コンクリート、モルタル、束石等に接する部分は、特に入念な処理を行う。処理の方法は以下により、使用部位等は下表による。<br>処理量:300g/m²<br>処理回数:2回<br>使用薬剤:JIS K 1571(木材保存剤ー性能基準及びその試験方法)に適合する表面処理用木材保存剤又はこれと同等の薬剤 |

| 使用部位 | 高耐久材 | 工場処理剤 | 現場処理剤 |
|---|---|---|---|
| 土台 | 〇ひのき | ・K3 ・(　　) | ・(　　) |
| 外周柱下部1m | 〇ひのき | ・K3 ・(　　) | ・(　　) |
| 水周り | ・ | ・K3 ・(　　) | ・(　　) |
| その他 | ・ | ・K4 ・(　　) | ・(　　) |

| | | |
|---|---|---|
| | ②土壌処理 | 〇地盤に接する鉄筋コンクリートによる床下の防蟻処理<br>配管類がコンクリート部分を貫通する場合は、防蟻上有効な措置を施すこと。<br><br>防蟻薬剤による処理方法<br>使用する薬剤は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の規格による。<br>処理範囲は、建築物の基礎に囲まれた床下の土壌を対象とし、以下による。<br>① 基礎、束石及び配管類の立上り部分の土壌は、基礎等の壁際から20cm幅を帯状散布とする。<br>② 浴室、便所、玄関、勝手口等の土間コンクリート下部は、基礎等の壁際から20cm幅を帯状散布をし、その内側を面状散布をする。<br>薬剤使用量は、帯状散布が処理長さ1m当り1リットル、面状散布は1㎡当り3リットルとする。 |
| 5 木材の加工 | ①刻み時の注意 | 製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。<br>仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。 |
| | ②加工寸法の精度 | 加工材の断面寸法、長さは次による。<br>〇建方精度等を考慮し、施工計画書に定める。<br>・<br>孔あけ加工は次による。<br>〇公共建築木造工事標準仕様書 5.4.3 による。<br>・ |
| 6 製作金物の加工 | ①寸法精度 | 接合金物の寸法精度<br>幅、長さは製作図の寸法〇・ ±2.0mm　・<br><br>孔あけ許容寸法<br>孔芯ずれ　〇・ ±1.0mm　・<br>孔間隔のずれ〇・ ±1.0mm　・ |
| 7 接合部の工法 | ①仕口、継手の原則 | (1)仕口、継手の方法・位置は設計図書による。<br>(2)下記、2～8の接合部の項目については、設計図書に記載された仕様を確認し施工する。 |
| | ②釘の工法 | (1)釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。<br>(2)釘の長さは、特記がなければ材厚の2.5倍以上とする。<br>(3)接合部1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。<br>(4)自動釘打ち機を使用する場合は、釘頭部が過度にめり込まないようにする。 |
| | 3.木ねじの工法 | (1)木ねじの先孔の径(dは木ねじ径)は、針葉樹の主材を0.6d、側材は0.8d、広葉樹の主材を0.8d、側材は1.0dとする。また、先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。<br>(2)ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んではならない。<br>(3)ねじ込みが難しい場合には、ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。 |
| | ④各種ボルトの工法 | (1)締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が設計図書に適合していることを確認する。<br>(2)ボルトの締付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締付けは一様となるように行う。<br>(3)ボルトの締付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締付けを完了する。<br>(4)締付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2～3山以上出ていることを確認する。<br>(5)一度締付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締め直しを行う。 |
| | 5.ラグスクリューの工法 | (1)締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が設計図書に適合していることを確認する。<br>(2)ネジ部の先孔の径:ネジ径の50～70%(長さはネジ部の長さと同寸とする。)<br>(3)ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではならない。<br>(4)ねじ込みを容易にする為や損傷させない為に潤滑油などを用いてもよい。<br>(5)胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。<br>(6)一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことはしない。 |
| | ⑥ドリフトピンの工法 | (1)ドリフトピンは孔に密着させる。<br>(2)一度締付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締直しを行う。 |
| | 7.輪型ジベル接合、圧入型ジベル接合の工法 | (1)木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意する。<br>(2)接合材は十分圧着させる。木材の収縮により圧着が不完全にならないようボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締め直しを行う。 |
| | ⑧接合金物の工法 | (1)羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取付けは、接合両材の間が密着するように締め付ける。 |
| | 9.その他の方法による工法 | (1)使用材料及び使用方法は図示によるものとする。 |
| 8 運搬・建方 | ①輸送計画 | 製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。<br>〇輸送計画書の提出 |
| | ②集積・保管 | 集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。<br>〇集積場の確認 |
| | 3.建方計画 | アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。<br>・建方計画書の提出 |
| | 4.施工時の安全性 | 建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は承諾を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。<br>・施工時の安全性に対する検討書の提出<br>・施工時荷重条件の報告 |
| | ⑤アンカーボルトの施工 | (1)芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。<br>(2)アンカーボルトの埋込工法は、型板を用いるなどして正確に行い、移動、下部の振れ等のないように固定しコンクリートの打ち込みを行う。<br>〇アンカーボルトの埋込み位置の許容誤差:±5mm<br>(3)アンカーボルトは二重ナットとする。<br>(4)土台の孔あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。<br>(5)柱脚部に接合金物を使用する部位については以下の数値を受入基準とする。<br>〇柱据え付け面:基準高さからの誤差　±2mm以下<br>〇柱隣接間中心距離の誤差e1:±2mm以下<br>〇通り心からの誤差e2:±2mm以下<br>  <br><br>a:芯からの離れ　L:スパン距離 |
| | ⑥建方精度 | (1)建入れ直し後の建方精度は、特記仕様書による。なお、特記がなければ施工計画書に定め、監督職員に提出する。<br><br>(2)柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置<br>〇柱据え付け面の基準高さからの誤差:±3mm以下<br>〇通り芯からの誤差:±3mm以下<br>〇階高:－5mm≦△H≦+5mm |

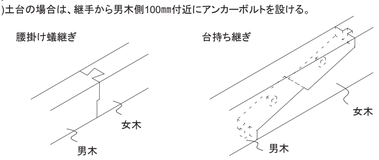

KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

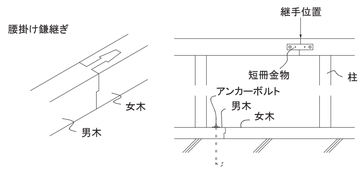
香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）

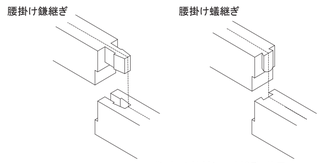
| | 項　目 | 特　記　事　項 |
|---|---|---|
| 9 軸組構法接合部の標準仕様 | 1.共通事項 | プレカット製品を使用する場合はその形状および許容耐力に及ぼす影響を確認する。 |

②横架材どうしの継手

(1)曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ
（ⅰ)せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
（ⅱ)長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
(ⅲ)逆せん断と引張りの補強として短冊金物等を併用すること。
(ⅳ)柱からの持出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。
（ⅴ)土台の場合は、継手から男木側100mm付近にアンカーボルトを設ける。

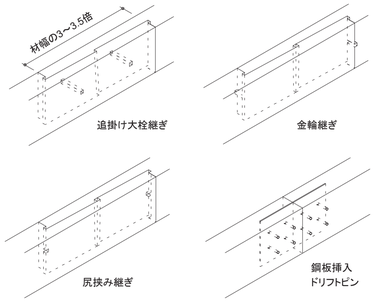



プレカット機械による継手・仕口

(2)曲げ応力や引張力を負担する継手：追掛け大栓継ぎ、金輪継ぎ、尻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
（ⅰ)伝達できる曲げモーメントや引張力は母材全断面強度の20%以下と考えること。

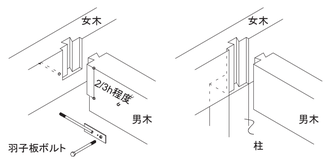



③柱の継手

(1)階の中間部における柱の継手は原則として禁止する。
(2)やむを得ず柱の継手を設ける場合は、曲げ応力と軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。

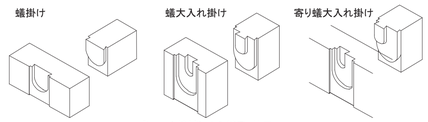
④横架材どうしの仕口

(1)せん断力が母材全断面強度の30%以下の仕口：(大入れ)蟻掛け
（ⅰ)長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
（ⅱ)逆せん断と引張りの補強として羽子板ボルト等を併用する。
(ⅲ)男木のせいの2/3程度のあごをかける。なお、男木の梁せいが女木の2/3以下の場合、または仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよい。




あご掛けの場合　　大入れ蟻掛け 仕口直下に柱がある場合

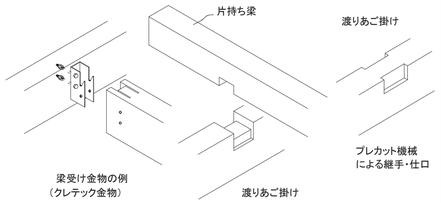
⑤横架材どうしの仕口




プレカット機械による継手・仕口

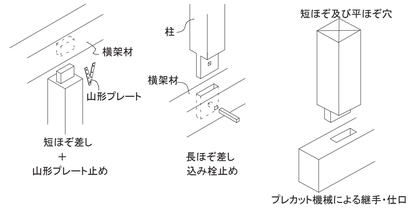
(2)せん断力が母材全断面強度の30%を超える仕口：梁受け金物
（ⅰ)既製品の場合は、製品の許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認する。

(3)一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡りあご掛け
（ⅰ)逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用する。



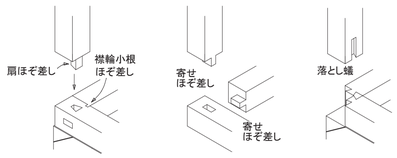

⑥柱と横架材の仕口

(1)柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み栓止め
（ⅰ)短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算または許容応力度計算により必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。

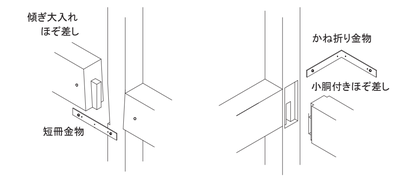


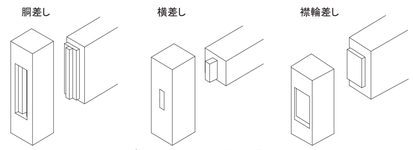

プレカット機械による継手・仕口

(2)土台の出隅入隅部：土台どうしは襟輪小根ほぞ差しまたは寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差しまたは寄せほぞ差し（柱勝ちの場合、落とし蟻または土台を寄せほぞ差しとする）
（ⅰ)短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算または許容応力度計算により必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。




(3)通し柱と胴差：小胴付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物
（ⅰ)梁受け金物以外の仕口には、引張りの補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。

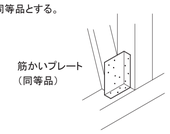



プレカット機械による継手・仕口

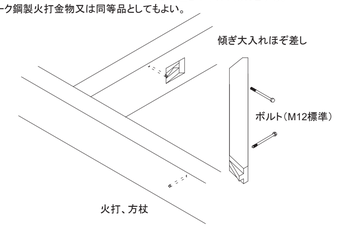
⑦筋かい端部

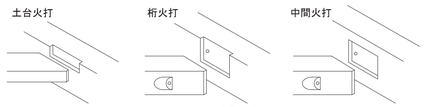
平12建告1460号の仕様又は同等品とする。




8.火打、方杖

(1)角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れほぞ差し＋ボルト締めとする。
(2)Zマーク鋼製火打金物又は同等品としてもよい。

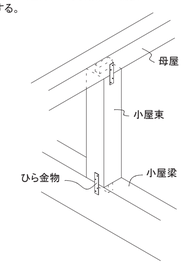



プレカット機械による継手・仕口

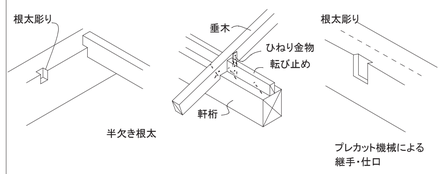
⑨小屋束の上下端部

(1)短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓止めとする。
(2)短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。




⑩根太、垂木と横架材

(1)落とし込み根太：横架材に大入れ または根太掛け＋斜め釘
(2)半欠き根太：横架材に大入れアゴ掛け＋斜め釘
(3)転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に脳天釘止め
　　根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本＋転び止め
(4)垂木：横架材に垂木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
(5)風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。



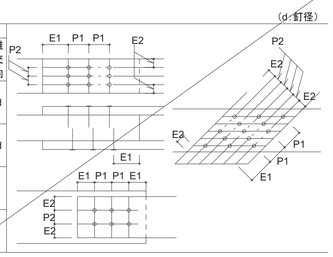

⑪間柱と横架材

(1)上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘
(2)上部ほぞ差し、下部突き付け＋斜め釘

⑫釘の最小間隔及び最小端あき距離

（d：釘径）

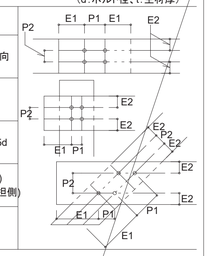
| | | 加力方向 | |
|---|---|---|---|
| | | 繊維方向 | 繊維直交方向 |
| 繊維方向 | E1 | 15d | 10d |
| | P1 | 12d | 10d |
| 繊維直交方向 | E2 | 5d | 8d |
| | P2 | 5d | 8d |




⑬ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

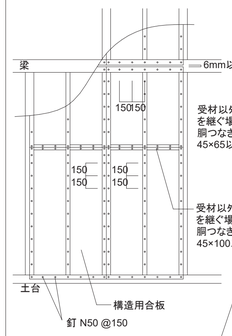
（d：ボルト径、t：主材厚）

| | | 加力方向 | |
|---|---|---|---|
| | | 繊維方向 | 繊維直交方向 |
| 繊維方向 | E1 | 7d(荷重負担側)<br>4d(荷重非負担側) | 7d |
| | P1 | 7d | t/d=2　3d<br>2□ t/d<6　3d～5d<br>t/d>6　5d |
| 繊維直交方向 | E2 | t/d□ 6　1.5d<br>t/d>6　1.5dかつP2/2 | 4d(荷重負担側)<br>1.5d(荷重非負担側) |
| | P2 | 3d | 4d |

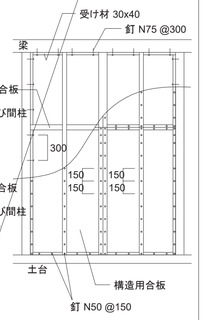



9.13.面材耐力壁

(1)大壁造の場合

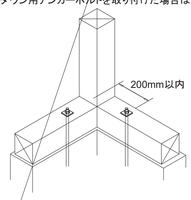



(2)真壁造の場合
受材は、30×40以上を柱・土台・横架材にN75-@300以下で平打ちする。




9.14.アンカーボルト

土台用アンカーボルト
（ⅰ)アンカーボルトは@2,000mm以内に配置する。
（ⅱ)耐力壁等の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれ200mm以内の位置に配置すること。
ただし、ホールダウン用アンカーボルトを取り付けた場合は、省略することができる。





KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）
木造工事補足事項２　－
環境省新宿御苑管理事務所

# 木造軸組工法標準図

## 1.1 軸組標準接合部

S-08 木造工事補足事項２　による。

## 1.2 継手・仕口の補強金物

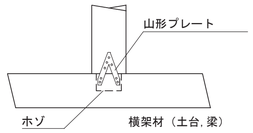
使用する接合金物を事前に監督職員に報告し、了承を得ること。

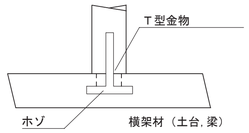
(a) 耐力壁枠柱　柱頭-柱脚

(1) 構造図に記載された耐力壁枠柱の柱脚・柱頭接合部には、
下表の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。または、下図の接合方法とする。
構造図表記の無い場合は、（は）以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。
上階に耐力壁が取り付く場合、下階柱脚の接合金物は上階の接合金物以上の引張耐力を保有すること。

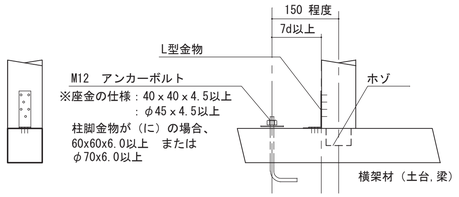
| 構造図表記 | 短期許容引張耐力(kN) | 構造図表記 | 短期許容引張耐力(kN) |
|---|---|---|---|
| い | 0.0kN以上 | と | 15.0kN以上 |
| ろ | 3.4kN以上 | ち | 20.0kN以上 |
| は | 5.1kN以上 | り | 25.0kN以上 |
| に | 7.5kN以上 | ぬ | 30.0kN以上 |
| ほ | 8.5kN以上 | る | 40.0kN以上 |
| へ | 10.0kN以上 | を | 50.0kN以上 |

＜柱脚接合部＞
構造図に表記がない場合
・ 山形プレート等　　・ Ｔ型金物

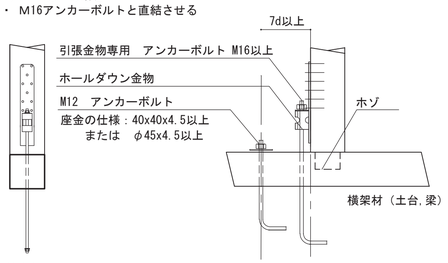


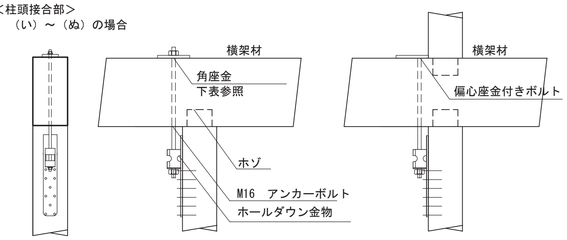

（い）～（ほ）の場合
・ Ｌ型金物　　と　アンカーボルトの併用




（へ）～（ぬ）の場合
・ M16アンカーボルトと直結させる



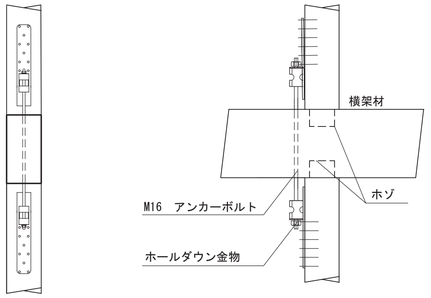

＜柱頭接合部＞
（い）～（ぬ）の場合



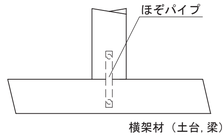

座金サイズ一覧表
ボルトの引張耐力以上のめり込み耐力をもつ座金を使用すること

| 柱頭金物 | 座金サイズ | | |
|---|---|---|---|
| | すぎ類 | ひのき類 | べいまつ類 |
| い | 40x40x4.5以上 φ45x4.5以上 | 40x40x4.5以上 φ45x4.5以上 | 40x40x4.5以上 φ45x4.5以上 |
| ろ | | | |
| は | | | |
| に | 60x60x6.0以上 φ70x6.0以上 | 60x60x6.0以上 φ70x6.0以上 | 60x60x6.0以上 φ70x6.0以上 |
| ほ | | | |
| へ | | | |
| と | 90x90x9.0以上 φ90x9.0以上 | | |
| ち | | 90x90x9.0以上 φ90x9.0以上 | 90x90x9.0以上 φ90x9.0以上 |
| り | 高耐力専用座金 | | |
| ぬ | | | |
| る | | 高耐力専用座金 | 高耐力専用座金 |
| を | | | |

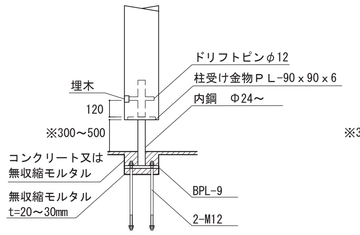
＜柱頭-柱脚接合部＞
（い）～（ぬ）の場合

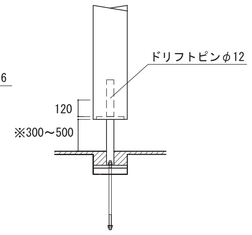



(b) 化粧納まりの柱-横架材接合部
化粧納まりとなる柱脚は下図の接合とすること。
・ ［カナイ］ほぞパイプ




(c) 外部の独立柱（製作金物）

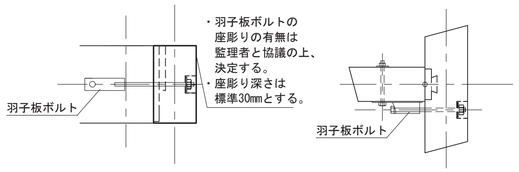


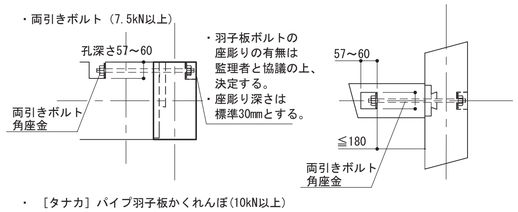

※監理者との協議によって決定する。

(d) 梁・胴差/柱仕口
(1) 梁仕口においては、地震力によって外れ落ちることのないよう、
下図の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。
柱：スギ製材と同等以上、横架材：ベイマツ製材と同等以上とし、
それ以下の性能の場合は、事前に監督職員と協議することとする。

＜ 化粧納まりではない場合 ＞
・羽子板ボルト（7.5kN以上）




＜　化粧納まりの場合　＞
・両引きボルト（7.5kN以上）




・ ［タナカ］パイプ羽子板かくれんぼ(10kN以上)

## 2.1　耐力壁

(a) 一般事項
(1) 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には
同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋かい）を設ける。
(2) 釘打ち機を使用する場合は、釘頭を面材にめり込ませないよう注意する。
(3) 面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みが1.5mmを超えてしまった場合には、隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
(4) 基礎天端は予め清掃、水湿し、モルタルなどを水平に塗り付ける。
または、セルフレベリング材を天端に流して表面を平滑にしてもよい。
(5) 耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
(6) 横架材継手位置は原則として、耐力壁内に設けないこと。

## 2.2　筋かい耐力壁

(a) 施工令46条に準じた筋交耐力壁と告示1460号第1項に基づく筋交端部の接合
S-08　木造工事補足事項２　による。

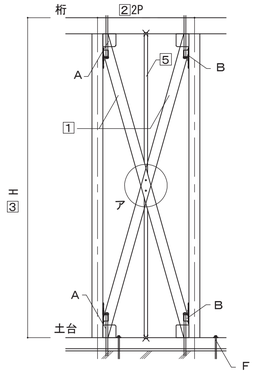
（ホ）45mm×90mmの木材の筋交
(1) 各部材料および寸法

| |
|---|
| 1 筋かい：45mm×90mm以上 |
| 2 柱間隔：900mm≦P≦1000mm |
| 3 高さH≦3000mm：1段、　H＞3000mm：2段<br>2段の場合：6000mm≧H＞3000mm　H1及びH2は、H/2内外 |
| 4 中桟　：幅：柱と同寸、成≧柱幅 |
| 5 間柱　：幅30mm以上、間隔500mm以下　端部は上下横架材の間柱欠きに6～15mm大入れの上、<br>2-N75斜め釘打ち |

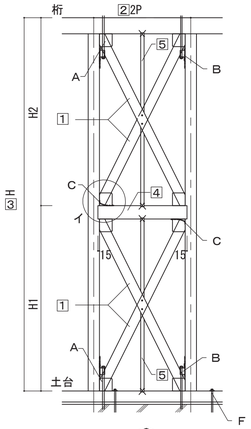
(2) 各部仕口形状及び性能

| |
|---|
| A 筋かい端部：<br>突き付けの上 筋かいプレート（2倍用）を使用、在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプ基本とする |
| B 各階の柱頭柱脚部：<br>ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する |
| C 中桟端部：15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用<br>必要耐力：1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上 |
| D 梁端部在来仕口部補強金物：耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする |
| E 梁端部金物工法梁受け金物：耐力壁の許容剪断力以上の引抜耐力を有するものとする |
| F 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：<br>M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける |

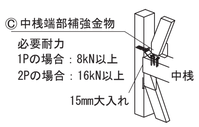
1段の場合（H≦3000mm）



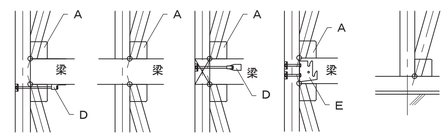

2段の場合（6000mm≧H＞3000mm）



ア詳細図

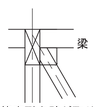



イ詳細図

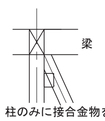



柱勝ち（在来工法）　梁勝ち（在来工法）　柱勝ち（金物工法）　土台勝ち（在来、金物工法共通）

（注）1. 筋かいの芯は、柱と横架材の内法面の交点にあわせる。
2. 接合金物はＺマーク金物またはＺマーク同等品を使用する。
3. 筋交用の材は、目切れ等軽微なもの、
かつ、節経比・集中節比が目視等級1級相当のものを使用する。
4. 下記のような納まりはしない。




筋交耐力壁が取り付く梁と直行する梁に、
接合金物を取り付ける。




柱のみに接合金物を取り付ける。


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）
木造標準図１　－
環境省新宿御苑管理事務所

## 2.3　昭56建告1100号に準じた面材耐力壁

(a) 面材張り大壁仕様耐力壁

(1) 各部材料および寸法

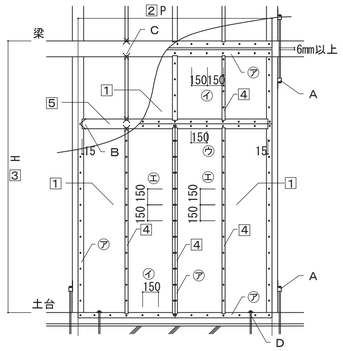
| 壁倍率 | 2.5倍 |
|---|---|
| 1面材 | 構造用合板 t=9mm以上<br>又はOSB t=9mm以上 |
| 2柱間隔 | 600≦P≦2000mm |
| 3高さ | H≦6000mm かつ H≦5P |
| 4間柱 | 幅30以上、間隔500mm以下（合板継目部は幅45mm以上） |
| 5中桟 | 幅90mm以上 |
| 6受け材 | 幅45mm以上 |

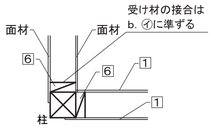
(2) 各部仕口形状及び性能

| |
|---|
| A各階の柱頭柱脚部：ホゾ差し等の上、設計図に記載の金物等を使用する |
| B中桟端部：まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち |
| C間柱端部：間柱欠きに6～15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち |
| D耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：<br>M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に1本ずつ設ける |

(3) 構造用合板の釘打ち方法

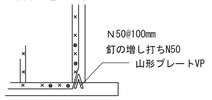
| 壁倍率 | 4.3倍 | 3.7倍-1 | 3.7倍-2 | 2.5倍 |
|---|---|---|---|---|
| 面材の4周を釘打ちする<br>㋐柱及びはりに対するかかり寸法：22.5mm以上<br>合板に対するへり空き：10mm以上<br>柱はりのへり空き：12.5mm以上<br>金物および直交する梁等が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする | | | | |
| ㋑横架材・柱 | N50@75mm以下 | CN50@75mm以下 | N50@75mm以下 | N50@150mm以下 |
| ㋒中桟 | N50@150mm以下 | CN50@150mm以下 | N50@150mm以下 | N50@150mm以下 |
| ㋓間柱 | N50@150mm以下 | CN50@150mm以下 | N50@150mm以下 | N50@150mm以下 |




両面張り耐力壁出隅部要領図

大壁造の面材耐力壁において、面材の四隅を切り欠いて山形プレートを柱と横架材に直接釘打ちする場合は下図のように近傍に釘の増打ちをする。




(b) 受材付き真壁仕様耐力壁

(1) 各部材料および寸法

| 壁倍率 | 4.0倍 | 3.3倍-1 | 3.3倍-2 | 2.5倍 |
|---|---|---|---|---|
| 1面材 | 構造用MDF t=9mm以上　又は<br>構造用PB t=9mm以上 | 構造用合板<br>t=9mm以上 | OSB<br>t=9mm以上 | 構造用合板 t=9mm以上<br>又はOSB t=9mm以上 |
| 2柱間隔 | 600≦P≦2000mm | | | |
| 3高さ | H≦6000mm かつ H≦5P | | | |
| 4間柱 | 幅30以上、間隔500mm以下（合板継目部は幅90mm以上） | | | |
| 5中桟 | 幅90mm以上 | | | |
| 6受け材 | 幅45mm以上、成30mm以上 | | | |

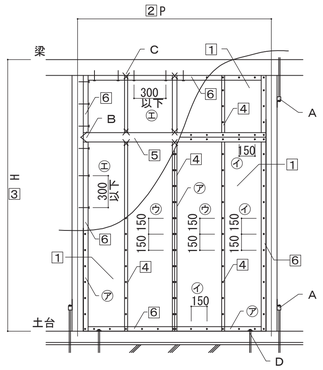
(2) 各部仕口形状及び性能

| |
|---|
| A各階の柱頭柱脚部：ホゾ差し等の上、設計図に記載の金物等を使用する |
| B中桟端部：突き付けの上、2-N75斜め釘打ち |
| C間柱端部：突き付けの上、2-N75斜め釘打ち |
| D耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：<br>M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から200mm内外）に１本ずつ設ける |

(3) 構造用合板の釘打ち方法

| 壁倍率 | 4.0倍 | 3.3倍-1 | 3.3倍-2 | 2.5倍 |
|---|---|---|---|---|
| 面材の4周を釘打ちする<br>㋐柱及びはりに対するかかり寸法：22.5mm以上<br>合板に対するへり空き：10mm以上<br>柱はりのへり空き：12.5mm以上<br>金物および直交する梁等が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする | | | | |
| ㋑受材、中桟 | N50@75mm以下 | CN50@75mm以下 | N50@75mm以下 | N50@150mm以下 |
| ㋒間柱 | N50@150mm以下 | CN50@150mm以下 | N50@150mm以下 | N50@150mm以下 |
| ㋓受材と柱梁 | N75@120mm以下 | N75@200mm以下 | N75@200mm以下 | N75@300mm以下 |

（両面構造用合板（またはOSB）張りの場合は@150以下）




## 2.4　その他の耐力壁

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠し、仕様については設計図による。

(2) 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様に準拠する。

(3) 大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。

## 3.1　水平構面

(a) 一般事項

(1) 各部仕口形状は、1.1による。

(2) 構造図に記載された水平構面は、3.2の（a）に記載されている＜A＞～＜F＞の仕様とする。

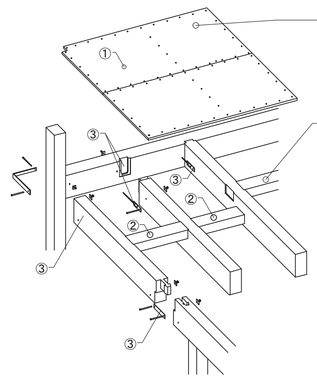
(3) 木造軸組接合部標準図の詳細計算法による水平構面については、木造軸組み工法住宅の許容応力度設計同書の規定に準拠することとし、 釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。

(4) 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

## 3.2　水平構面の仕様

(a) 各水平構面の仕様

＜A＞日の字釘打ち



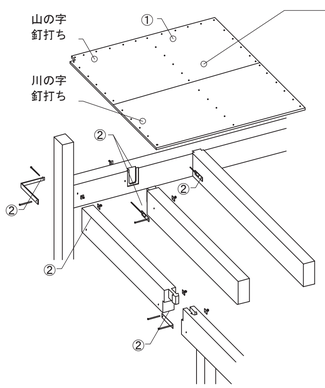

①面材　：構造用合板t=24mm～30mm
　　横架材に直貼
釘打及び：構造用合板はN75@150mm
ビス止め：日の字釘打ちで横架材,
　　甲乙梁,床受材に留め付ける

②甲乙梁：構造用合板の継目及び釘打ちを
　　行う部分の直下には甲乙梁を設ける
　　幅45mm以上×せい45mm以上
　　梁及び甲乙梁の間隔1000mm以下
仕口：甲乙梁端部は小梁に対して
　　深さ15mm程度の大入れ
　　＋　N75 1本斜め打ち

③各部仕口形状及び性能
　水平力時に継手、仕口各部へ生じる
　引張力を上回る耐力の金物を使用する

※高低差のある梁へは側面に床受け材
　（幅45mm以上、高さ90mm以上）を
　N90@150で取り付け、
　構造用合板を受ける構成とする

＜B＞川の字釘打ち




①面材　：構造用合板t=24mm～30mm
　　横架材に直貼
釘打及び：構造用合板はN75@150mm
ビス止め：川の字釘打ちで横架材,
　　床受材に留め付ける

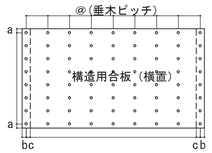
（注意）
(1) 水平構面外周部の横架材に面材が載る場合、
　N75@150mm山の字釘打ちとする
(2) 左図のように梁に対して
　90°回転させて面材を貼る

②各部仕口形状及び性能
　水平力時に継手、仕口各部へ生じる
　引張力を上回る耐力の金物を使用する

※高低差のある梁へは側面に床受け材
　（幅45mm以上、高さ90mm以上）を
　N90@150で取り付け、
　構造用合板を受ける構成とする

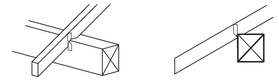
＜E＞垂木-合板

①面材　　：構造用合板t=9mm～15mm（横置）
釘打及び
ビス止め　：N50@150mm川の字打ちで垂木に留め付ける

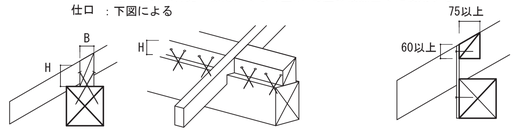



構造用合板の釘打ち
a:　面材上下端まで 10mm
b:　面材左右端まで 10mm
c:　軸材端まで（最小値）12.5mm

②垂木　　：幅45mm以上×せい45mm～90mm@500mm以下
(a)仕口　：垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち
　　及び、吹上対策としてひねり金物を使用する

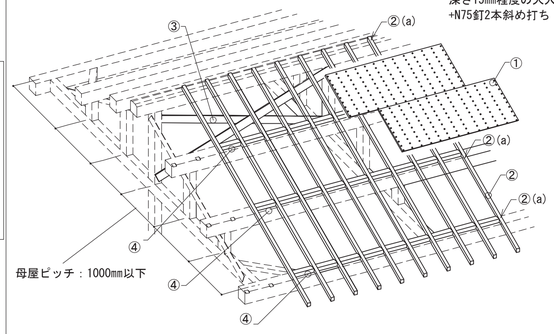


③小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上、または面材
　　小屋組には振れ止めとして、小屋耐力壁（くも筋かいまたは面材）を設ける
　　耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、
　　耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁を設ける
　仕口：くも筋かい端部は平12建告1460号の筋かい耐力壁の接合
④転び止め：転び止めを設ける場合は下図による
　　転び止めは軒先・棟だけでなく垂木-母屋の接点全てに使用する
　仕口：下図による




(H≦240)
転び止めの幅：H≦180⇒B≧60、180＜H≦240⇒B≧90
　　天端は屋根面に合わせて切り欠く
接合金物　：N75釘4本(表2本と裏2本を千鳥配置)斜め打ち

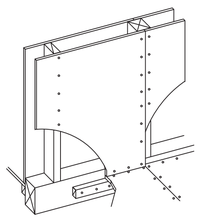
(H＞240)
転び止め：構造用合板：t=12mmに
　　60以上x75以上の受け材を
　　N75くぎを100mmピッチで
　　留め付ける
接合金物：受け材は直交材に
　　深さ15mm程度の大入れ
　　+N75釘2本斜め打ち

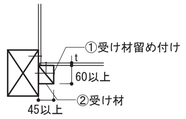


## 3.3 耐力壁と床納まり

(a) 壁勝ち納まり

⊙大壁合板耐力壁-床構面

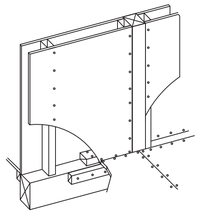


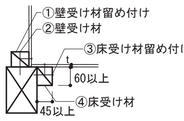



①受け材留め付け
床面合板厚さ　t=12mm：N75又はCN75@200以下
床面合板厚さ　t=24mm：CN90@150以下

②受け材
床面合板厚さ　t=12mm：幅45mm以上ｘせい（見付）60mm以上
床面合板厚さ　t=24mm：幅45mm以上ｘせい（見付）60mm以上

⊙真壁合板耐力壁-床構面





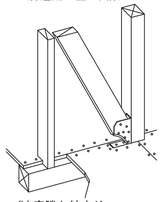

①壁受け材留め付け
片面真壁　：N90又はCN90@300以下
両面真壁　：N90又はCN90@150以下

②壁受け材
片面真壁　：幅45mm以上ｘせい（見付）45mm以上
両面真壁　：幅60mm以上ｘせい（見付）45mm以上

③床受け材留め付け
床面合板厚さ　t=12mm：N75又はCN75@200以下
床面合板厚さ　t=24mm：CN90@150以下

④床受け材
床面合板厚さ　t=12mm：幅45mm以上ｘせい（見付）60mm以上
床面合板厚さ　t=24mm：幅45mm以上ｘせい（見付）60mm以上

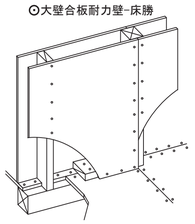
⊙筋違耐力壁-床構面

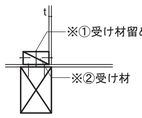


床の面材を切り欠いて、筋交い端部金物を設置、
金物周囲の面材に釘打ちし、補強する

(b)床勝ち納まり

⊙大壁合板耐力壁-床勝



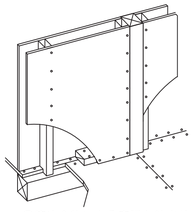


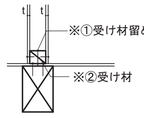

（床勝:告示仕様）
告示1100号

（床勝:大臣認定仕様）
認定番号（ FRM-0296 ）
認定番号（ FRM-0334 ）
認定番号（ FRM-0414 ）
認定番号（ FRM-0336 ）

※受け材留め付けの釘ピッチ、釘サイズおよび受け材サイズは
告示仕様または、大臣認定仕様を参照すること

⊙真壁合板耐力壁-床勝



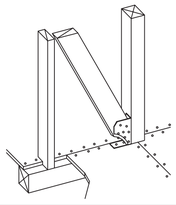



（床勝:告示仕様）
告示1100号

（床勝:大臣認定仕様）
認定番号（ FRM-0298 ）
認定番号（ FRM-0339 ）
認定番号（ FRM-0483 ）
認定番号（ FRM-0338 ）

※受け材留め付けの釘ピッチ、釘サイズおよび受け材サイズは
告示仕様または、大臣認定仕様を参照すること

⊙筋違金物による床勝ち納まり

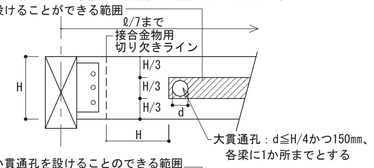


指定の筋交金物を床の面材の上から固定する

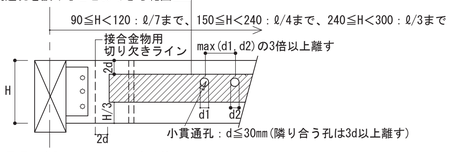
筋違耐力壁-床構面
床合板対応タイプの筋違金物
［カネシン］PS筋かい金物合板タイプ
［タナカ］金物工法用2倍筋交　床合板仕様 2倍筋かい＜マルチ＞
［カナイ］スラッシュ筋かいボックスGN

## 4.1 梁貫通孔の条件及び仕様

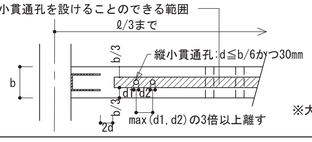
貫通孔を開ける場合には、事前に監督職員と協議することとする。
大貫通孔を設けることができる範囲




梁の側面に小貫通孔を設けることのできる範囲



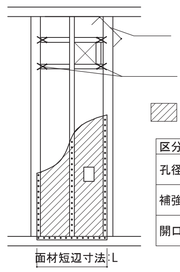

梁の上下面に小貫通孔を設けることのできる範囲




※大貫通孔は不可　d：貫通孔径
ℓ：梁の中心間スパン

## 4.2 耐力壁貫通孔

(a) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計
壁倍率7倍までの孔開けルール



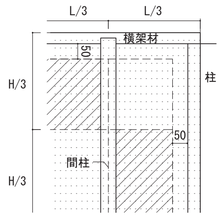

大貫通孔の場合：
四周を受材等で補強して面材を釘打ち

水平方向の受材等は両端を軸組の柱に対し
斜めビス止め等で緊結する

部：小貫通孔を設けることができる範囲

| 区分 | 小貫通孔 | 大貫通孔 |
|---|---|---|
| 孔径 | 12tかつL/6以下<br>（t:面材厚） | L/2かつ30cm<br>程度以下 |
| 補強対応 | 補強不要 | 四周に補強受材を<br>設け面材を釘打ち |
| 開口数 | 面材1枚につき<br>3か所まで可 | 面材1枚につき<br>1か所のみ可 |

(b) 高耐力仕様合板貼耐力壁
壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール(JIS A 3301準拠)

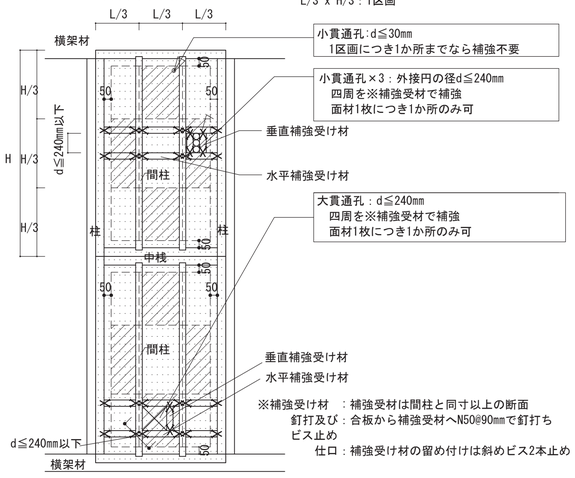



貫通孔を設けることのできる位置
1枚の合板の幅方向（L)を3分割し、高さ方向（H)を3分割して
9区画に分割したうちの左図、下図に示す4区画とする
さらに、その区画において、柱、横架材及び中桟の内端から
50mmのラインより内側の範囲で、間柱を避けた位置とする

部：面材範囲
H x L：面材1枚の大きさ

部：小開口を設けることが
できる範囲

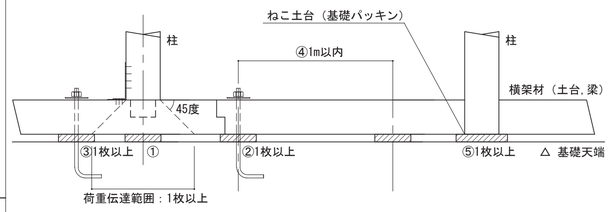
L/3 x H/3：1区画




※補強受け材　：補強受材は間柱と同寸以上の断面
釘打及び：合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち
ビス止め
仕口：補強受け材の留め付けは斜めビス2本止め

## 4.3 ねこ土台（基礎パッキン）

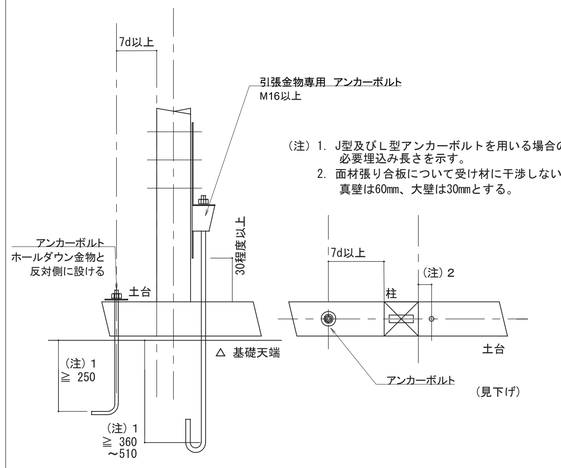
(a) 一般事項
・ねこ土台の設置はメーカーの仕様による。メーカーの指定がない場合は下記による。
・気密パッキンの仕様は意匠図による。
(b) ねこ土台の敷込箇所は以下の規定に従って設置する。
①集中荷重の生じる部分
②土台の継手部分
③アンカーボルトの緊結部分
④敷込の設置間隔は1m以下とする
⑤独立柱・床束等の木部下端小口がコンクリート等と接する部分
・その他、構造耐力上必要とされる部分
(c) ねこ土台の敷込枚数は以下の規定に従って設置する。
・主要な耐力壁の軸通りが交差する部分：2枚以上
・集中荷重を受ける部分の荷重伝達範囲内：1枚以上
・アンカーボルトの緊結部分及び独立柱や床束等の小口部分：1枚以上
・その他、上部構造荷重の伝達範囲で間隔1mに達する部分：1枚以上




(c) 基礎天端の水準レベルの調整は基礎天端用のセルフレベリング材を使用する
(d) 不備の対処方法は以下の規定に従う。
(1)敷込間隔などの不備が生じた場合には、土台を持ち上げて敷込設置の調整を行う
(2)ねこ土台と土台の間に隙間が生じる場合は、
専用の調整板を差し込み、土台の事後の不陸発生防止に備える
調整板を使用する場合は、以下の規定に従って設置する。
・調整の重ね枚数は2枚まで（6mm以内）とする
・調整板の差し込みは下記いずれかの方法による。
・調整板はねこ土台の両サイド（基礎の内側と外側）から、
基礎パッキンの上(土台との隙間）に差し込む
・基礎パッキンを一旦取り外し、調整板をセットしてから
基礎パッキンを元の位置に戻してセットする
・調整板が手で入らない場合はハンマーで軽く叩き込んで完全に挿入する

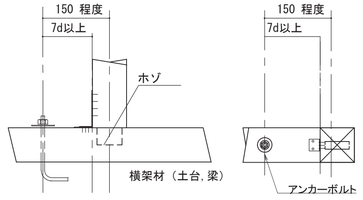
## 5.1 アンカーボルト

(a) 土台固定用アンカーボルト
（1）アンカーボルトの埋設位置は（2）、（3）、（4）、（5）による。
（2）柱脚金物が基礎に直結する場合は下図による。



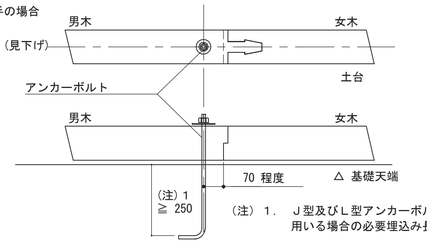

（注）1. J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の
必要埋込み長さを示す。
2. 面材張り合板について受け材に干渉しないよう、
真壁は60mm、大壁は30mmとする。

（2）基礎と直結しない金物とアンカーボルトを併用する場合は下図による。
耐力壁(筋かい、合板仕様共通)の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より150mm内外)と
する。柱が150角より大きく、下図の納まりとできない場合、事前に監督職員と協議することとする。



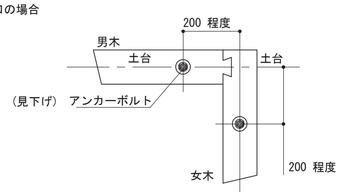

（4）土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。
当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。

継手の場合

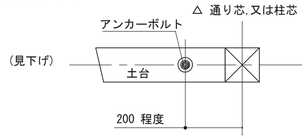



（注）1. J型及びL型アンカーボルトを
用いる場合の必要埋込み長さを示す。

仕口の場合




土台切れの場合
（柱勝ち収まり等）




（5）上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。

(b) 引張金物専用アンカーボルト
（1）引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。
（2）引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる
場合は、引張金物の性能に応じ下表の通りとする。

| 引張金物の短期許容応力 | 埋め込み深さ |
|---|---|
| 25.5kN （り）相当 以下 | 360mm |
| 35.5kN （ぬ）相当 以下 | 510mm |

その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９ 1階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）
木造標準図３　－
環境省新宿御苑管理事務所

(c) その他

(1) アンカーボルトは指定された位置に正確・堅固に先付けとする。頂部はアンカープレートなどにより型枠に固定し、下部はアンカーキャッチャーもしくは結束線により付近の鉄筋に緊結し、コンクリート打設時に位置がずれないように配慮する。

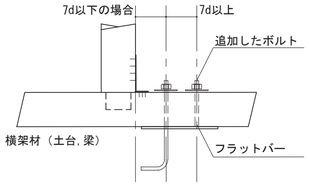
(2) 親子フィラー柱脚工法 ［SASST技術評価　第14-01号］（同等品可）の適用は以下による。
　・　鉄骨のBPLを介する柱脚
上記の他、コンクリート打設時にアンカーボルトが位置ずれした箇所に採用してもよい。

(3) コンクリート打設後のアンカーボルト差込み（田植え）は厳禁とする。

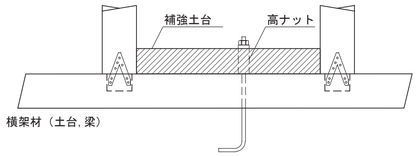
(4) アンカーボルトの位置がずれた場合の対応は、(5)、(6)、(7)、(8) による。
使用する方法を事前に監督職員に報告し、了承を得ること。

(5) アンカーボルトの位置が柱に近すぎた場合、または遠すぎた場合、下図のように対応する。

・（近すぎた場合）ボルトを追加し、フラットバーでつないで補強する

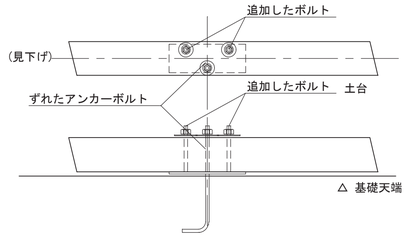



・（遠すぎた場合）土台を重ねて補強する




(6) アンカーボルトの縁あき距離が1.5d以上確保できない、
または座金が土台からはみ出す場合、下図のように対応する。

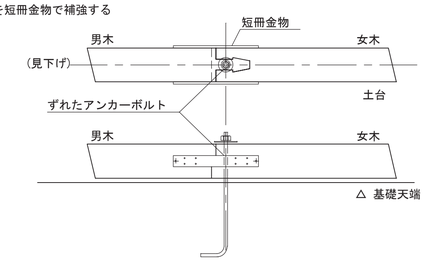
・ボルトを追加し、フラットバーでつないで補強する




(7) アンカーボルトが土台継手に近すぎた場合、または干渉する場合、下記いずれかの対応とする。

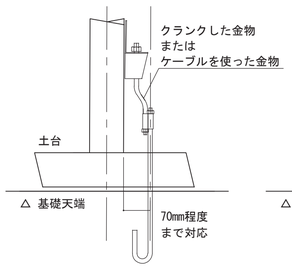
・継手の位置を移動する

・継手を短冊金物で補強する

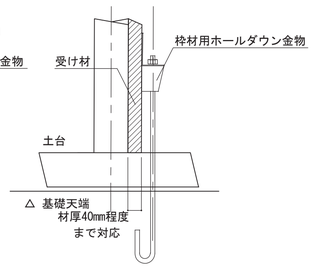



(8) 引張金物専用アンカーボルトの位置がずれた場合、下図のように対応する。

・位置調整金物を使用する




・枠材用ホールダウン金物を使用する




## 6.1　接合一般

(a) 一般事項

(1) 仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。

(2) 接合金物および接合具は本章にて図示したもののほか、監督職員の承諾を得て、同等以上の短期基準引張耐力を有するものを用いてもよい。

(b) 釘接合

(1) 釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。

(2) 面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。

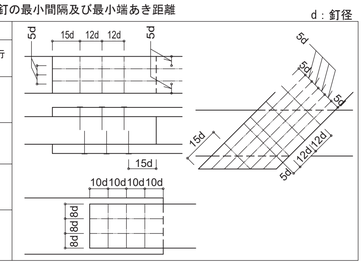
(3) 自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。

(4) 構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

(5) 木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

釘の最小間隔及び最小端あき距離　　d：釘径

| | | 加力方向 | |
|---|---|---|---|
| | | 繊維方向 | 繊維直行方向 |
| 繊維方向 | 縁端距離（荷重負担側） | 15d | 10d |
| 繊維方向 | 釘間隔 | 12d | 10d |
| 繊維直行方向 | 縁端距離 | 5d | 8d |
| 繊維直行方向 | 釘間隔 | 5d | 8d |




(c) 木質構造用ビス接合

(1) 木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

(2) 先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。
比重が0.5以上の樹種・・・・呼び径の60～75%
上記以外の樹種　　・・・・呼び径の40～70%
先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。

(3) 特記なき場合の配列基準は釘の最小間隔及び最小縁あき距離の表に準ずる。

(d) ボルト接合

(1) 締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。

(2) ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付ない。

(3) 締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから２山以上突き出ていることを確認する。ただし、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。

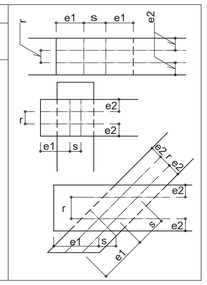
(4) 引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。

(5) 一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

(6) 座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。

ボルト・ラグスクリュー・ドリフトピンの最小間隔及び最小端あき距離　　d：ボルト径、ℓ：主材厚

| | | 加力方向 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 繊維方向 | 繊維直行方向 | 中間角度 |
| 繊維方向 | e1 | 7d（荷重負担側）<br>4d（荷重非負担側） | 7d | 角度に応じて繊維方向と繊維直行方向の値の中間値をとる |
| 繊維方向 | s | 7d | ℓ/d=2　3d<br>2≦ℓ/d<6　3-5d<br>ℓ/d≧6　5d | |
| 繊維直行方向 | e2 | t/d≦6　1.5d<br>t/d>6　1.5dかつr/2 | 4d　（荷重負担側）<br>1.5d（荷重非負担側） | |
| 繊維直行方向 | r | 3d | 4d | |




(7) 設計図及び標準図記載以外の座金、座彫り深さ、埋木厚さは、特記なき限り用途ごと（引張、せん断）に下表により使い分ける。
尚、ボルトとの組み合わせにより耐力が決まっている羽子板ボルト等の座金は、その仕様に準ずる。

引張を受けるボルト（角座金サイズ）

| ボルト呼び径 | ボルト引張耐力 | 角座金サイズ | | |
|---|---|---|---|---|
| | (kN) | すぎ類 | ひのき類 | べいまつ類 |
| M8 | 8.6 | 50x50x4.5 | 50x50x4.5 | 40x40x4.5 |
| M10 | 13.6 | 80x80x9.0 | 60x60x6.0 | 50x50x4.5 |
| M12 | 19.8 | | 80x80x9.0 | 60x60x6.0 |
| M16 | 36.9 | 105x105x9.0 | 105x105x9.0 | 105x105x9.0 |
| M20 | 57.6 | 125x125x13.0 | 115x115x13.0 | |
| M24 | 83.0 | － | － | 125x125x13.0 |

引張を受けるボルト（丸座金サイズ）

| ボルト呼び径 | ボルト引張耐力 | 丸座金サイズ | | |
|---|---|---|---|---|
| | (kN) | すぎ類 | ひのき類 | べいまつ類 |
| M8 | 8.6 | φ60x4.5 | φ60x4.5 | φ60x4.5 |
| M10 | 13.6 | φ70x6.0 | | |
| M12 | 19.8 | φ90x9.0 | φ90x9.0 | φ70x6.0 |
| M16 | 36.9 | φ120x9.0 | φ120x9.0 | φ120x9.0 |
| M20 | | φ140x13.0 | φ130x13.0 | |
| M24 | | － | － | φ140x13.0 |

せん断を受けるボルト

| ボルト呼び径 | 座金サイズ | |
|---|---|---|
| | 角座金サイズ | 丸座金サイズ |
| M8 | 25x25x3.2 | φ30x3.2 |
| M10 | 30x30x3.2 | φ35x3.2 |
| M12 | 35x35x3.2 | φ38x3.2 |
| M16 | 50x50x4.5 | φ48x4.5 |
| M20 | 60x60x6.0 | φ58x6.0 |
| M24 | 70x70x6.0 | φ68x6.0 |

座彫り深さ・埋木深さ
（座彫り・埋木適用：化粧梁）

| ボルト呼び径 | 座彫り深さ/埋木深さ |
|---|---|
| M8 | 25 / 8 |
| M10 | 30 / 8 |
| M12 | 35 / 10 |
| M16 | 40 / 10 |
| M20 | 45 / 12 |
| M24 | 50 / 12 |

(8) 埋木を施す箇所は緩み止め機能付きのナットを採用し、ねじ山を2山以上残す。

(9) ボルトが断熱層を貫通する際は接合する柱梁等の幅1/4程度の吹付け断熱を室内側に施す。

(10) 乾燥収縮等によりナットに緩みが生じないよう、原則としてスプリングワッシャー（同等品可）に加え、緩み止め機能付きナットを使用する。

(11) 埋木を施す箇所は緩み止め機能付きのナットを採用し、ねじ山を２山以上残す。

(e) ラグスクリュー接合

(1) 締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。

(2) 先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。
比重が0.5以上の樹種・・・・呼び径の60～75%
上記以外の樹種　　・・・・呼び径の40～70%
先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。

(3) ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。

(4) 一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。

(5) 鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジとし転造ネジを用いてはならない。

(f) ドリフトピン接合

(1) ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。

(2) ドリフトピンは、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材（含水率15%以下）とする。

(3) 施工に際しては、孔に対しテーパーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。

(4) ドリフトピンの先端テーパー部の長さは図示による。特記なき場合は、10mm以下とする。

(g) 木栓接合

(1) 木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。

(2) 木栓は、原則として、集成材やＬＶＬ等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はＫＤ材（含水率15%以下）とする。

(3) 施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないよう注意し、無理な打撃を加えてはならない。

(4) 木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。

(5) 木栓はナラ・ケヤキ・カシ等、気乾比重0.6以上の広葉樹で、節や目切れ等の欠点の無いものとし先端は、3～5mm程度面取りする。

(6) 雇い材は骨組み材と同材以上または堅木とする。

(h) グルードインロッド接合

(1) グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。

(2) グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材（含水率15%以下）とする。

(3) 施工に際しては所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。

(4) 接着剤等の注入・充填の直前に十分に清掃を行い、孔内から木くずやほこり等の不純物を除去する。

<凡例>

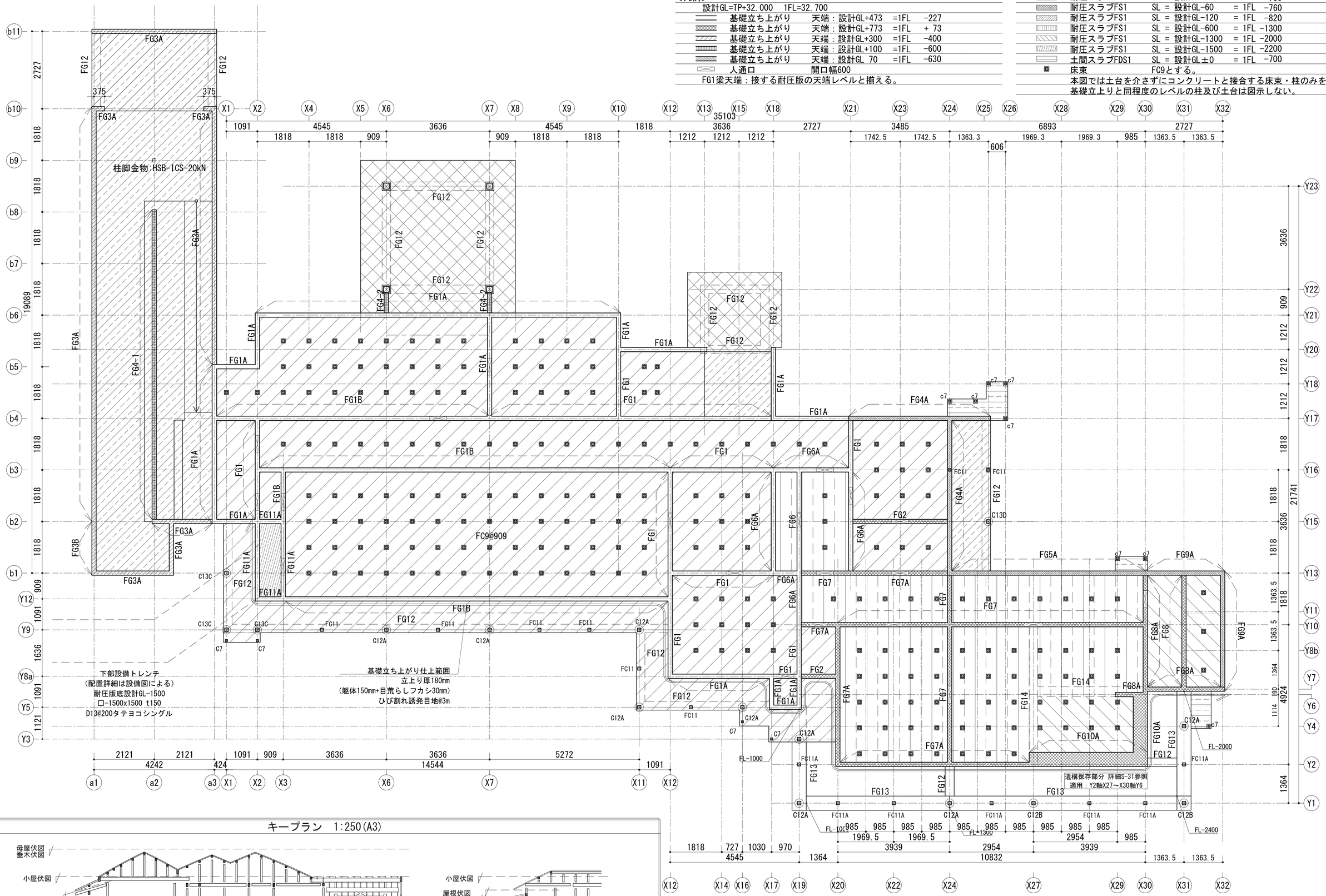
設計GL=TP+32.000　1FL=32.700

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 基礎立ち上がり | 天端：設計GL+473 | =1FL | -227 |
| 基礎立ち上がり | 天端：設計GL+773 | =1FL | + 73 |
| 基礎立ち上がり | 天端：設計GL+300 | =1FL | -400 |
| 基礎立ち上がり | 天端：設計GL+100 | =1FL | -600 |
| 基礎立ち上がり | 天端：設計GL 70 | =1FL | -630 |
| 人通口 | 開口幅600 | | |

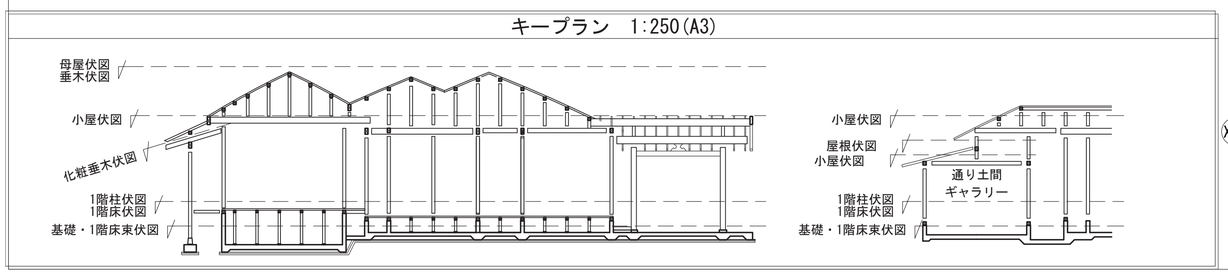
FG1梁天端：接する耐圧版の天端レベルと揃える。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL±0 | = 1FL | -700 |
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL-60 | = 1FL | -760 |
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL-120 | = 1FL | -820 |
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL-600 | = 1FL | -1300 |
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL-1300 | = 1FL | -2000 |
| 耐圧スラブFS1 | SL = 設計GL-1500 | = 1FL | -2200 |
| 土間スラブFDS1 | SL = 設計GL±0 | = 1FL | -700 |
| 床束 | FC9とする。 | | |

本図では土台を介さずにコンクリートと接合する床束・柱のみを示し、基礎立上りと同程度のレベルの柱及び土台は図示しない。




キープラン　1:250(A3)



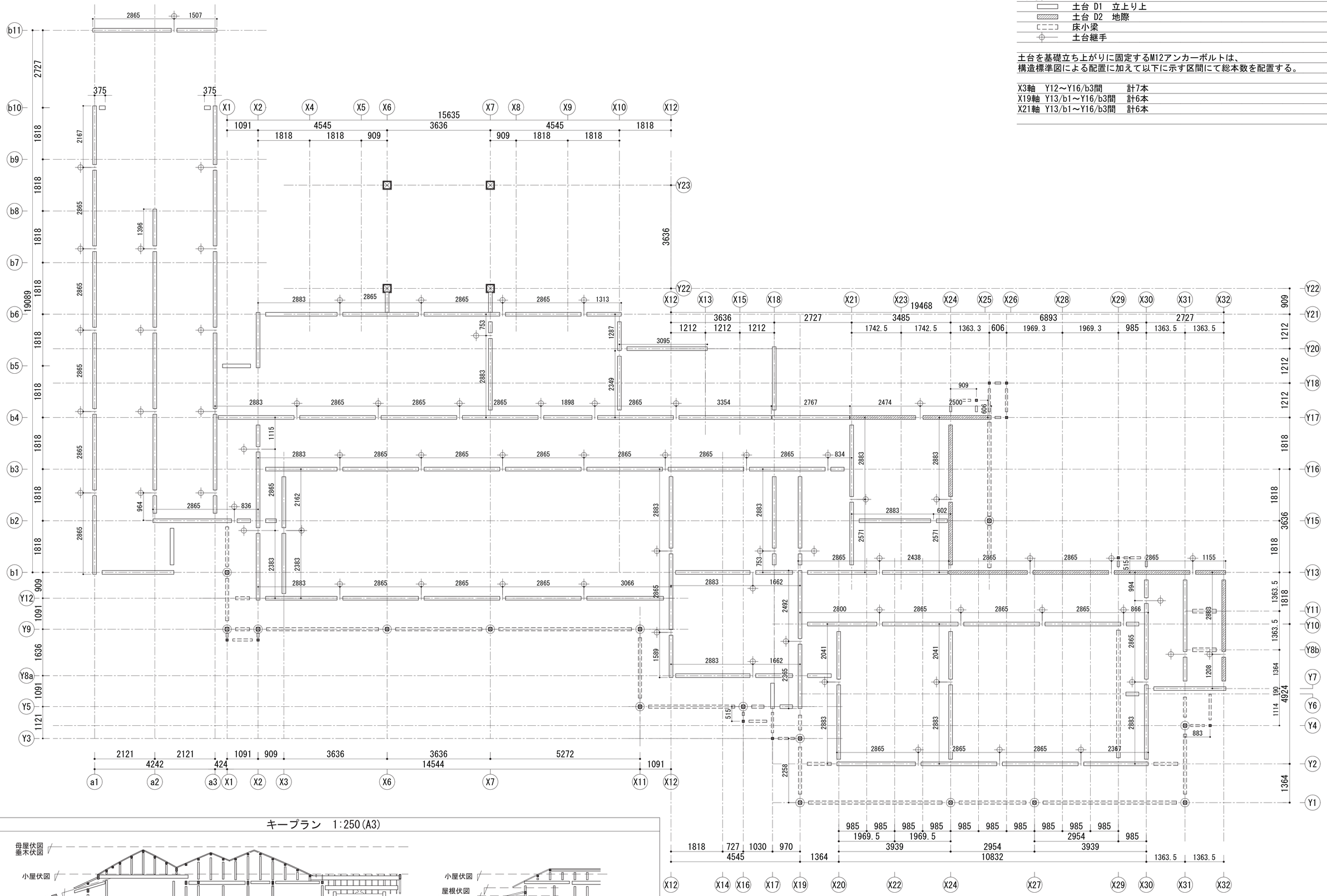

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９ 1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）<br>基礎伏図<br>A1:1/ 60<br>A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-14<br>99<br>164 |

<凡例>

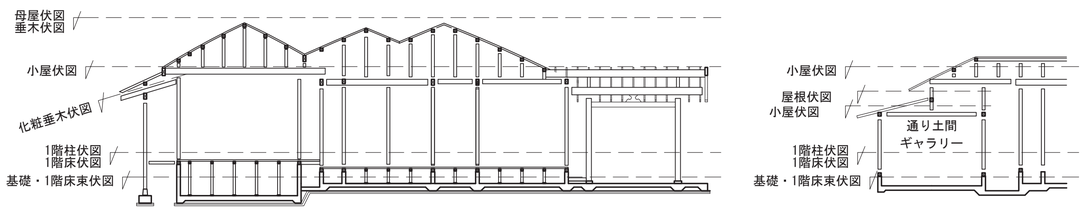
- 土台 D1　立上り上
- 土台 D2　地際
- 床小梁
- 土台継手

土台を基礎立ち上がりに固定するM12アンカーボルトは、
構造標準図による配置に加えて以下に示す区間にて総本数を配置する。

| | | |
|---|---|---|
| X3軸 | Y12～Y16/b3間 | 計7本 |
| X19軸 | Y13/b1～Y16/b3間 | 計6本 |
| X21軸 | Y13/b1～Y16/b3間 | 計6本 |




キープラン　1:250(A3)

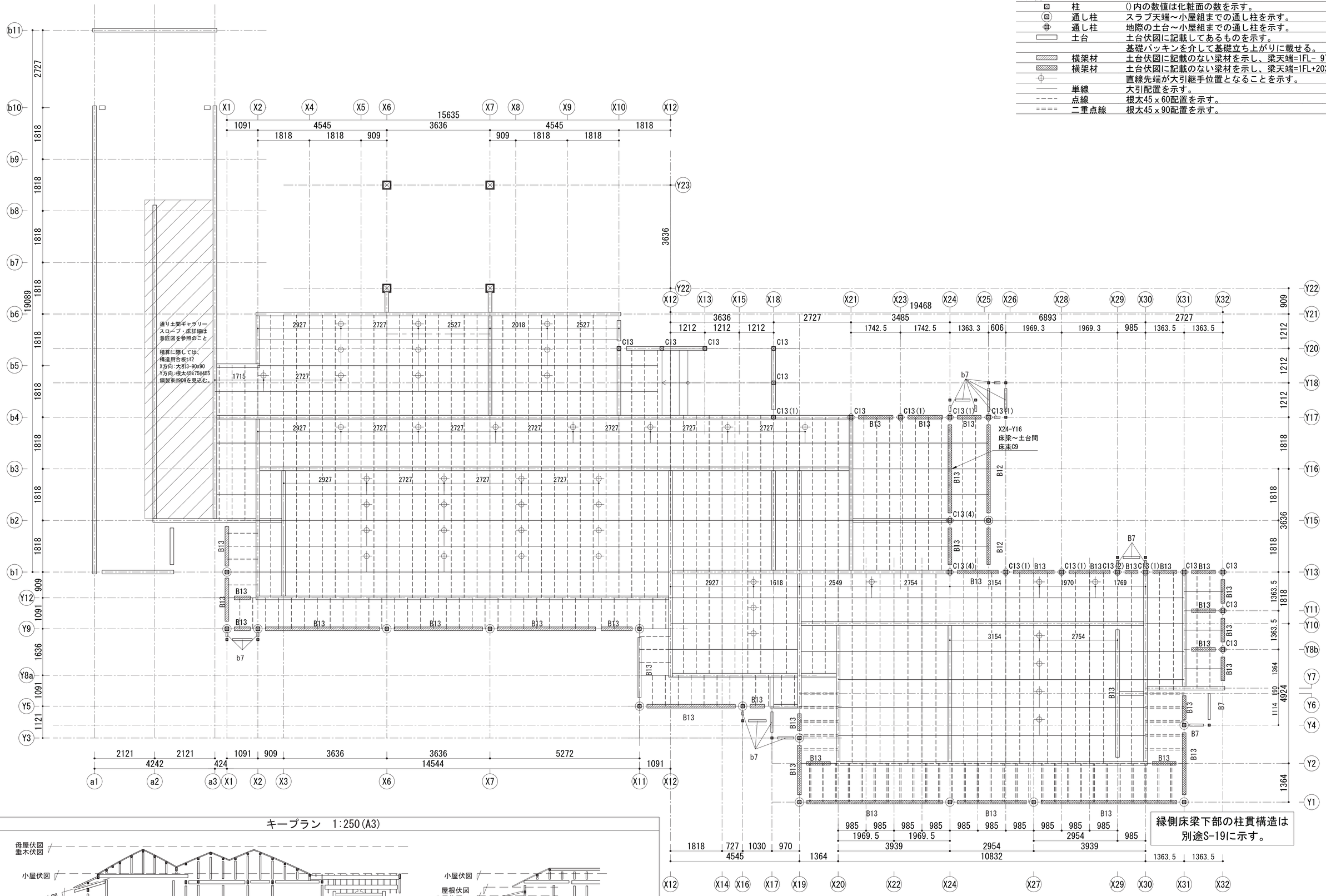



| | | |
|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)<br>土台伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 |

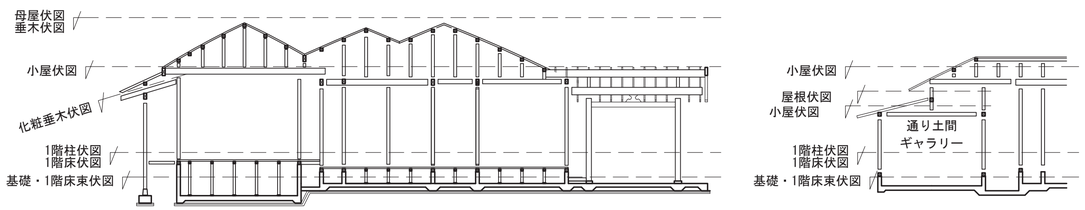
S-15
100
164

<凡例>

| | | |
|---|---|---|
| ⊠ | 柱 | ()内の数値は化粧面の数を示す。 |
| ⊠ | 通し柱 | スラブ天端～小屋組までの通し柱を示す。 |
| ⊠ | 通し柱 | 地際の土台～小屋組までの通し柱を示す。 |
| ▭ | 土台 | 土台伏図に記載してあるものを示す。 |
| | | 基礎パッキンを介して基礎立ち上がりに載せる。 |
| ▨ | 横架材 | 土台伏図に記載のない梁材を示し、梁天端=1FL- 97 |
| ▩ | 横架材 | 土台伏図に記載のない梁材を示し、梁天端=1FL+203 |
| ⊕ | | 直線先端が大引継手位置となることを示す。 |
| ——— | 単線 | 大引配置を示す。 |
| - - - - | 点線 | 根太45ｘ60配置を示す。 |
| ==== | 二重点線 | 根太45ｘ90配置を示す。 |




キープラン　1:250(A3)




| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ｉ)<br>1階床伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-16<br>101<br>164 |

＜凡例＞

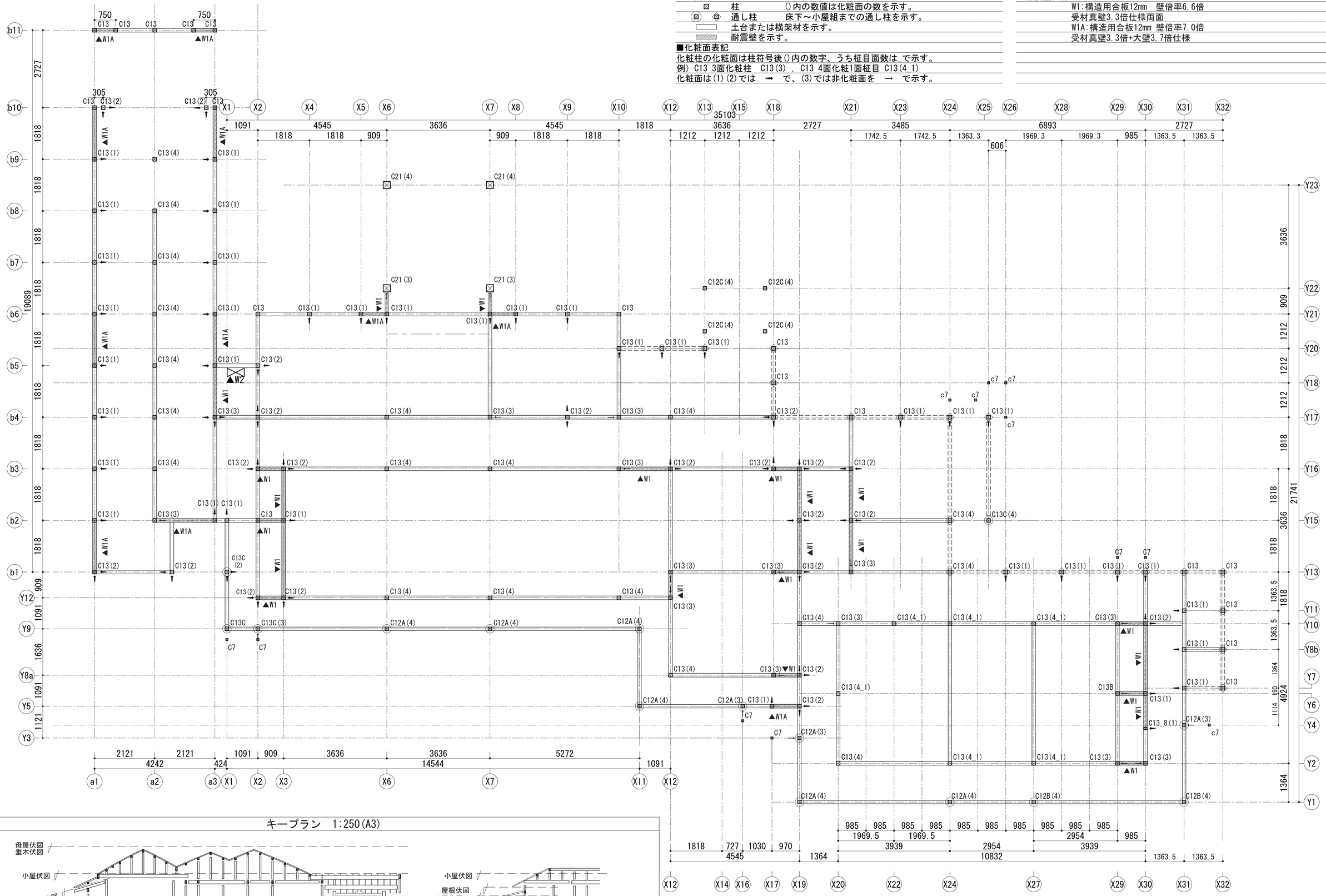
- 柱　　()内の数値は化粧面の数を示す。
- 通し柱　　床下～小屋組までの通し柱を示す。
- 土台または横架材を示す。
- 耐震壁を示す。

■化粧面表記

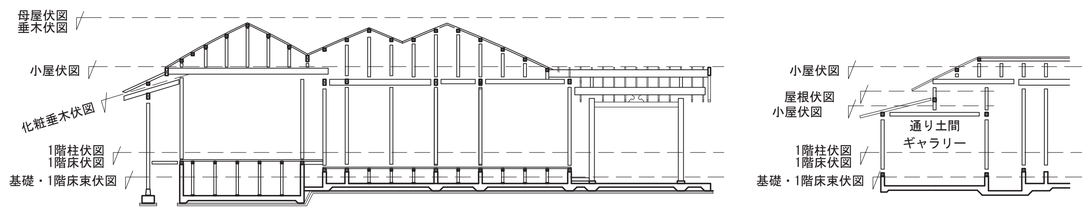
化粧柱の化粧面は柱符号後()内の数字、うち柱目面数は_で示す。
例) C13 3面化粧柱　C13(3) , C13 4面化粧1面柱目 C13(4_1)
化粧面は(1)(2)では　➡　で、(3)では非化粧面を　→　で示す。

□耐震壁仕様

W1:構造用合板12mm　壁倍率6.6倍
受材真壁3.3倍仕様両面
W1A:構造用合板12mm 壁倍率7.0倍
受材真壁3.3倍+大壁3.7倍仕様




キープラン　1:250(A3)



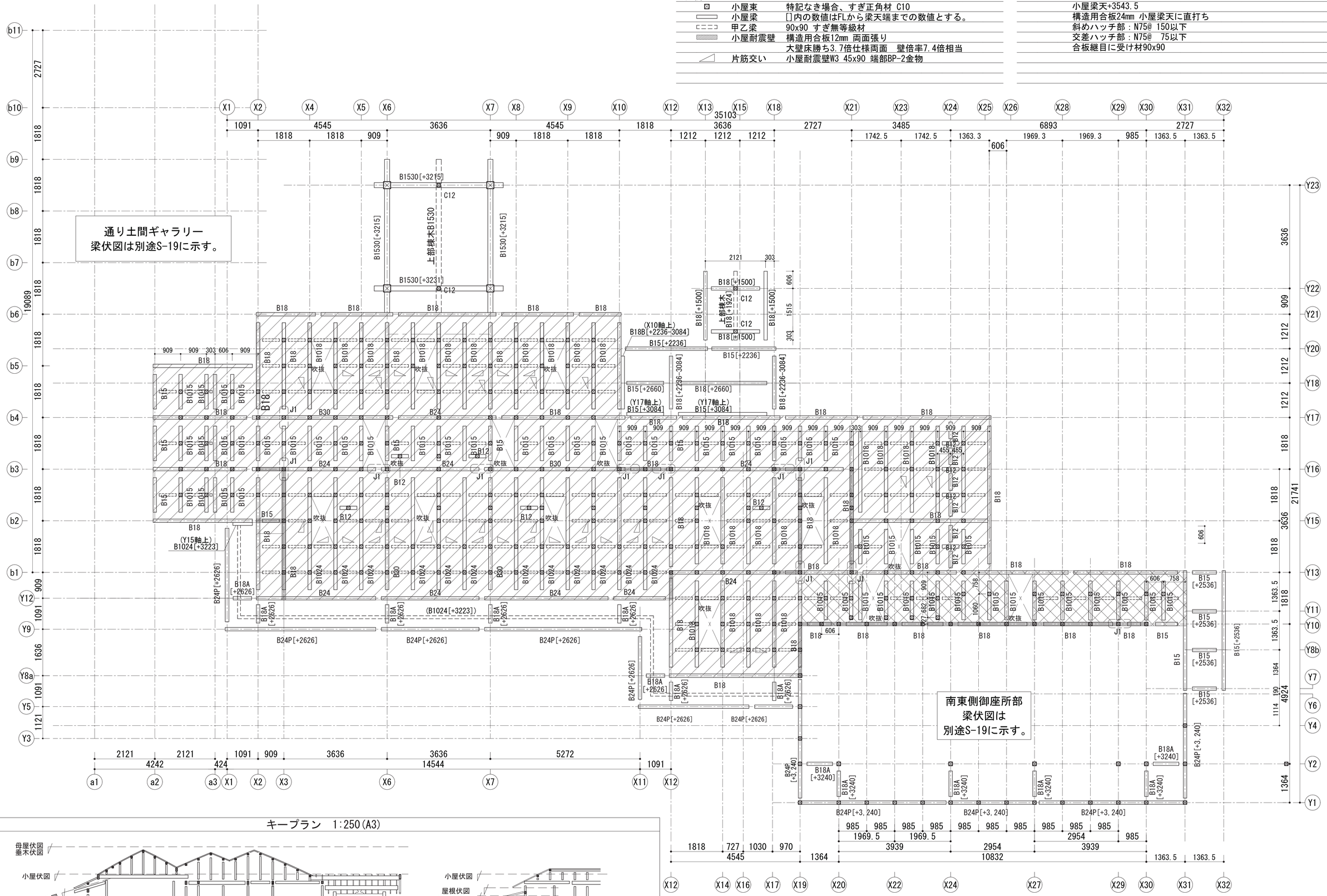

| | | |
|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)<br>1階柱伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 |

S-17
102
164

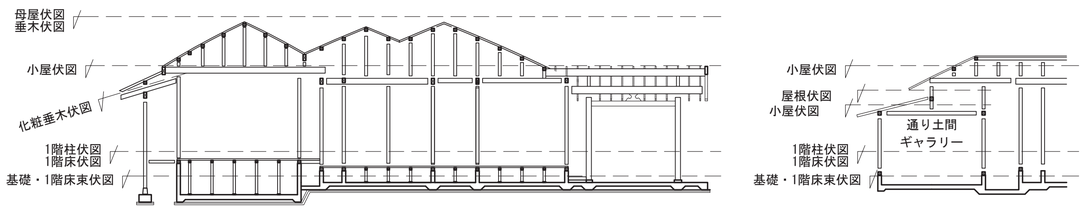
＜凡例＞

| | | |
|---|---|---|
| | 小屋束 | 特記なき場合、すぎ正角材 C10 |
| | 小屋梁 | []内の数値はFLから梁天端までの数値とする。 |
| | 甲乙梁 | 90x90 すぎ無等級材 |
| | 小屋耐震壁 | 構造用合板12mm 両面張り |
| | | 大壁床勝ち3.7倍仕様両面　壁倍率7.4倍相当 |
| | 片筋交い | 小屋耐震壁W3 45x90 端部BP-2金物 |

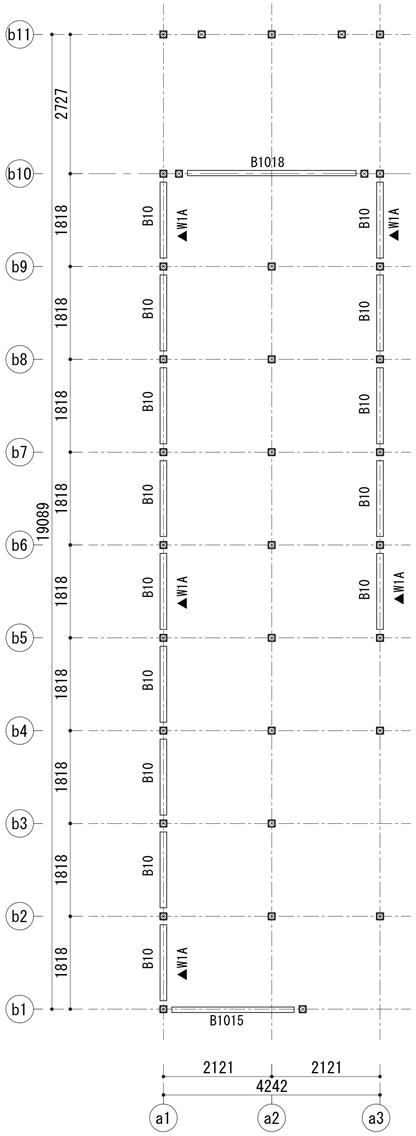
小屋梁天+3543.5
構造用合板24mm 小屋梁天に直打ち
斜めハッチ部：N75@ 150以下
交差ハッチ部：N75@　75以下
合板継目に受け材90x90



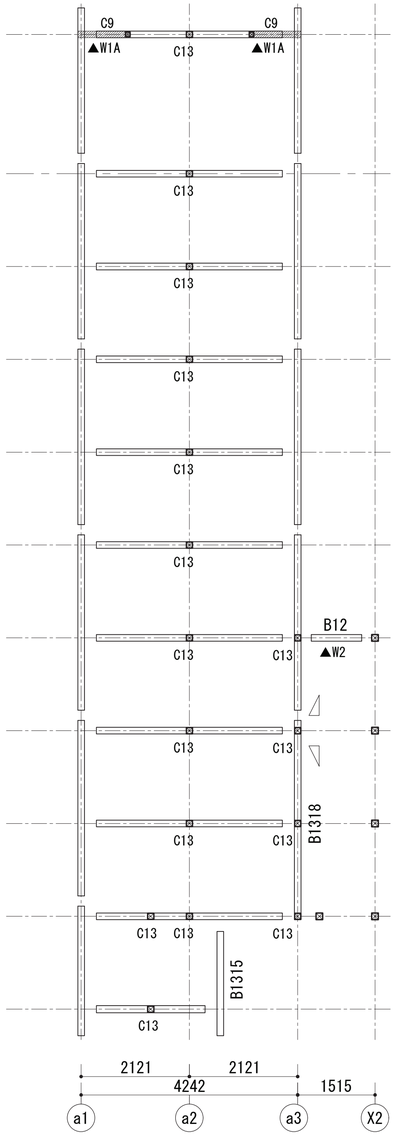

キープラン　1:250(A3)



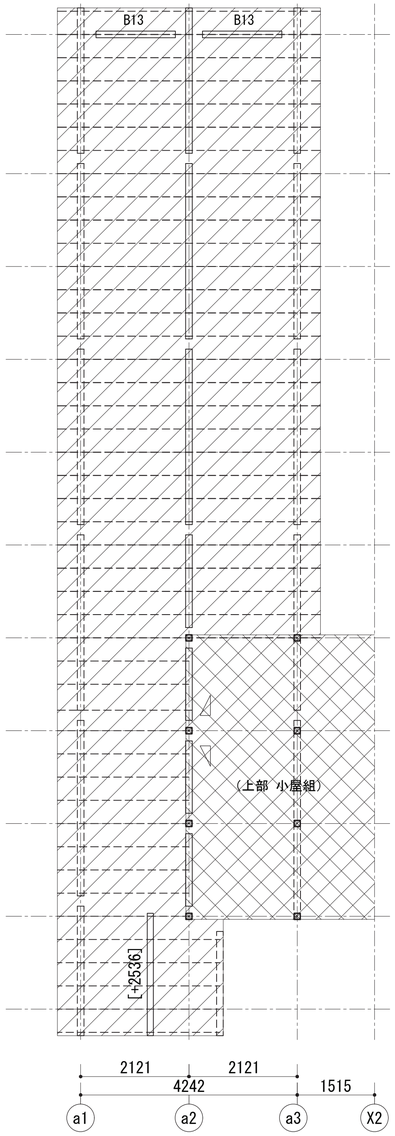

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）<br>小屋伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-18<br>103<br>164 |




通り土間ギャラリー中間梁伏図




通り土間ギャラリー小屋伏図




通り土間ギャラリー屋根伏図

[通り土間ギャラリー中間梁伏図]
梁天端 1FL+1560とする。

[通り土間ギャラリー小屋伏図]

| | | |
|---|---|---|
| ⊠ | 小屋束 | |
| ▭ | 小屋梁 | 符号：無特記B1315　梁天端：1FL+2,196 |
| ▨ | 小屋耐震壁 | 構造用合板12mm 両面張り<br>N50@150以下　壁倍率5.0倍 |
| ◢ | 片筋交い | 45x90 端部BP-2金物 |

[通り土間ギャラリー屋根伏図]

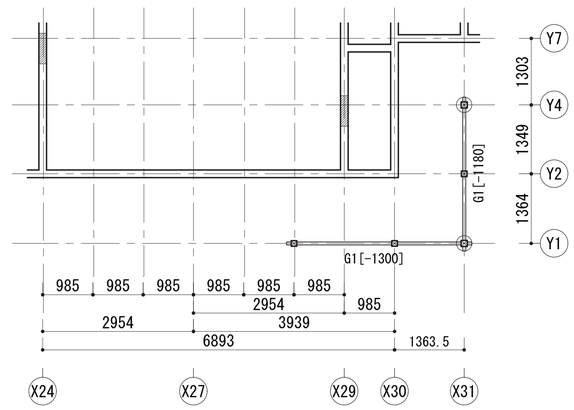
| | | |
|---|---|---|
| ⊠ | 小屋束 | 通り土間ギャラリー小屋伏図　に記載のもの |
| ▭ | 棟木 | 符号：B1318　棟木天端：1FL+2,726 |
| ⊏⊐⊏⊐ | 小屋梁 | 通り土間ギャラリー小屋伏図　に記載のもの |
| ---- | 垂木 | 45x60 @ 455 |
| ◢ | 片筋交い | 45x90 端部BP-2金物 |
| | 屋根構面 | 構造用合板t12 N50@150 垂木に川の字打ち |
| | 上部小屋組範囲 | (S-18にて図示) |

[南東 玉藻池側 貫伏図]

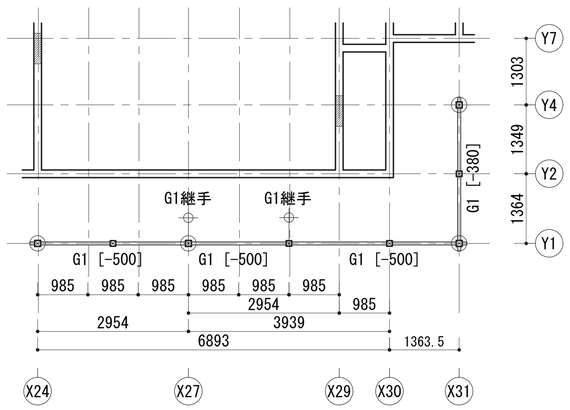
| | | |
|---|---|---|
| ⊠ | 柱 | S-16にて図示 |
| ▭ | 貫 | G1　[]内はFLから梁天端の高さを示す。 |
| ⊕ | | 貫継手位置を示す。<br>継手の記載のない貫は一本で通す。 |
| ═ | 基礎立上り | S-14にて図示 |

[南東側御座所部　小屋伏図]

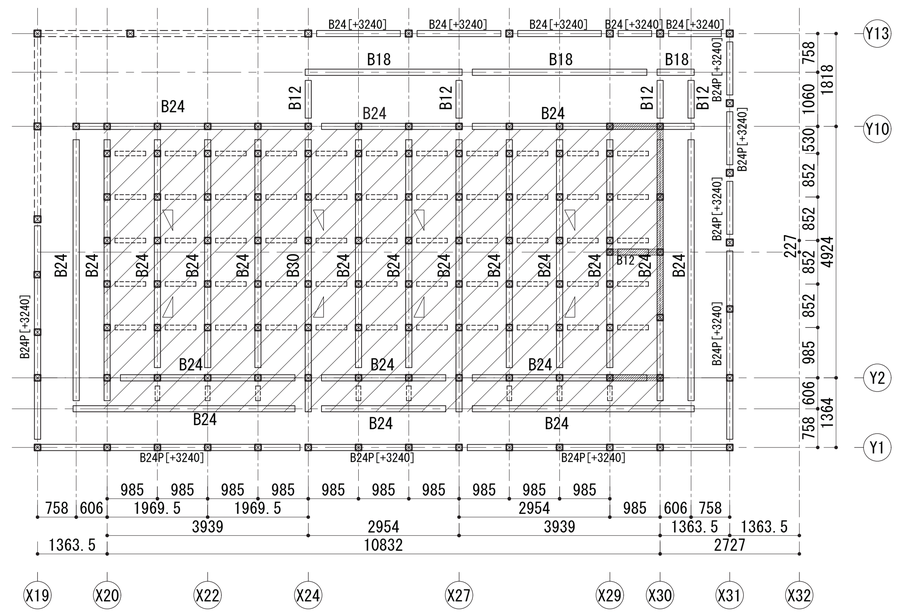
| | | |
|---|---|---|
| ⊠ | 小屋束 | 符号：C10 |
| ▭ | 小屋梁 | 特記なき梁天端：1FL+3996.9<br>[]内はFLから梁天端の高さを示す。 |
| ▨ | 小屋耐震壁 | 構造用合板12mm 両面張り<br>N50@150以下　壁倍率5.0倍 |
| ◢ | 片筋交い | 45x90 端部BP-2金物 |




南東 玉藻池側　貫伏図１



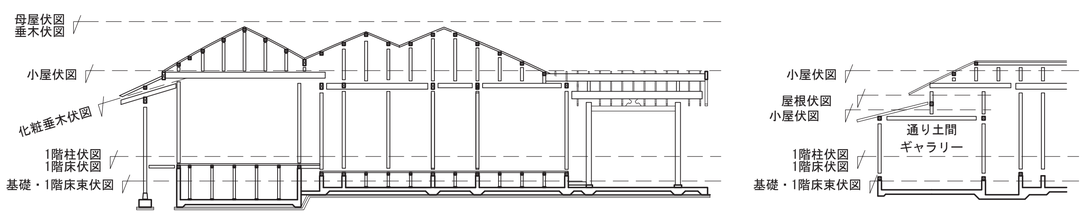

南東 玉藻池側　貫伏図２




南東側御座所部　小屋伏図

御座所部梁高さ　1FL+3996.9　レベルの伏図を作図するが、
Y1 - X19 - Y13 - X31　軸においては[+3240]の梁及びその直上の小屋束を示す。

キープラン　1:250(A3)





KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）
各部伏図　A3:1/120
環境省新宿御苑管理事務所

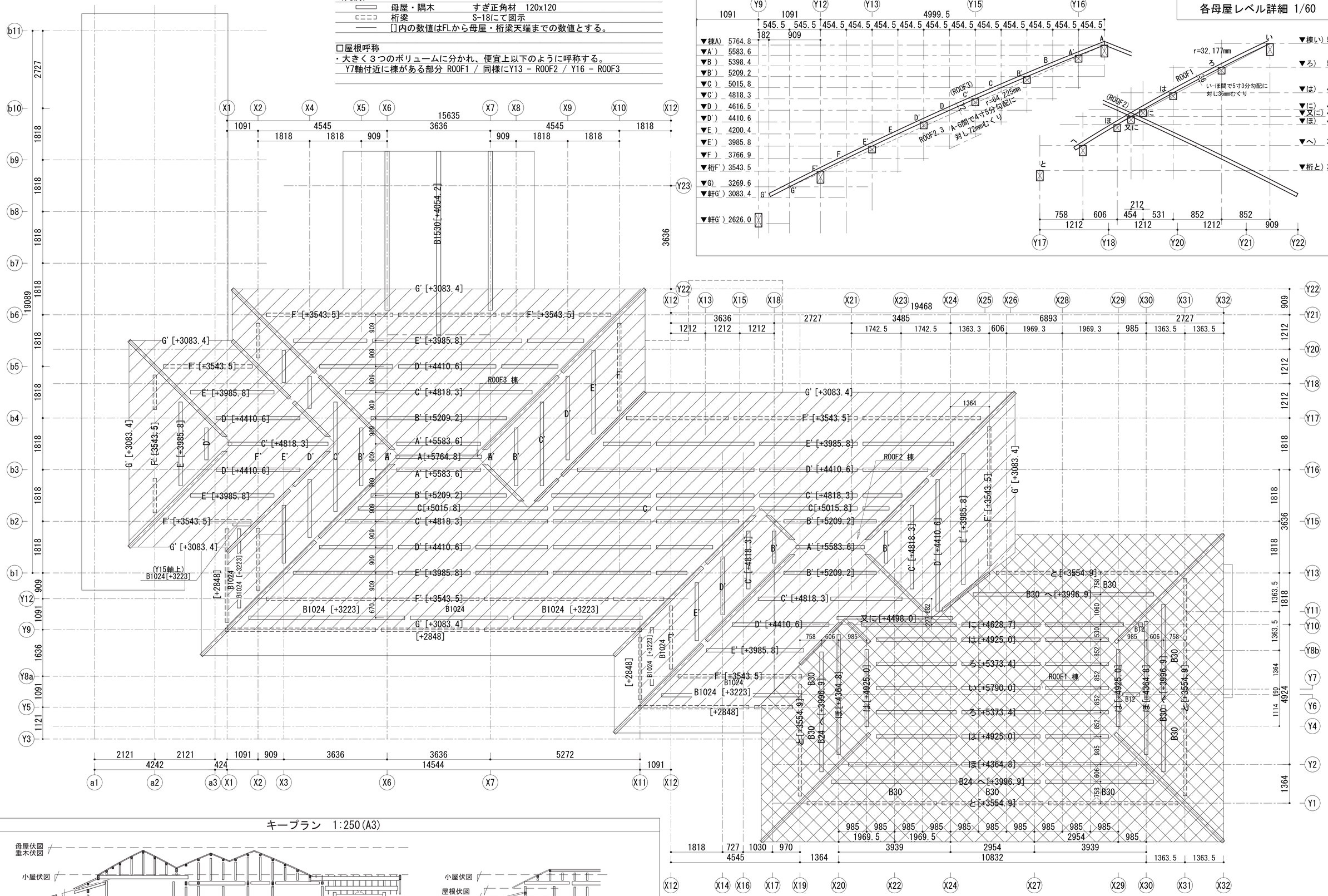
＜凡例＞

| | | |
|---|---|---|
| ▭ | 母屋・隅木 | すぎ正角材　120x120 |
| ▭▭▭ | 桁梁 | S-18にて図示 |
| ―― | []内の数値はFLから母屋・桁梁天端までの数値とする。 | |

□屋根呼称

・大きく３つのボリュームに分かれ、便宜上以下のように呼称する。

Y7軸付近に棟がある部分 ROOF1 / 同様にY13 - ROOF2 / Y16 - ROOF3

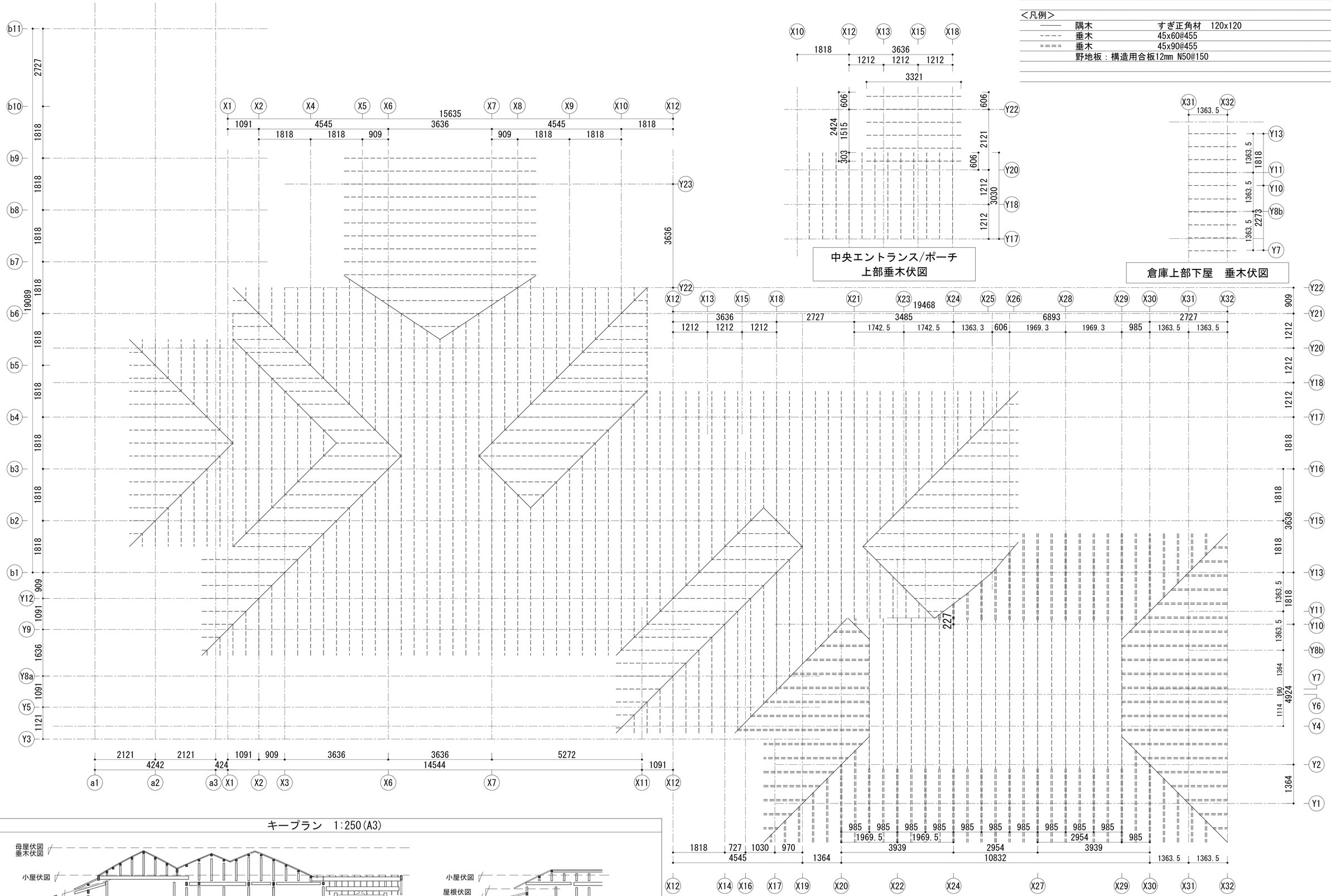



| KAP | 香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ） | S-20 |
|---|---|---|---|
| 一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号） | 一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号） | 母屋伏図　A3:1/120 | 105 |
| 構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 一級建築士事務所第12399号（有）香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 環境省新宿御苑管理事務所 | 164 |

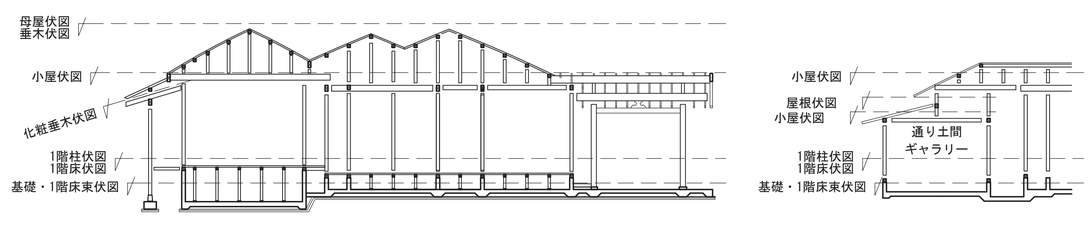
本図においては、屋根仕上げを載せる上端の垂木・隅木配置を伏図形式で示す。

＜凡例＞

| | | |
|---|---|---|
| ―――― | 隅木 | すぎ正角材　120x120 |
| - - - - | 垂木 | 45x60@455 |
| ==== | 垂木 | 45x90@455 |
| | 野地板：構造用合板12mm N50@150 | |



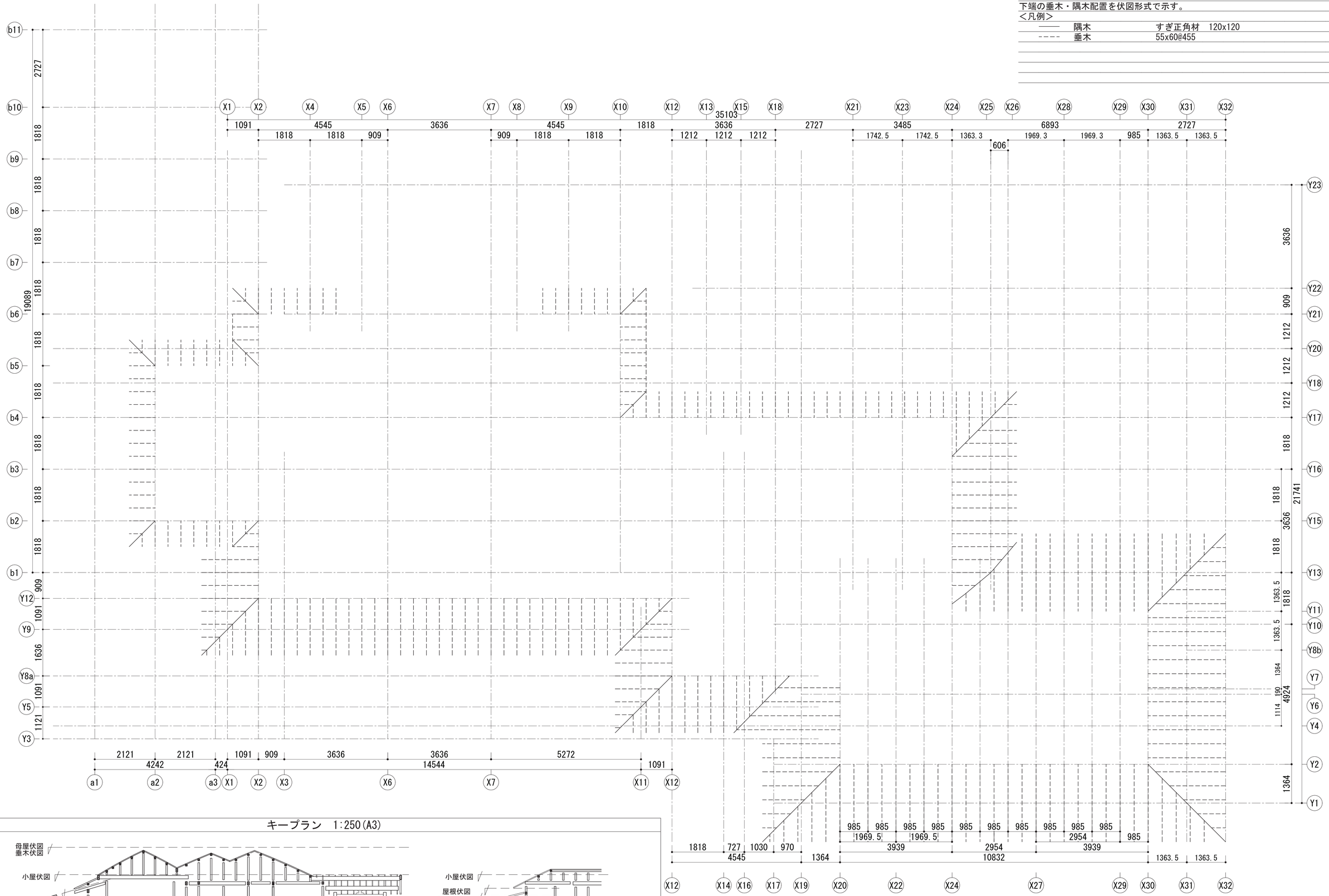

キープラン　1:250(A3)



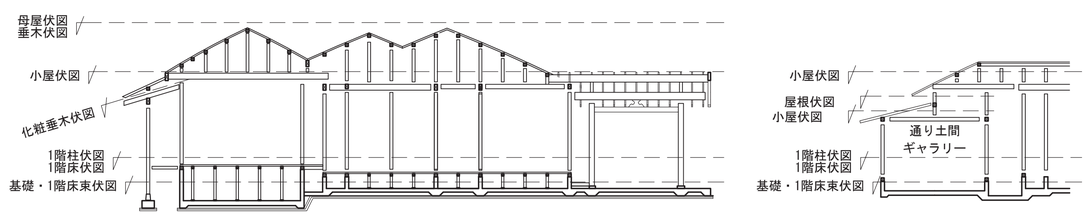

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９ 1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ｉ)<br>垂木伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-21<br>106<br>164 |

本図においては、垂木が二重となる部分の
下端の垂木・隅木配置を伏図形式で示す。
＜凡例＞

| | | |
|---|---|---|
| ―――― | 隅木 | すぎ正角材　120x120 |
| - - - - | 垂木 | 55x60@455 |




キープラン　1:250(A3)



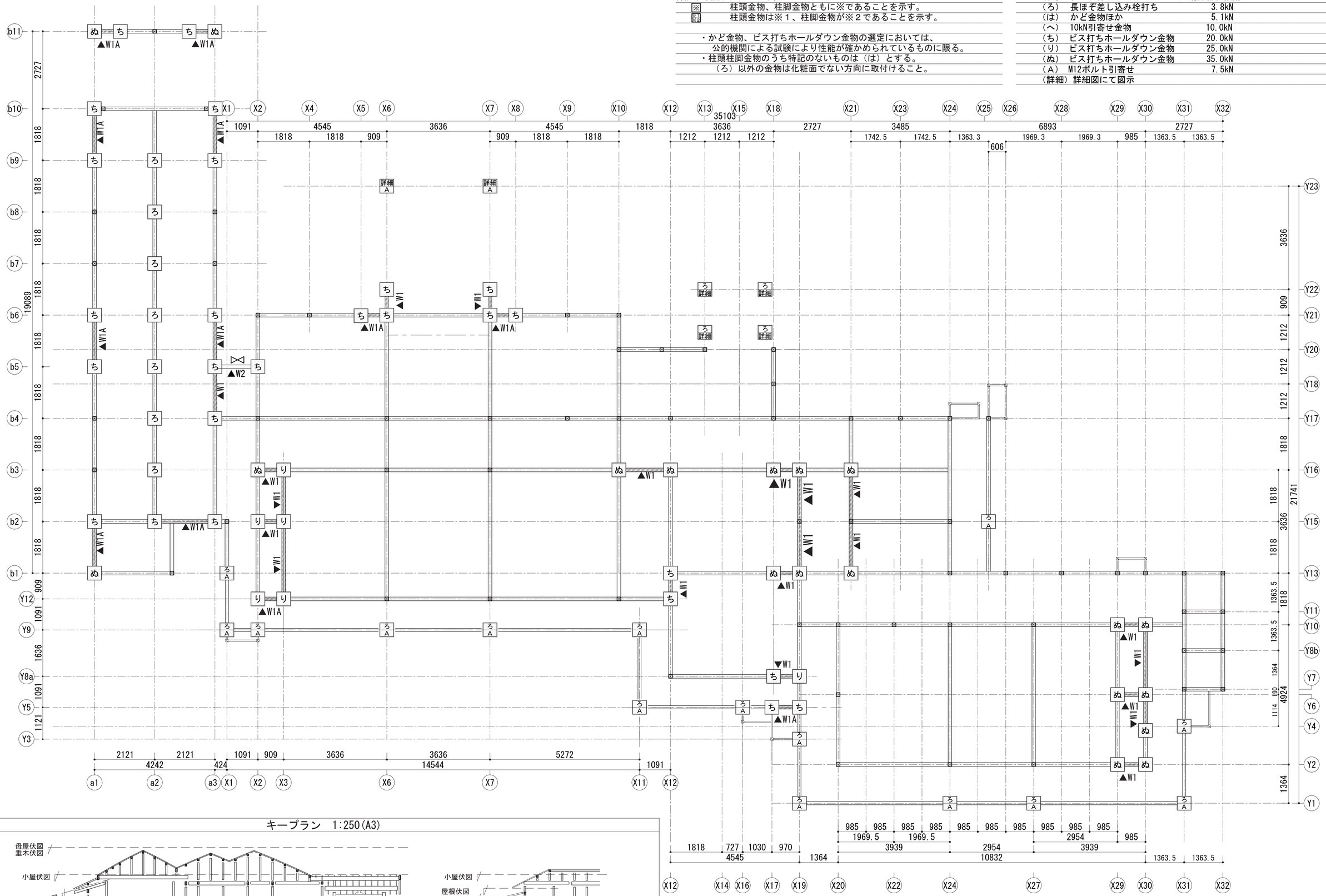

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９ 1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川幹久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>化粧垂木伏図　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-22<br>107<br>164 |

特記なき限り、次による。

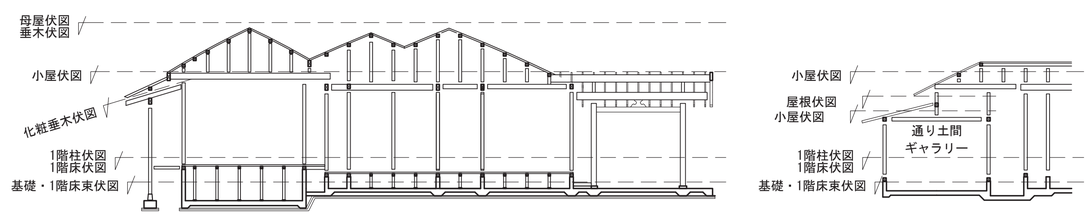
| | |
|---|---|
| ※ | 柱頭金物、柱脚金物ともに※であることを示す。 |
| ※1 ※2 | 柱頭金物は※１、柱脚金物が※２であることを示す。 |

・かど金物、ビス打ちホールダウン金物の選定においては、
公的機関による試験により性能が確かめられているものに限る。
・柱頭柱脚金物のうち特記のないものは（は）とする。
（ろ）以外の金物は化粧面でない方向に取付けること。

| 符号 | 仕口仕様 | 短期許容引張耐力 |
|---|---|---|
| （ろ） | 長ほぞ差し込み栓打ち | 3.8kN |
| （は） | かど金物ほか | 5.1kN |
| （へ） | 10kN引寄せ金物 | 10.0kN |
| （ち） | ビス打ちホールダウン金物 | 20.0kN |
| （り） | ビス打ちホールダウン金物 | 25.0kN |
| （ぬ） | ビス打ちホールダウン金物 | 35.0kN |
| （Ａ） | M12ボルト引寄せ | 7.5kN |
| （詳細） | 詳細図にて図示 | |




キープラン　1:250(A3)




| | | |
|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９ 1階<br>管理技術者　桐野　廣則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川拝久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>柱頭柱脚金物伏図１　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 |

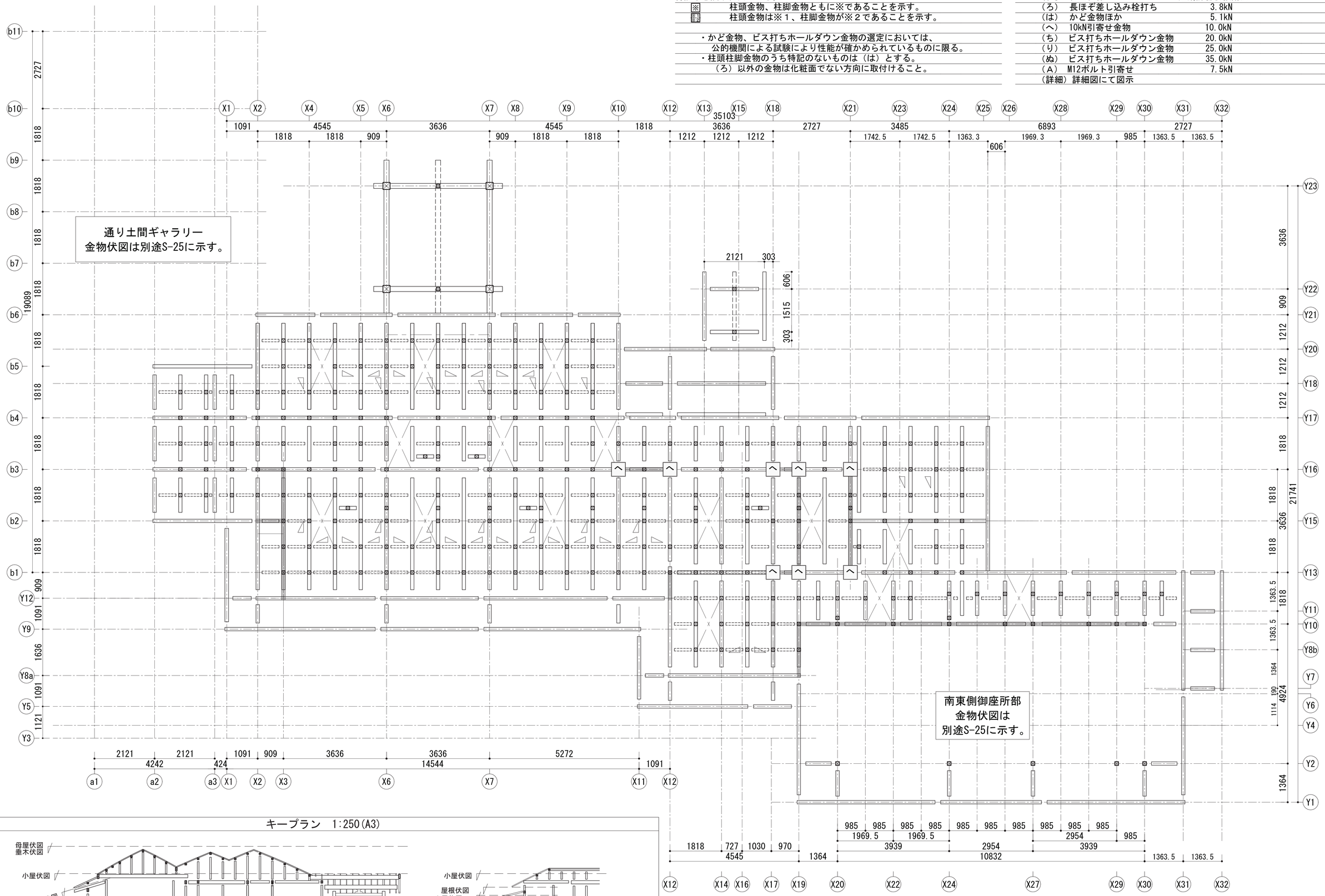
S-23
108
164

特記なき限り、次による。

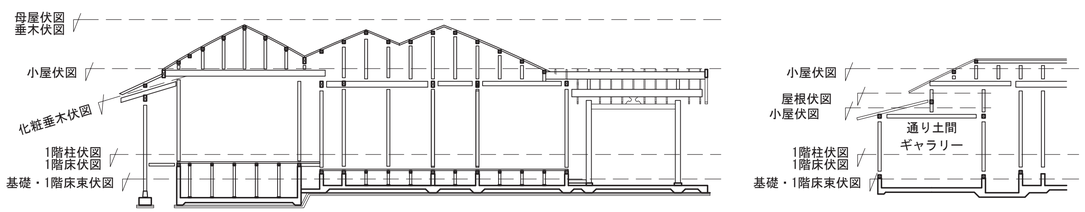
| | |
|---|---|
| ※ | 柱頭金物、柱脚金物ともに※であることを示す。 |
| ※1 ※2 | 柱頭金物は※１、柱脚金物が※２であることを示す。 |

・かど金物、ビス打ちホールダウン金物の選定においては、
公的機関による試験により性能が確かめられているものに限る。
・柱頭柱脚金物のうち特記のないものは（は）とする。
（ろ）以外の金物は化粧面でない方向に取付けること。

| 符号 | 仕口仕様 | 短期許容引張耐力 |
|---|---|---|
| （ろ） | 長ほぞ差し込み栓打ち | 3.8kN |
| （は） | かど金物ほか | 5.1kN |
| （へ） | 10kN引寄せ金物 | 10.0kN |
| （ち） | ビス打ちホールダウン金物 | 20.0kN |
| （り） | ビス打ちホールダウン金物 | 25.0kN |
| （ぬ） | ビス打ちホールダウン金物 | 35.0kN |
| （Ａ） | M12ボルト引寄せ | 7.5kN |
| （詳細） | 詳細図にて図示 | |




キープラン　1:250(A3)



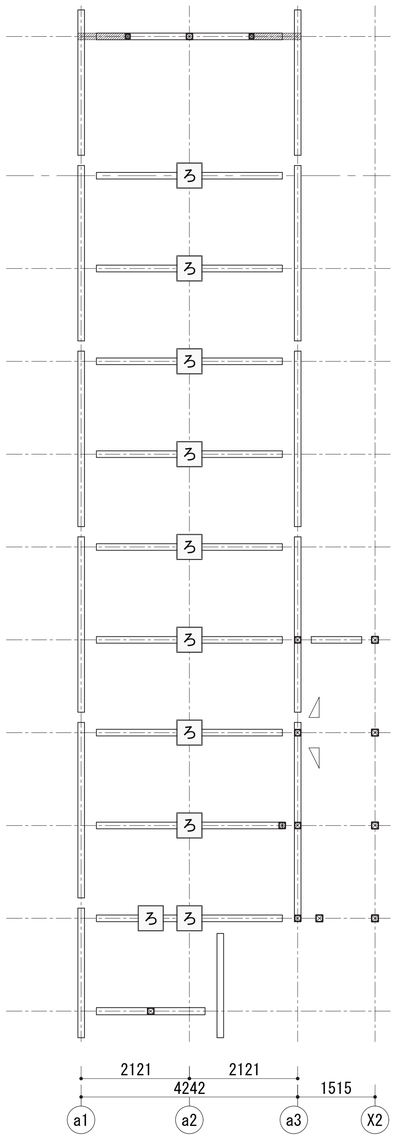

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>柱頭柱脚金物伏図２　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-24<br>109<br>164 |

特記なき限り、次による。

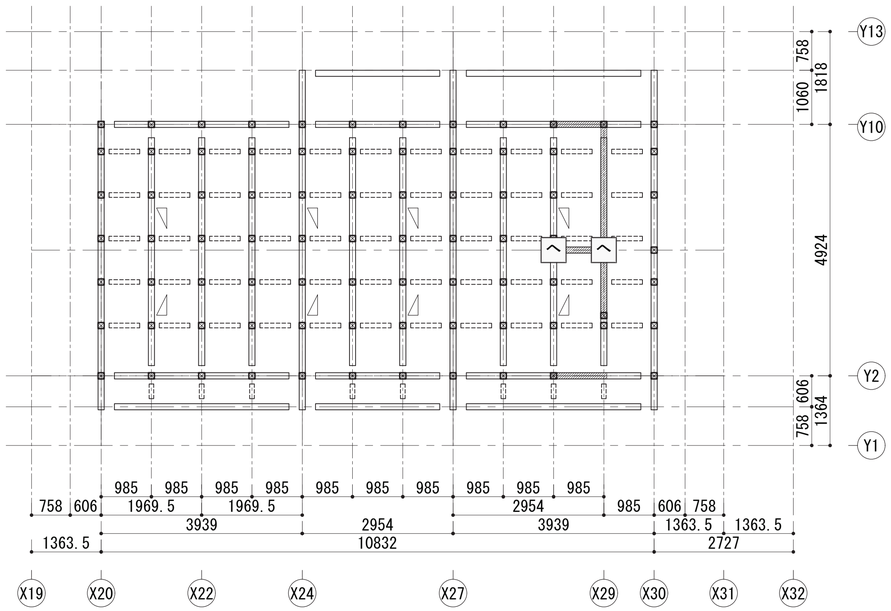
| | |
|---|---|
| ※ | 柱頭金物、柱脚金物ともに※であることを示す。 |
| ※1 | 柱頭金物は※１、柱脚金物が※２であることを示す。 |

・かど金物、ビス打ちホールダウン金物の選定においては、
公的機関による試験により性能が確かめられているものに限る。
・柱頭柱脚金物のうち特記のないものは（は）とする。
（ろ）以外の金物は化粧面でない方向に取付けること。

| 符号 | 仕口仕様 | 短期許容引張耐力 |
|---|---|---|
| （ろ） | 長ほぞ差し込み栓打ち | 3.8kN |
| （は） | かど金物ほか | 5.1kN |
| （へ） | 10kN引寄せ金物 | 10.0kN |
| （ち） | ビス打ちホールダウン金物 | 20.0kN |
| （り） | ビス打ちホールダウン金物 | 25.0kN |
| （ぬ） | ビス打ちホールダウン金物 | 35.0kN |
| （Ａ） | M12ボルト引寄せ | 7.5kN |
| （詳細） | 詳細図にて図示 | |

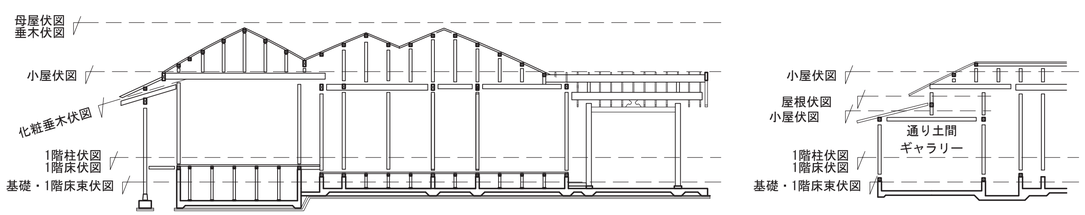



通り土間ギャラリー小屋伏図

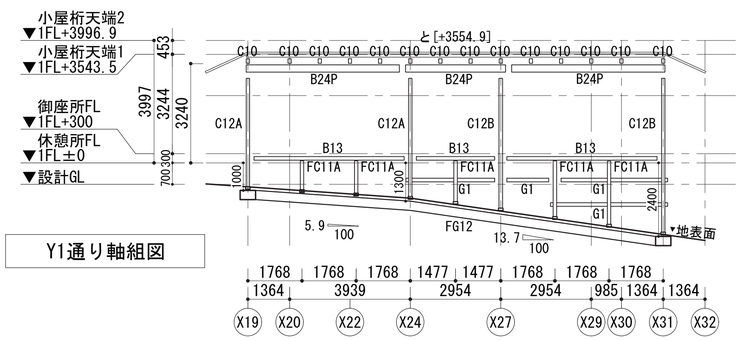



南東側御座所部　小屋伏図

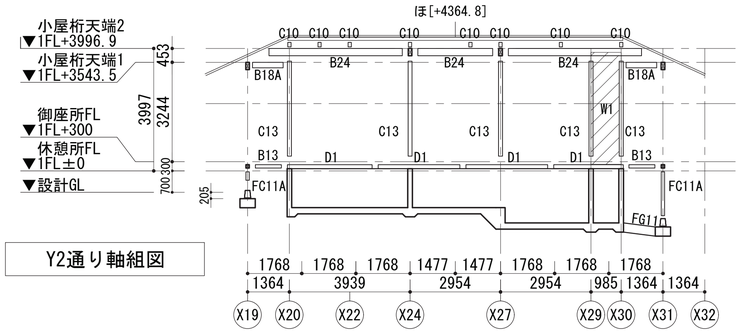
キープラン　1:250(A3)



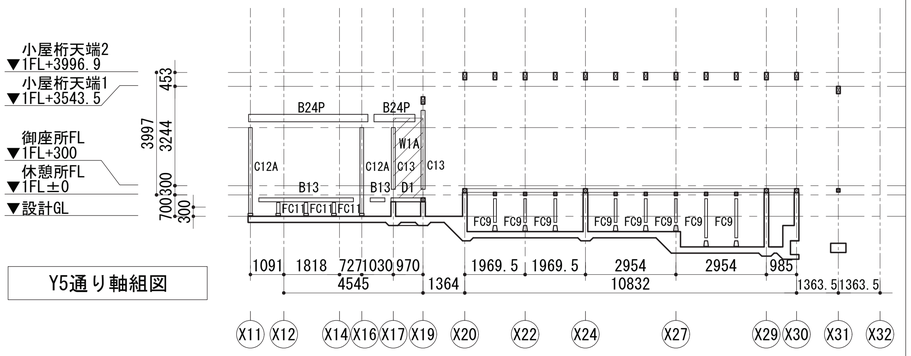

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>柱頭柱脚金物伏図３　A3:1/120<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-25<br>110<br>164 |



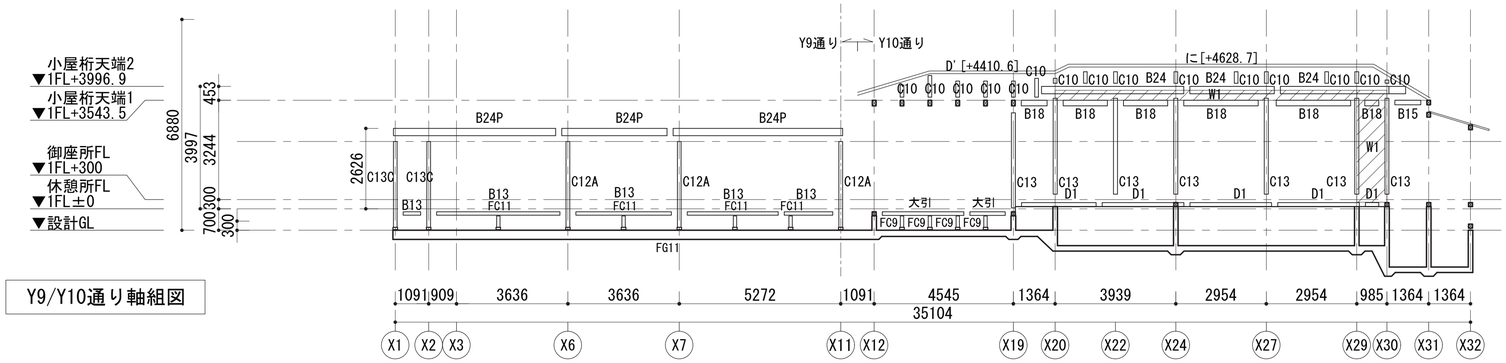

Y1通り軸組図



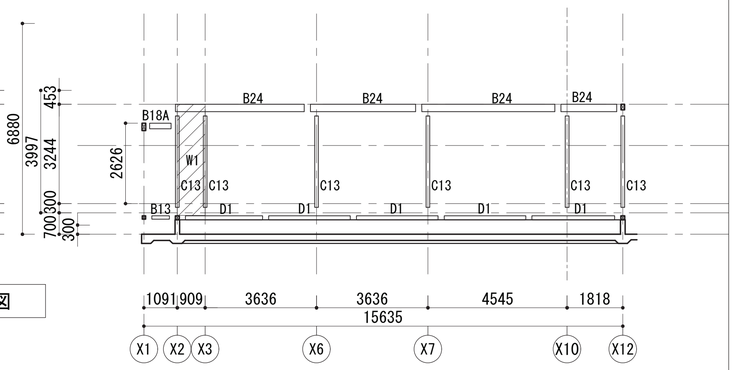

Y2通り軸組図



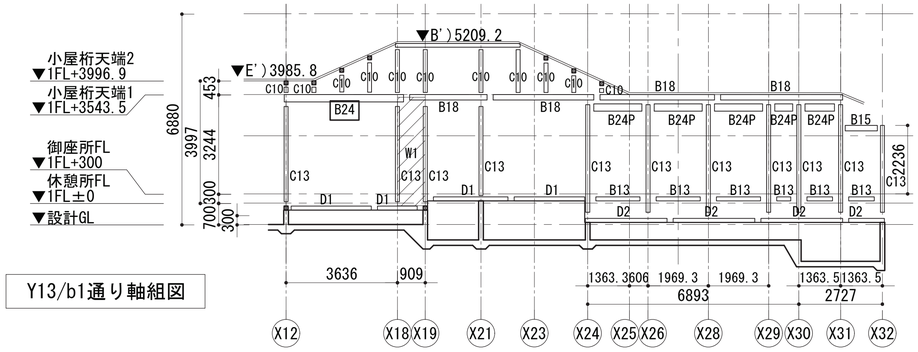

Y5通り軸組図



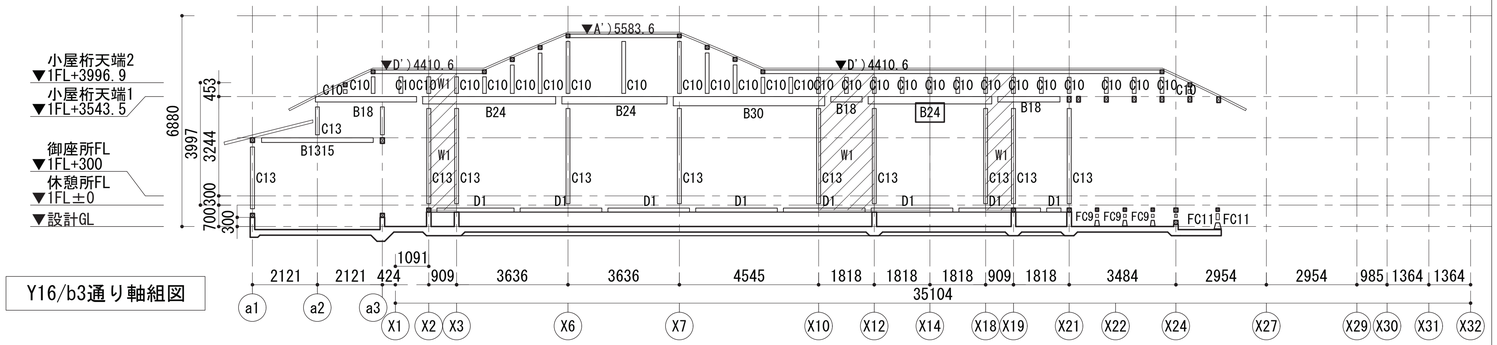

Y9/Y10通り軸組図



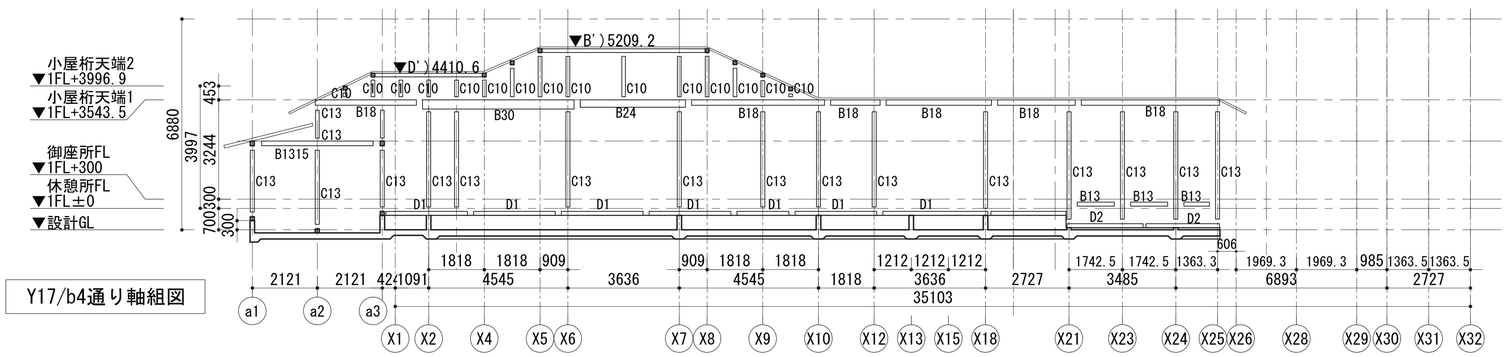

Y12通り軸組図




Y13/b1通り軸組図

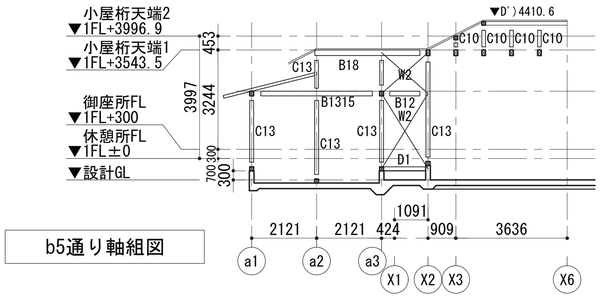



Y16/b3通り軸組図

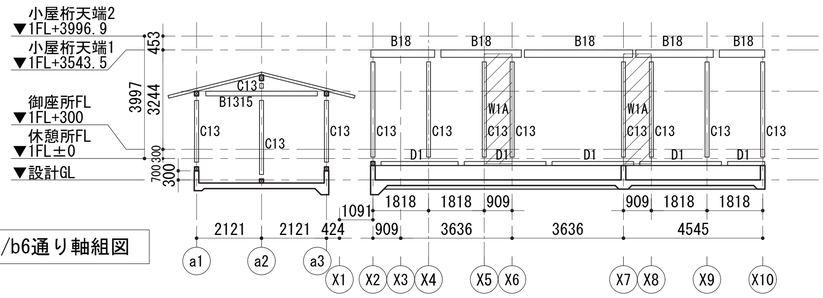



Y17/b4通り軸組図

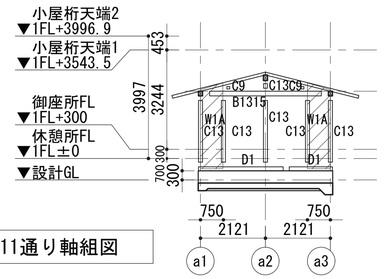
| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)<br>軸組図１　A3:1/200<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-26<br>111<br>164 |



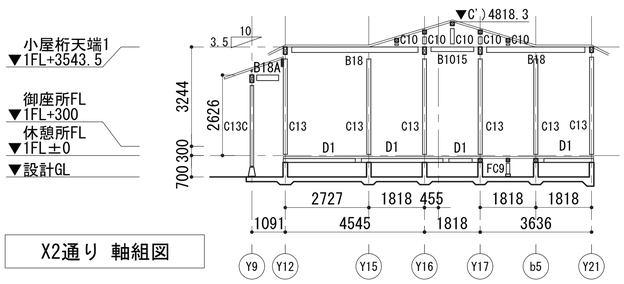

b5通り軸組図



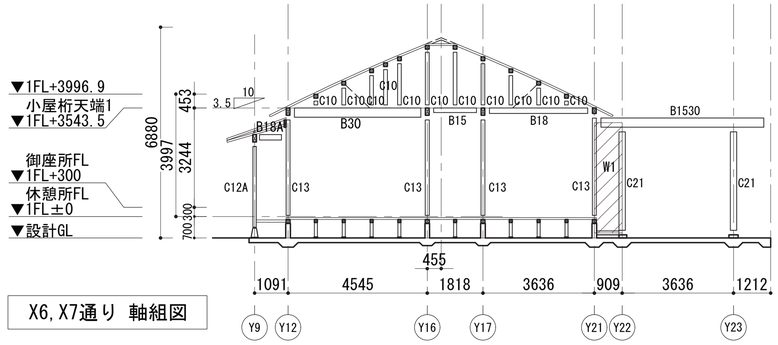

Y21/b6通り軸組図



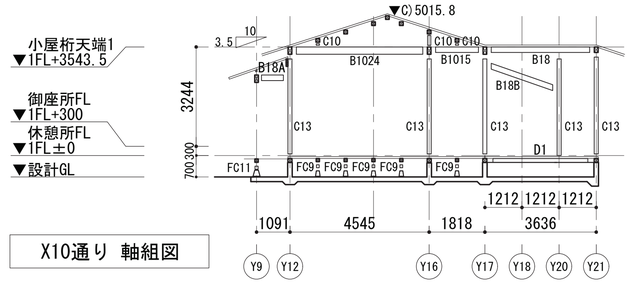

b11通り軸組図



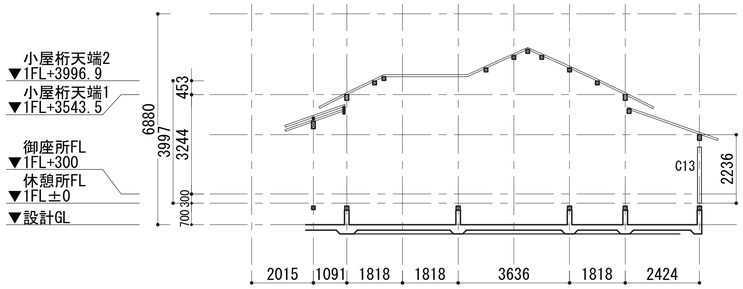

X2通り 軸組図



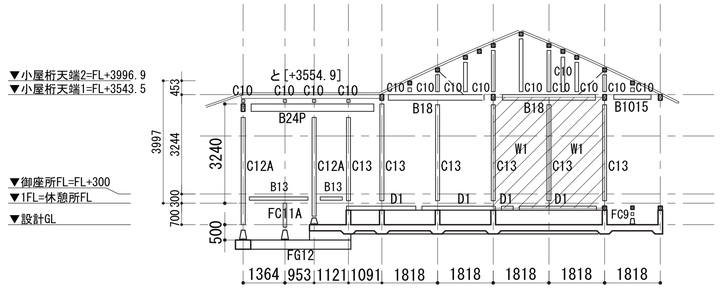

X6,X7通り 軸組図



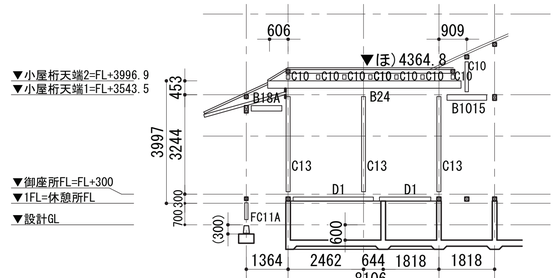

X10通り 軸組図



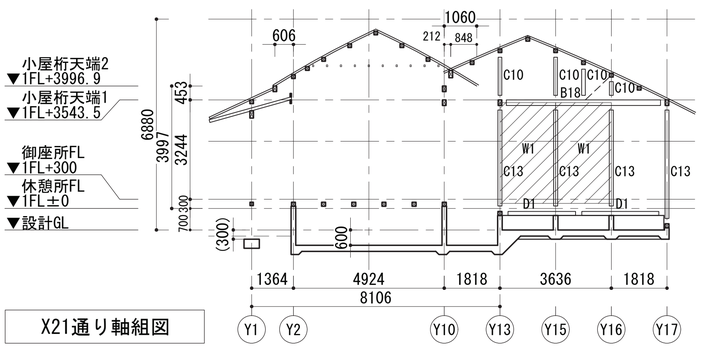

X13 軸組図




X19通り 軸組図

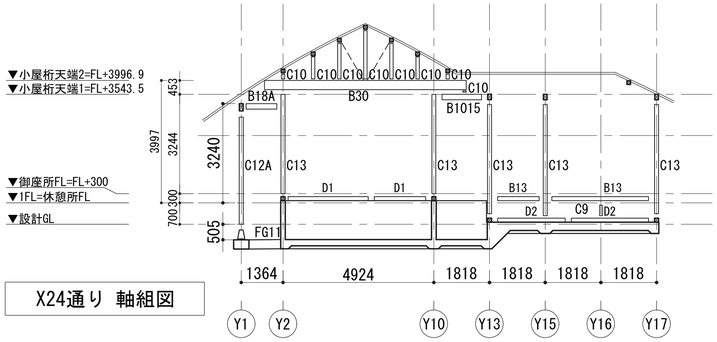



X20通り軸組図

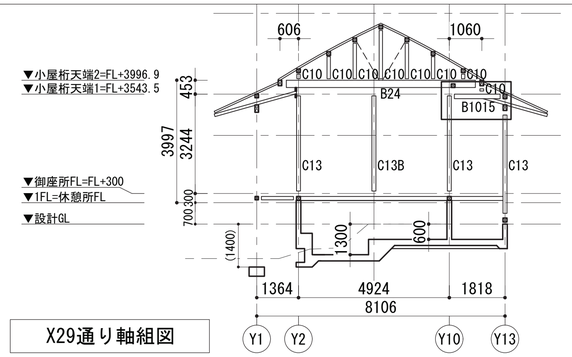



X21通り軸組図

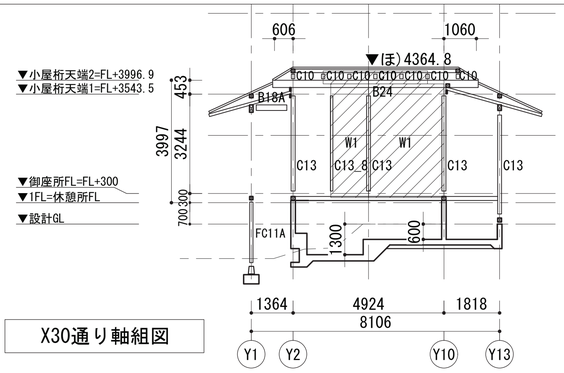
| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)<br>軸組図２　A3:1/200<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-27<br>112<br>164 |



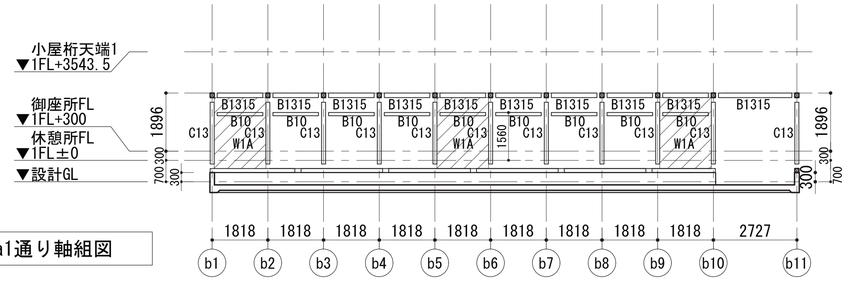

X24通り 軸組図



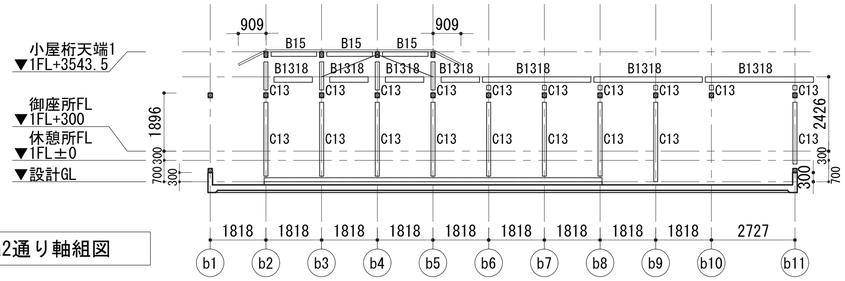

X29通り軸組図



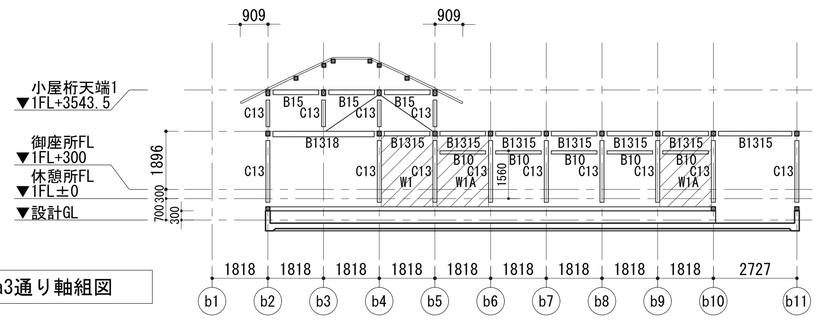

X30通り軸組図




a1通り軸組図

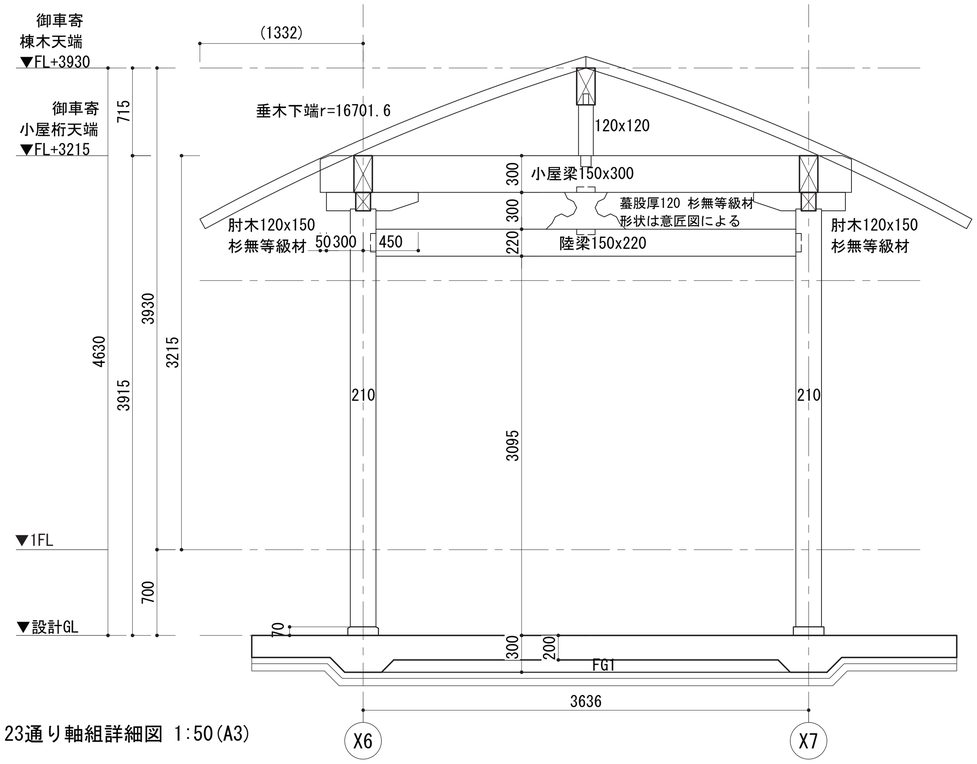



a2通り軸組図

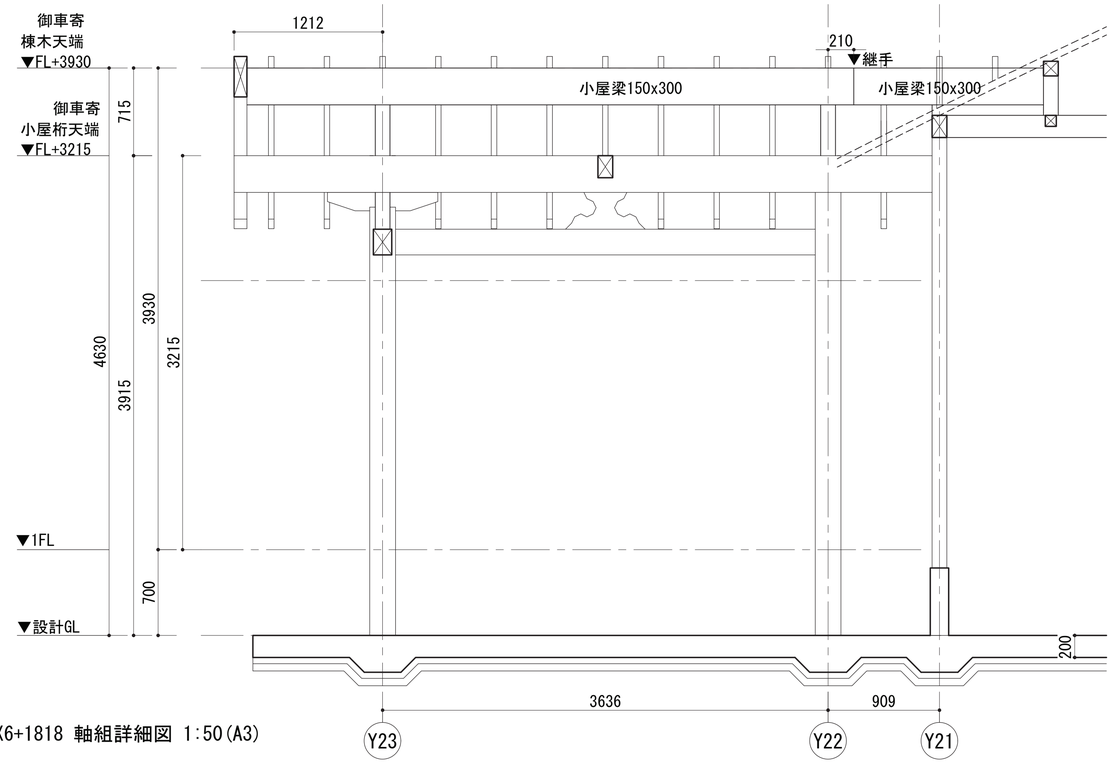



a3通り軸組図

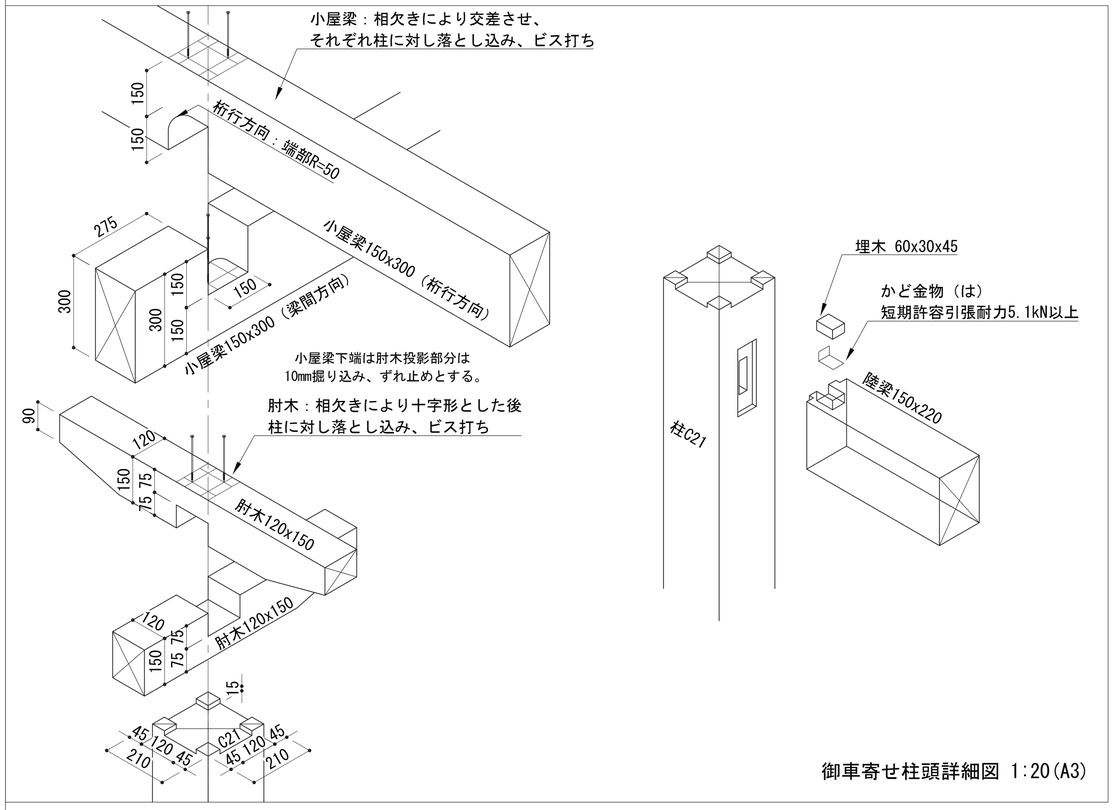
| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA　ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>軸組図３　A3:1/200<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-28<br>113<br>164 |



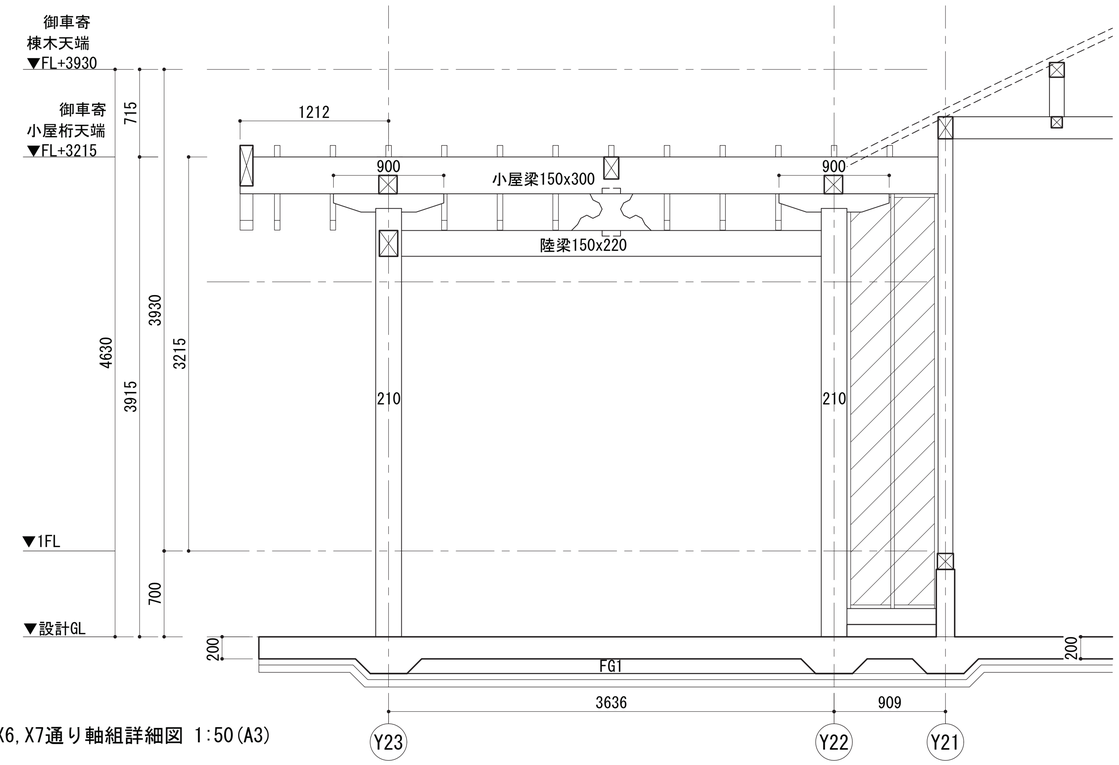

Y22,23通り軸組詳細図 1:50(A3)




X6+1818 軸組詳細図 1:50(A3)




御車寄せ柱頭詳細図 1:20(A3)




X6,X7通り軸組詳細図 1:50(A3)

| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号 株式会社KAP 東京都千代田区富士見２－４－９ １階<br>管理技術者 桐野 康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者 萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者 池谷 聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者 松本 洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ｉ）<br>御車寄せ詳細図 A3:1/20，50<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-29<br>114<br>164 |

# 木質部材断面リスト

| 符　合 | | B13 | B12 | B1015 | B15 | B1018 | B18, B18A, B18B | B1024 | B24 | B24P | B1315 | B1318 | B30 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部材種 | | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 梁材 |
| | | 130 / 130 | 120 / 120 | 105 / 150 | 120 / 150 | 105 / 180 | 120 / 180 | 105 / 240 | 120 / 240 | 120 / 240 | 130 / 150 | 130 / 180 | 120 / 300 |
| 部　材 | 断　面 | 130x130 | 120x120 | 105x150 | 120x150 | 105x180 | 120x180 | 105x240 | 120x240 | 120x240 | 130x150 | 130x180 | 120x300 |
| | 樹種/等級 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>B18, B18A:ヒノキE90<br>B18B:スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>スギE70 |
| | 備　考 | | | | | | B18A梁仕口：大入れ蟻掛け又は胴差<br>+2-N75斜め釘打ち<br>B18A:化粧梁,見え係り面上小節 | | | 縁側軒桁　化粧梁<br>見掛面上小節 | エントランス棟　化粧梁<br>見掛面上小節 | エントランス棟　化粧梁<br>見掛面上小節 | |

# 木質部材断面リスト

| 符　合 | | B1522 | B1530 | B10 | b7 | c7 | C10 | C12 | C12A, C12B, C12C | C13 | C13B | C13C | C13_8 | C21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部材種 | | 梁材 | 梁材 | 梁材 | 横架材 | 間柱材 | 小屋束材 | 小屋束 | 柱材 | 柱材・束材 | 柱材 | 柱材 | 柱材 | 柱材 |
| | | 150 / 220 | 150 / 300 | 105 / 105 | 75 / 75 | 75 / 75 | 105 / 105 | 120 / 120 | 120 / 120 | 130 / 130 | 130 / 130 | 130 / 130 | 80 / 130 | 210 / 210 |
| | | | | | | | 有効細長比66.1 | 有効細長比110.0 | 有効細長比110.0 | 有効細長比101.5 | 有効細長比101.5 | 有効細長比101.5 | 有効細長比101.5 | 有効細長比62.8 |
| 部　材 | 断　面 | 150x220 | 150x300 | 105x105 | 75x75 | | 105x105 | 120x120 | 120x120 | 130x130 | 130x130 | 130x130 | 80x130 | 210x210 |
| | 樹種/等級 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | ひのき無等級材 | | JAS機械等級区分<br>スギE70 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 又は<br>ヒノキE90同等無等級材 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 又は<br>ヒノキE90同等無等級材 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 又は<br>ヒノキE90同等無等級材 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 又は<br>ヒノキE90同等無等級材 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 又は<br>ヒノキE90同等無等級材 |
| | 備　考 | 御車寄せ　化粧梁<br>材面に死節・抜節のないこと | 御車寄せ　化粧梁<br>材面に死節・抜節のないこと | １面化粧,化粧面上小節 | 戸袋部分<br>c7は束石150x150 | | | | 化粧面:上小節(化粧面数伏図)<br>A,C:新設/B:既存自然礎石<br>防腐防蟻処理　性能区分K4※ | 化粧面:上小節(化粧面数伏図)<br>一部柾目　伏図にて指定 | 3面無節　柾目 | 化粧面:上小節(化粧面数伏図)<br>C13C:柱脚RC束石 | 化粧面:上小節(化粧面数伏図) | 化粧面:上小節(化粧面数伏図)<br>柱脚～1000mmの範囲にて<br>防腐防蟻処理塗装　※２ |

# 木質部材断面リスト

| 符　合 | | C9 | FC9 | FC11, FC11A | D1, D2 | - | | - | - | - | - | - | - | - | G1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部材種 | | 柱 | 床束 | 床束 | 土台 | 間柱 | | 大引 | 根太 | 垂木 | 垂木 | 化粧垂木 | 母屋・隅木 | 小屋筋交 | 貫 |
| | | 90 / 90 | 90 / 90 | 110 / 110 | 130 / 130 | 30 | 45 | 105 / 105 | 45 / 60 | 45 / 90 | 45 / 60 | 55 / 60 | 120 / 120 | 45 / 90 | 45 / 120 |
| 部　材 | 断　面 | 90x90 | 90x90 | 110x110 | 130x130 | 見付30 | 見付45 | 105x105 | 45x60 | 45x90 | 45x60 | 55x60 | 120x120 | 45x90 | 45x120 |
| | 樹種/等級 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | JAS機械等級区分<br>ヒノキE90 | すぎ無等級材 | | すぎ無等級材 | すぎ無等級材 | すぎ無等級材 | すぎ<br>無等級材 | ひのき<br>無等級材 | JAS機械等級区分<br>スギE70 | すぎ無等級材 | ひのき無等級材 |
| | 備　考 | | 束石150x150 | 束石150x150<br>芯持ち材 | D2ではインサイジングの上<br>防腐防蟻処理　性能区分K4※ | 厚は壁の構成に依る | | | | | むくり　曲げ有 | | | W3:片筋交/W4:襷筋交 | 防腐防蟻処理　性能区分K4※ |

【JAS同等無等級材の品質管理】
本工事において構造耐力上主要な部分に用いる製材は、製材のJASに適合するもの　又は製材のJASに適合するものと同等の品質を有するもの（以下、JAS同等品）とする。
JAS同等品の利用に際しては、材料加工に先立ち以下①～③のいずれにも適合することを確認し、全部材に関して各項目の検査記録を監督職員に提出すること。
①曲げヤング係数が指定した以上の数値であることを確認すること。
　確認方法は、以下いずれかによる。いずれの場合も試験計画書を作成し、監督職員の承認を得ること。
・製材のJAS規格第６条に規定する曲げ性能の確認方法
・縦振動法（タッピング法、共振法、打撃音法）
・その他監督職員の承認を得た方法
②含水率計等により各面の両端及び中央において含水率を計測し、その平均値が20%以下であることを確認すること。
　使用する含水率計は監督職員の承認を得ること。
③製材のJAS規格第６条に規定する節、集中節、丸身、貫通割れ、目周り、腐朽、曲がり、狂い及びその他の欠点について、品質の基準を満たすことが確認できること。

【現しとなる構造部材の配置管理】
構造用製材の加工に先立ち、現しとなる構造部材のうち下記の部材については特に意匠性に配慮し、使用位置及び設置方向を特定・番付を行い監督職員の承認を得ること。

エントランスホール部（a1-a3, b1-b11）を除く全ての柱
縁側の桁梁・梁　B24P, B18A

【現しとなる構造部材の化粧面以外の品質】
化粧面以外は、「抜節・死節のないこと」を材面の品質としての要求項目とする。

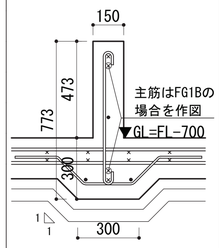
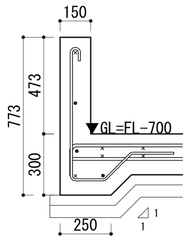
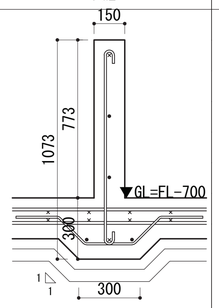
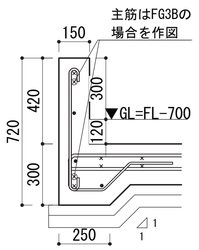
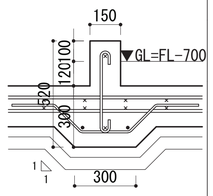
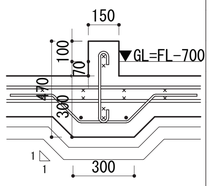
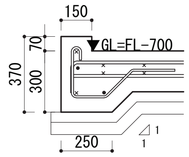
【防腐防蟻処理】
※　兼松サステック株式会社 乾式注入工法 ニッサンクリーンAZN 同等品とし、性能区分K4を満足しかつ処理木材の外観について監理者が同等であると承認したものを指す。
※２　美観上支障のないものとし、監理者の承認を要する。


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　1階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

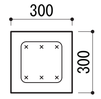
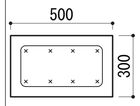
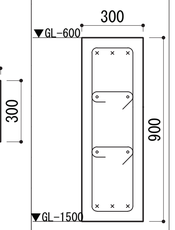
香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


| 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ） | S-30 |
|---|---|
| 断面リスト１　A1:1/5　A3:1/10 | 115 / 164 |
| 環境省新宿御苑管理事務所 | |

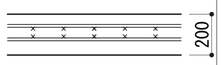
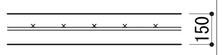
## RC基礎断面リスト

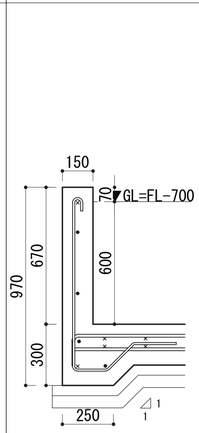
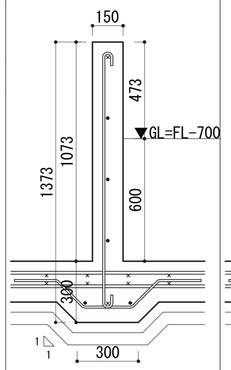
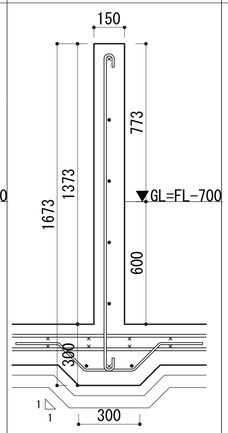
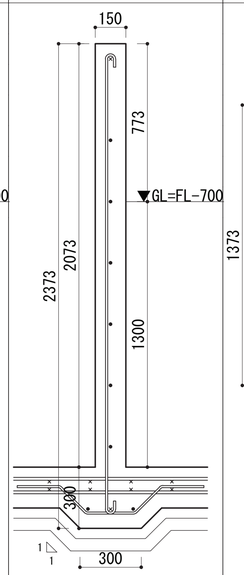
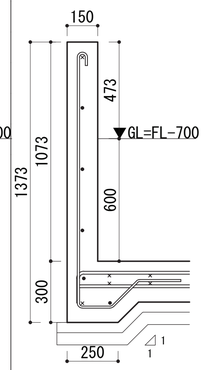
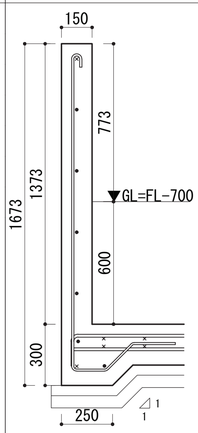
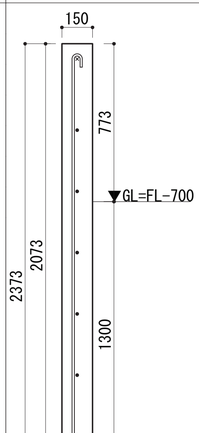
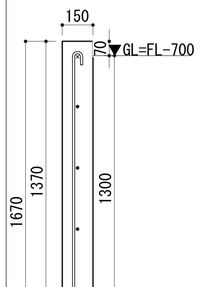
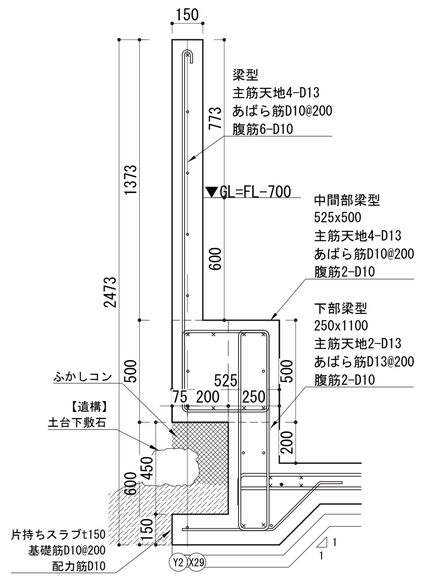
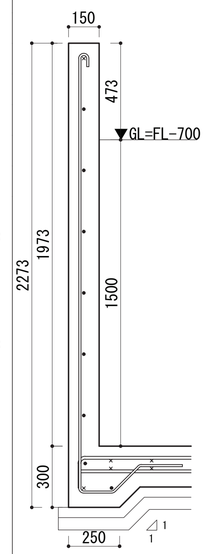
| 符　号 | FG1, FG1B | FG1A | FG2 | FG3A, FG3B | FG4-1 | FG4-2 | FG4A |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| |  |  |  | （適用）通り土間ギャラリー<br>  | （適用）通り土間ギャラリー<br>  | （適用）御車寄せ<br>  |  |
| 断面/全せい | 150 x 473 / 773 | 150 x 473 / 773 | 150 x 773 / 1073 | 150 x 420 / 720 | 150 x 220 / 520 | 150 x 170 / 470 | 150 x 70 / 370 |
| 主　筋 | FG1;1-D13/FG1B;2-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | FG3A;1-D13/FG3B;2-D13 上下 | 1-D13 上下 | 2-D13 上下 | 1-D13 上下 |
| あばら筋 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 |
| 腹　筋 | 1-D10 | 1-D10 | 2-D10 | 1-D10 | | | |

## RC基礎梁断面リスト

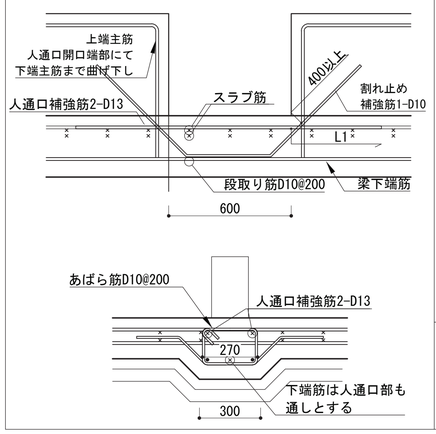
| 符　号 | FG12 | FG13 | FG14 |
|---|---|---|---|
| |  |  |  |
| 断面/全せい | 300x300 | 500x300 | 300x900 |
| 主　筋 | 3-D13 上下 | 4-D13 上下 | 3-D13 上下 |
| あばら筋 | D10@200 | D10@200 | D10@200 |
| 腹　筋 | | | 4-D10 |

## スラブ断面リスト

| 耐圧スラブ　FS1 |
|---|
|  |
| スラブ厚：200 |
| 主筋・配力筋 D13@200ダブル |
| 土間スラブ　FDS1 |
|  |
| スラブ厚：150 |
| 主筋・配力筋 D13@200　シングル |

| 符　号 | FG5A | FG6 | FG7 | FG8 | FG6A | FG7A | FG8A | FG9A | FG10A | FG11A |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 断面/全せい | 150 x 670 / 970 | 150 x 1073 / 1373 | 150 x 1373 / 1673 | 150 x 2073 / 2373 | 150 x 1073 / 1373 | 150 x 1373 / 1673 | 150 x 2073 / 2373 | 150 x 1370 / 1670 | 図示による | 150 x 1973 / 2273 |
| 主　筋 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 1-D13 上下 | 図示による | 1-D13 上下 |
| あばら筋 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | D10@200 | 図示による | D10@200 |
| 腹　筋 | 2-D10 | 3-D10 | 4-D10 | 6-D10 | 3-D10 | 4-D10 | 6-D10 | 4-D10 | 8-D10 | 6-D10 |

### 人通口補強詳細図



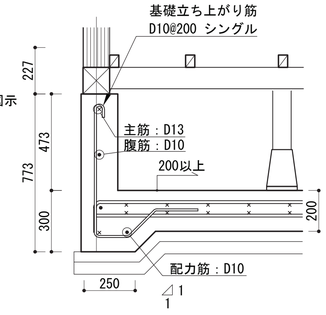

### 外周部基礎立上り配筋要領

▽FL

▽立上り天端：FL-227他
本図ではFL-227の場合を図示

▽SL：FL-700

▽基礎底：FL-1000



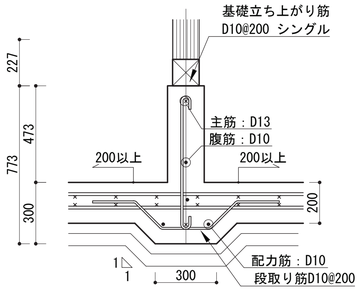

### 内部基礎立上り配筋要領

▽FL

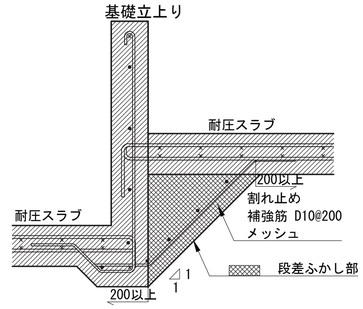
▽立上り天端：FL-227他
本図ではFL-227の場合を図示

▽一般部SL：FL-700

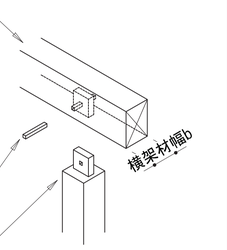
一般部立上り直下
▽基礎底：FL-1000




### 段差スラブ納まり詳細図




### 長ほぞ差し込み栓打ち詳細図




※本図では柱頭側の場合を図示
柱脚側も同様とする。


KAP
一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階
管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）
構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）
担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号）

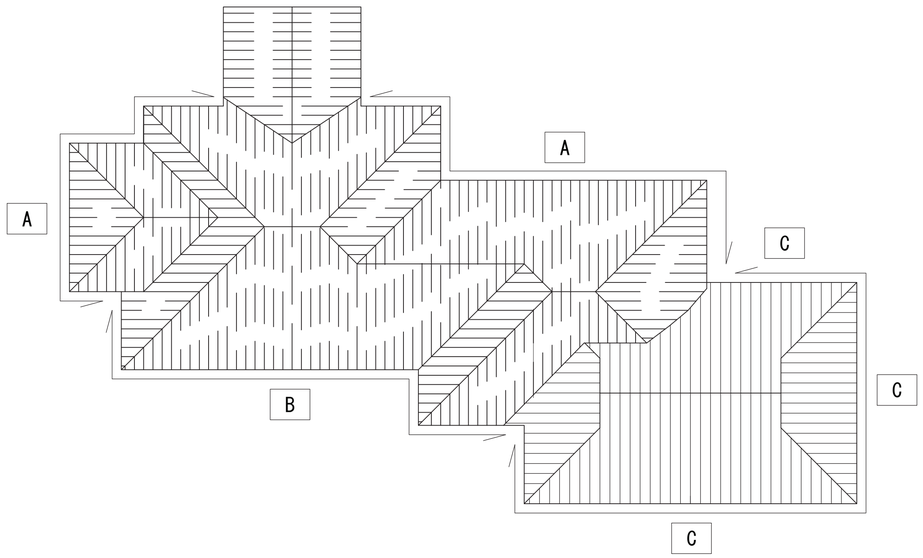
香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F
意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号）


令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）
断面リスト２　A1:1/15　A3:1/30
環境省新宿御苑管理事務所

## 軒先断面キープラン

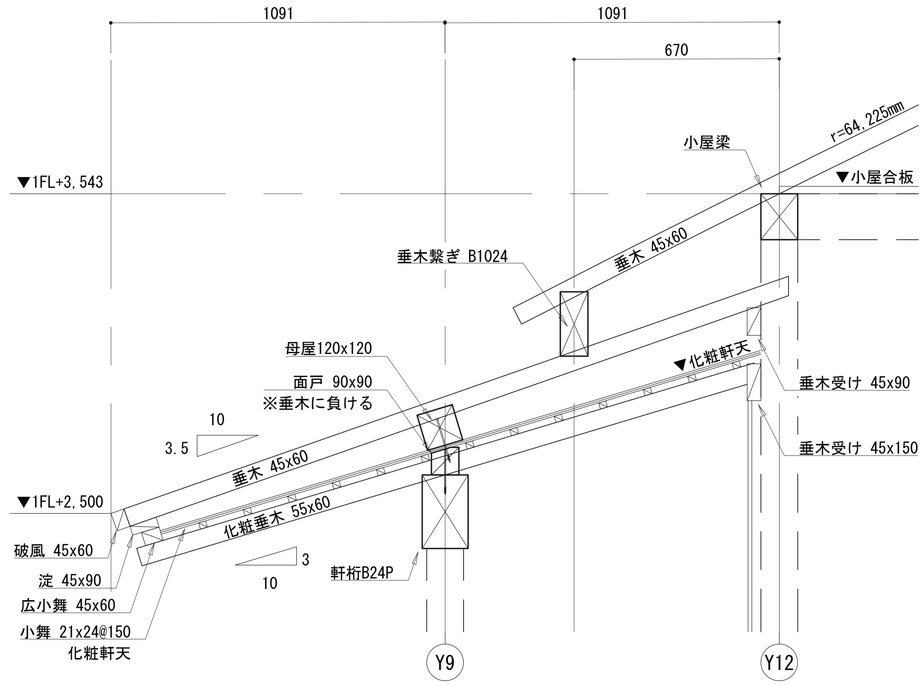
縮尺：1/150(A1) 1/300(A3)

本図に示す軒先断面詳細 タイプA,B,Cのうち、
断面リストに記載のない部材の材質はすぎ無等級材とする。



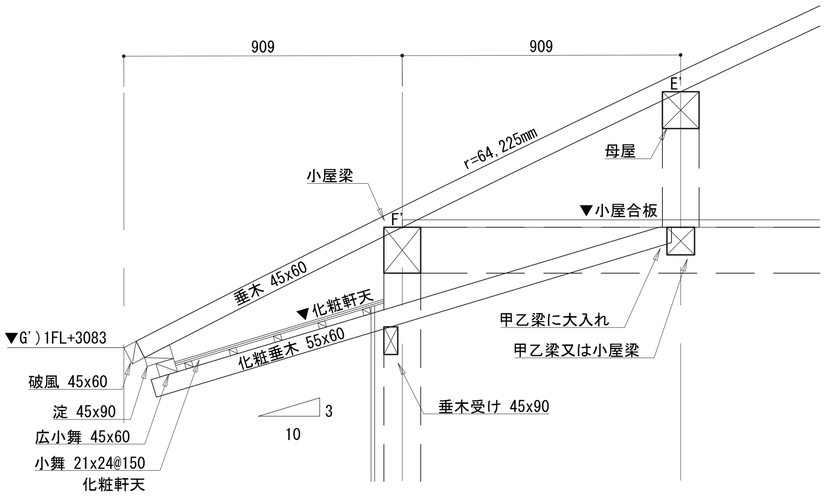

## 軒先断面詳細 タイプB

縮尺：1/10(A1) 1/20(A3)



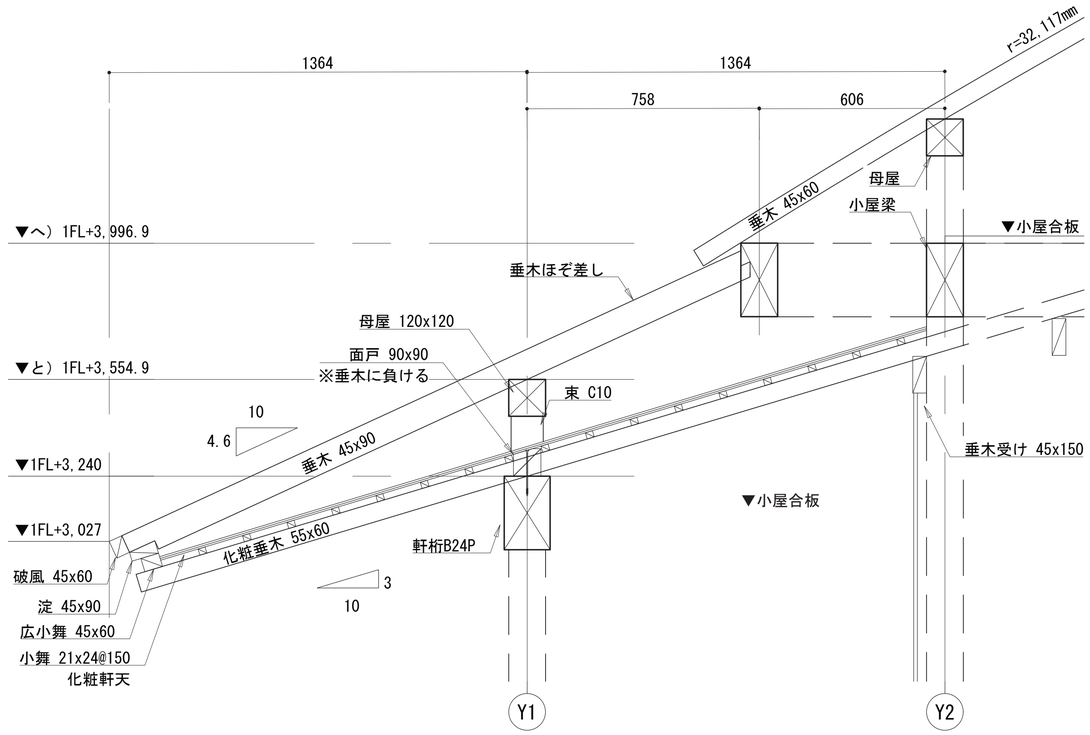

## 軒先断面詳細 タイプA

縮尺：1/10(A1) 1/20(A3)



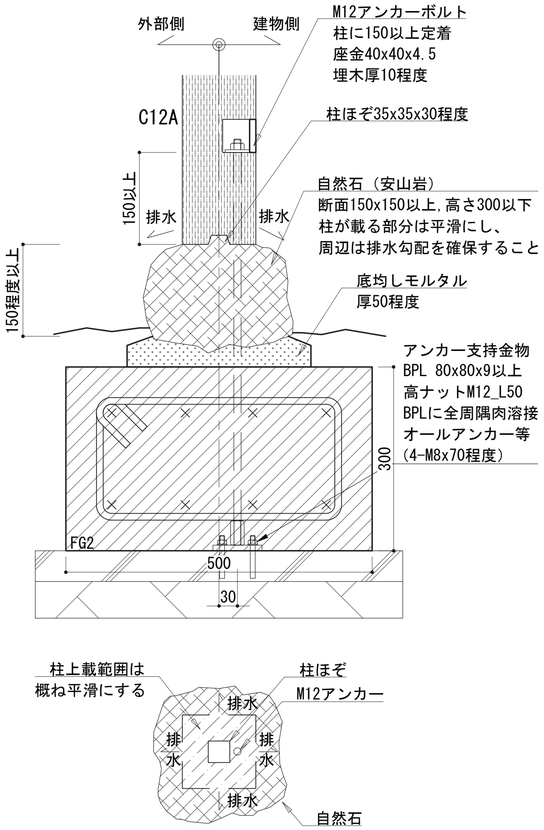

## 軒先断面詳細 タイプC

縮尺：1/10(A1) 1/20(A3)

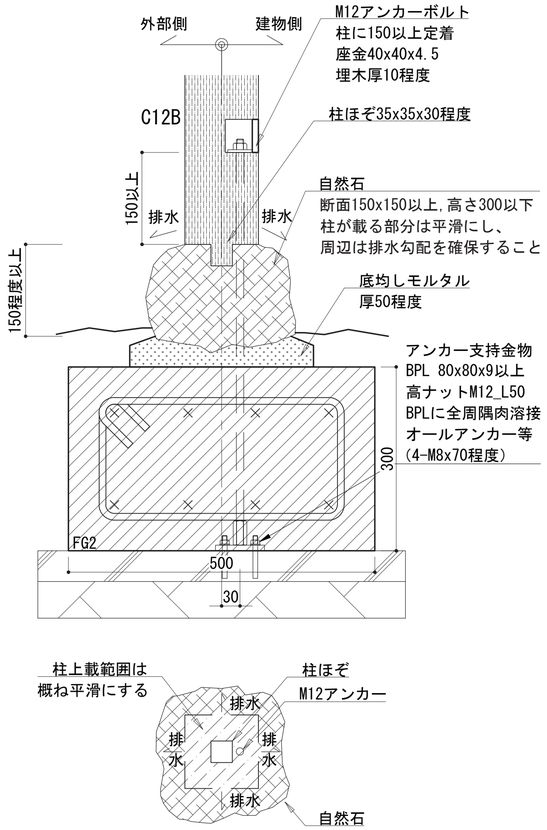



| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号 株式会社KAP 東京都千代田区富士見２－４－９ 1階<br>管理技術者 桐野 康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者 萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者 池谷 聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者 松本 洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）<br>垂木詳細図 A1:1/10 A3:1/20<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-32<br>117<br>164 |

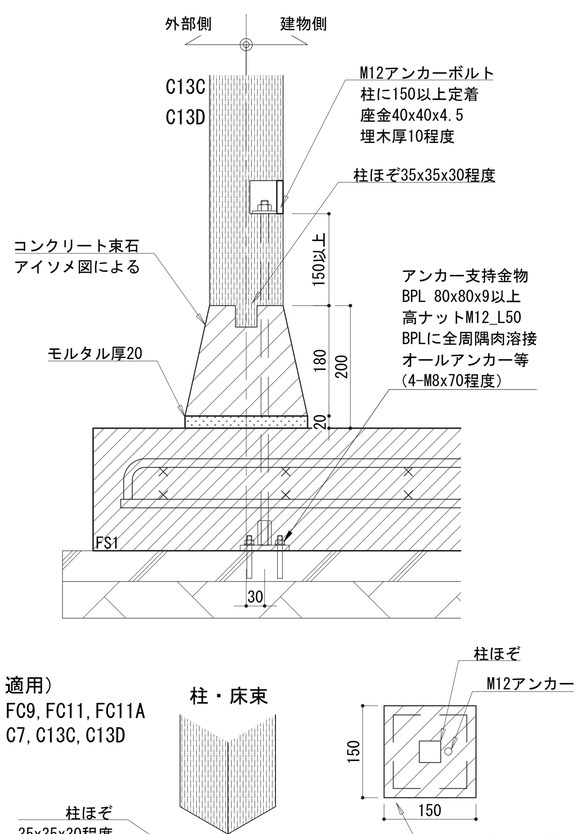
## C12A:新設礎石 納まり詳細



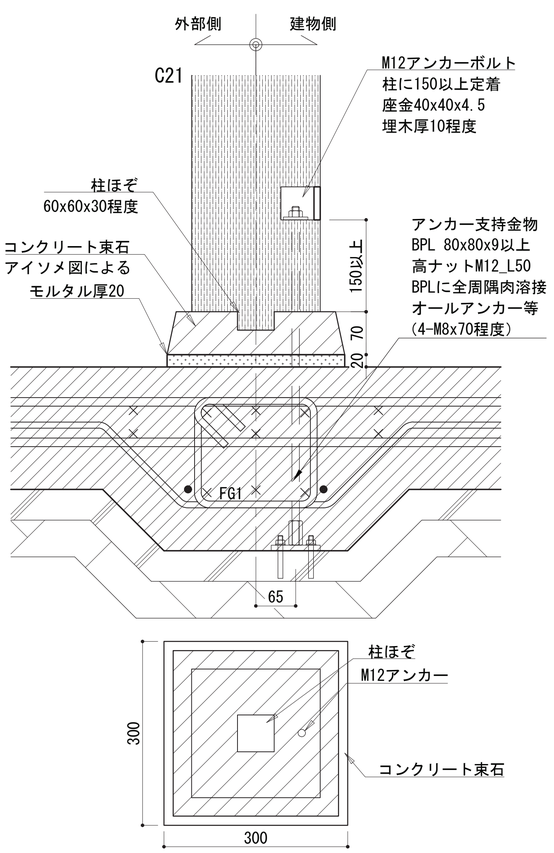

## C12B:既存礎石 納まり詳細



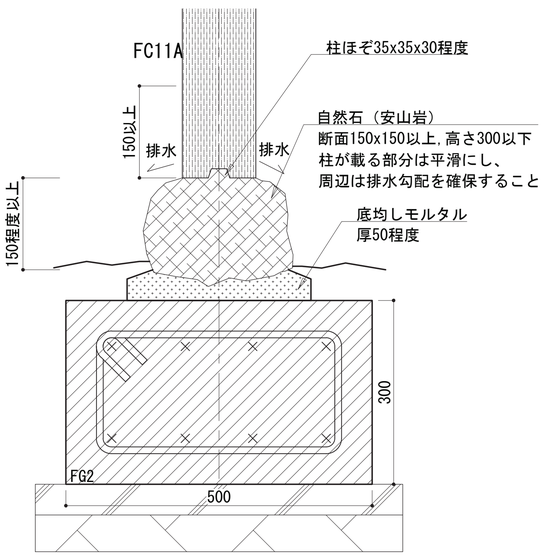

## C13C:束石 納まり詳細



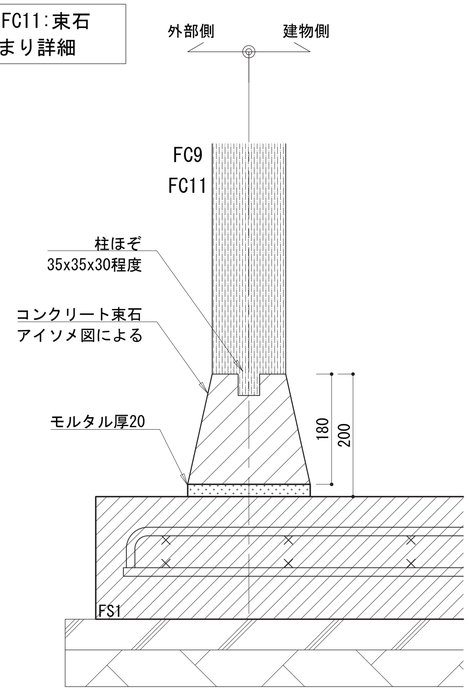

## C21:束石 納まり詳細




## FC11A:束石 納まり詳細

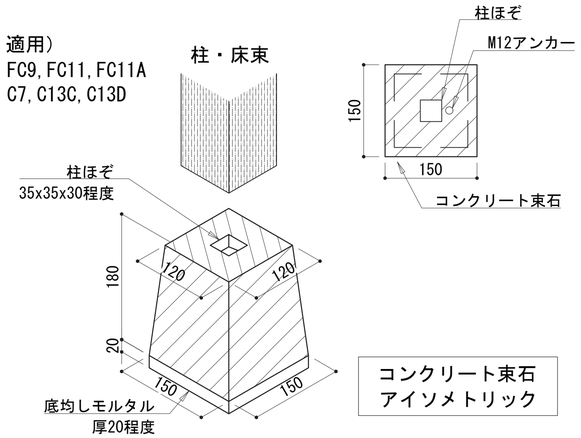



## FC9,FC11:束石 納まり詳細



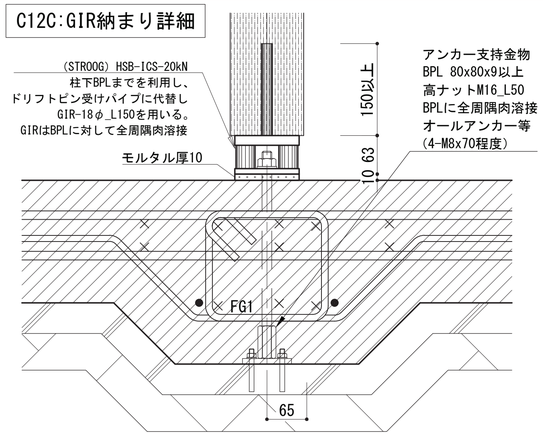

適用）
FC9,FC11,FC11A
C7,C13C,C13D

## 柱・床束



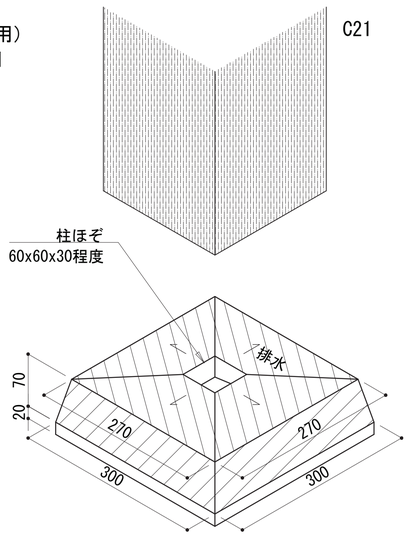

## コンクリート束石 アイソメトリック

## C12C:GIR納まり詳細




## コンクリート束石 アイソメトリック

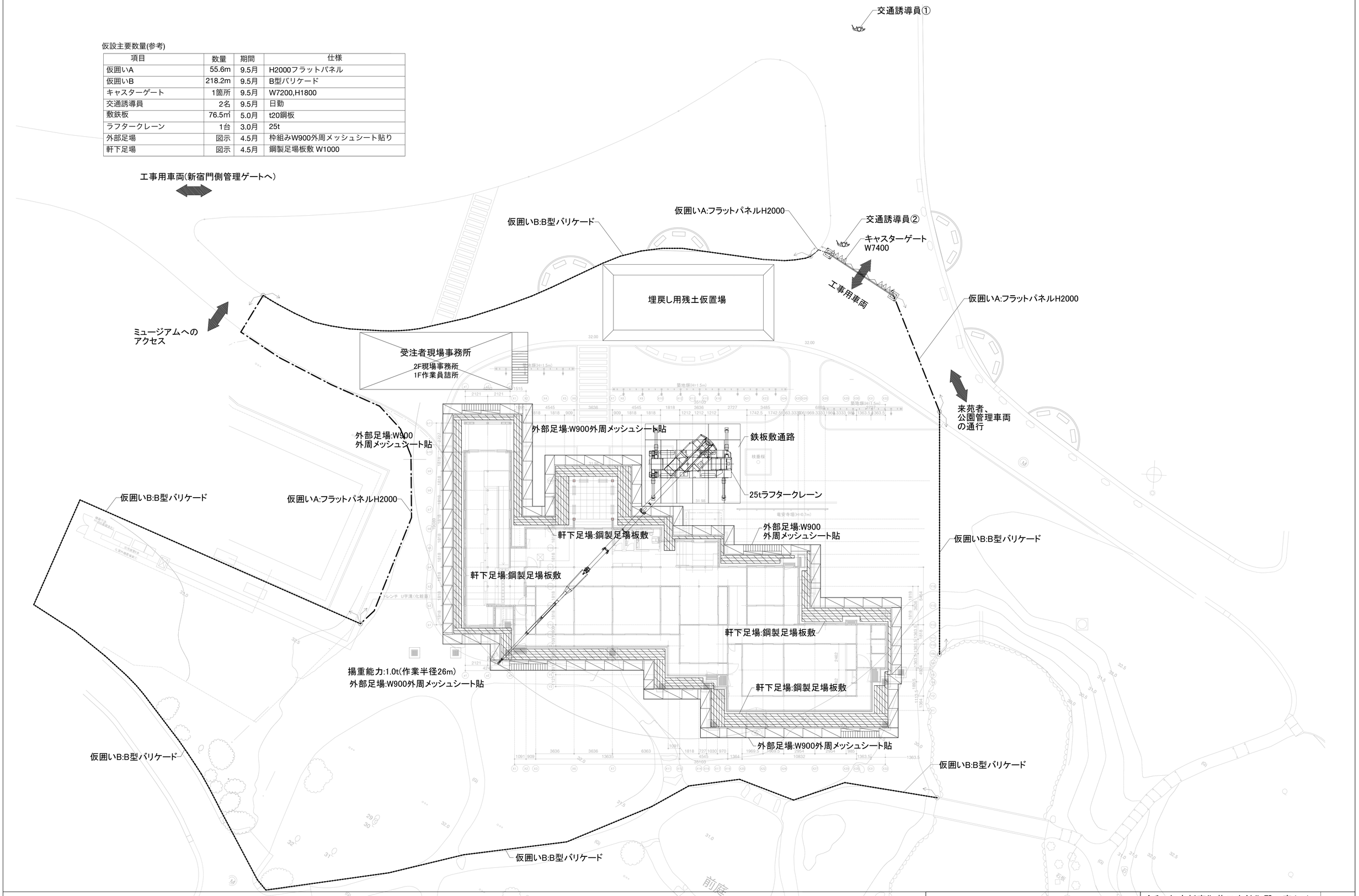
適用）
C21




| | | | |
|---|---|---|---|
| KAP<br>一級建築士事務所第56306号　株式会社KAP　東京都千代田区富士見２－４－９　１階<br>管理技術者　桐野　康則（一級建築士第272618号）<br>構造主任技術者　萩生田秀之（一級建築士第341678号）<br>担当技術者　池谷　聡史（一級建築士第367949号） | 香山建築研究所<br>KOHYAMA ATELIER<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）<br>一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10 UT本郷3F<br>意匠主任技術者　松本　洋平（一級建築士第367970号） | 令和7年度新宿御苑日本館御殿工事（Ⅰ）<br>柱脚-束石詳細図　A1:1/5 A3:1/10<br>環境省新宿御苑管理事務所 | S-33<br>118<br>164 |

仮設主要数量(参考)

| 項目 | 数量 | 期間 | 仕様 |
|---|---|---|---|
| 仮囲いA | 55.6m | 9.5月 | H2000フラットパネル |
| 仮囲いB | 218.2m | 9.5月 | B型バリケード |
| キャスターゲート | 1箇所 | 9.5月 | W7200,H1800 |
| 交通誘導員 | 2名 | 9.5月 | 日勤 |
| 敷鉄板 | 76.5㎡ | 5.0月 | t20鋼板 |
| ラフタークレーン | 1台 | 3.0月 | 25t |
| 外部足場 | 図示 | 4.5月 | 枠組みW900外周メッシュシート貼り |
| 軒下足場 | 図示 | 4.5月 | 鋼製足場板敷 W1000 |




香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事(Ⅰ)

仮設備等計画図　A1：S=1/160　A3：S=1/320

環境省新宿御苑管理事務所

参考
K-01
**